

# 2024年度 事業計画書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

社会福祉法人  
聖隷福祉事業団



# 2024年度 事業計画書 目次

2024年度事業計画にあたり	… 1
聖隷福祉事業団 理念～目標体系～中期事業計画	… 3
聖隷三方原病院	… 6
聖隷おおぞら療育センター	… 9
三方原ベテルホーム	… 11
聖隷浜松病院	… 13
聖隷淡路病院	… 16
聖隷横浜病院	… 18
聖隷佐倉市民病院	… 21
浜松市リハビリテーション病院	… 24
聖隷袋井市民病院	… 26
<保健事業部> 聖隷健康診断センター 聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター 聖隷健康サポートセンターShizuoka	… 28
高齢者公益事業部	… 31
浜名湖エデンの園	… 33
宝塚エデンの園	… 35
松山エデンの園	… 37
油壺エデンの園	… 39
浦安エデンの園	… 41
横浜エデンの園	… 43
<聖隷藤沢ウェルフェアタウン> 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園二番館 藤沢愛光園 聖隷デイサービスセンター藤沢 聖隷ケアプランセンター藤沢 聖隷訪問看護ステーション藤沢 聖隷ヘルパーステーション藤沢	… 45
奈良ニッセイエデンの園	… 49
松戸ニッセイエデンの園	… 54
明日見らいふ南大沢	… 58
在宅・福祉静岡ブロック	… 60
<和合せいれの里> 和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき 障害者支援施設みんとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター 聖隷こども発達支援センター和合 聖隷チャレンジ工房和合 障害者相談支援事業所くすのき 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和合 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉	… 62
<聖隷ケアセンター初生> 和合愛光園初生サテライト 聖隷デイサービスセンター初生	… 66
<聖隷ケアセンター高丘> 訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 聖隷ケアプランセンター浜松	… 68
聖隷コミュニティケアセンター	… 70
<聖隷厚生園信生> 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江 聖隷ヘルパーセンター浜松北	… 72

【 対応する拠点区分 (会計) 】

聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター あさひ 児童発達支援センターひかりの子
三方原ベテルホーム
聖隷浜松病院
聖隷淡路病院
聖隷横浜病院
聖隷佐倉市民病院
浜松市リハビリテーション病院
聖隷袋井市民病院
保健事業部 聖隷健康診断センター 聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター 聖隷健康サポートセンターShizuoka
高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 入園金会計 宝塚エデンの園 入園金会計 松山エデンの園 入園金会計 油壺エデンの園 入園金会計 浦安エデンの園 入園金会計 横浜エデンの園 入園金会計 藤沢エデンの園一番館 入園金会計 藤沢エデンの園二番館 入園金会計
浜名湖エデンの園 施設有料 浜名湖エデンの園 施設診療
宝塚エデンの園 施設有料 宝塚エデンの園 施設診療
松山エデンの園 施設有料
油壺エデンの園 施設有料 油壺エデンの園 施設診療
浦安エデンの園 施設有料
横浜エデンの園 施設有料
藤沢エデンの園一番館 施設有料 藤沢エデンの園二番館 施設有料 藤沢愛光園
-
-
高齢者公益事業部 聖隷クリニック南大沢
-
和合せいれの里 (介護) 和合せいれの里 (児童) 和合せいれの里 (障害)
聖隷ケアセンター初生
聖隷リハビリプラザIN高丘 高丘地区在宅複合事業 (公益)
聖隷コミュニティケアセンター
聖隷厚生園信生寮

## 2024年度 事業計画書 目次

<p>&lt; 聖隷厚生園讃栄 &gt;            聖隷厚生園讃栄寮            生活訓練事業所ナルド … 75            地域活動支援センターナルド            障害者相談支援事業所ナルド            福祉共同住宅ファーストステップ            聖隷厚生園ナルド工房 … 77</p>	<p>聖隷厚生園讃栄寮            聖隷厚生園障害在宅事業（浜松）</p> <p>聖隷厚生園ナルド工房</p>
<p>&lt; 浜松学園 &gt;            聖隷チャレンジ工房浜松学園 … 79            聖隷ワース工房浜松学園            聖隷ステップサポート            もくせいの里 … 82</p>	<p>浜松学園</p> <p>もくせいの里</p>
<p>&lt; いなさ愛光園 &gt;            いなさ愛光園特別養護老人ホーム            いなさ愛光園デイサービスセンター            聖隷ケアプランセンターいなさ … 84            いなさ愛光園在宅介護支援センター            いなさ愛光園ヘルパーステーション            ほのぼのケアガーデン</p>	<p>いなさ愛光園</p>
<p>&lt; 聖隷ケアセンターいなさ &gt;            地域包括支援センター細江 … 87            聖隷リハビリプラザいなさ</p>	<p>引佐地区在宅複合事業            聖隷リハビリプラザいなさ</p>
<p>&lt; 聖隷ケアセンター三方原 &gt;            訪問看護ステーション三方原 … 89            聖隷ケアプランセンター三方原            聖隷デイサービスセンター三方原</p>	<p>三方原地区在宅複合事業            聖隷デイサービスセンター三方原</p>
<p>聖隷訪問看護ステーション三ヶ日 … 91            聖隷ケアプランセンター三ヶ日</p>	<p>聖隷訪問看護ステーション三ヶ日</p>
<p>浜松市生活自立相談支援センターつながり … 93</p>	<p>浜松市生活自立相談支援センターつながり</p>
<p>&lt; 浜北愛光園 &gt;            浜北愛光園特別養護老人ホーム            浜北愛光園デイサービスセンター            障害者相談支援事業所浜松東 … 95            聖隷ケアプランセンター浜北            地域包括支援センター北浜            訪問看護ステーション貴布祢            聖隷チャレンジ工房浜北            生活介護事業所きらめき</p>	<p>浜北愛光園</p>
<p>&lt; 森町愛光園 &gt;            森町愛光園特別養護老人ホーム            森町愛光園デイサービスセンター … 98            聖隷ケアプランセンター森町            森町愛光園ホームヘルパーステーション            森町愛光園天宮サテライト            聖隷放課後クラブはなえみ森町</p>	<p>森町愛光園（介護）            森町愛光園（障害児者）</p>
<p>&lt; 聖隷びゅあセンター磐田 &gt;            聖隷こども発達支援センターかるみあ            聖隷放課後クラブはなえみ磐田            相談支援事業所磐田みなみ … 100            聖隷チャレンジ工房磐田            磐田市発達支援センターはあと            磐田市子育て支援総合センターのびのび            磐田市南部地域包括支援センター            磐田市南部障害者相談支援センター            磐田市地域活動支援センター</p>	<p>聖隷びゅあセンター磐田</p>
<p>&lt; 浅田地区在宅複合事業 &gt;            訪問看護ステーション浅田 … 103            聖隷ケアプランセンター浅田</p>	<p>浅田地区在宅複合事業</p>
<p>聖隷こども園わかば … 105</p>	<p>聖隷こども園わかば</p>
<p>聖隷こども園桜ヶ丘 … 107</p>	<p>聖隷こども園桜ヶ丘</p>
<p>聖隷こども園ひかりの子 … 109</p>	<p>聖隷こども園ひかりの子</p>
<p>聖隷こども園めぐみ … 111</p>	<p>聖隷こども園めぐみ</p>
<p>聖隷浜松病院ひばり保育園 … 113</p>	<p>聖隷浜松病院ひばり保育園</p>
<p>聖隷のあ保育園 … 115</p>	<p>聖隷のあ保育園</p>
<p>こうのとり保育園 … 117</p>	<p>こうのとり保育園</p>
<p>聖隷こども園こうのとり東 … 119</p>	<p>聖隷こども園こうのとり東</p>
<p>聖隷こども園こうのとり豊田 … 121</p>	<p>聖隷こども園こうのとり豊田</p>
<p>&lt; 聖隷こうのとり富丘 &gt;            聖隷こども園こうのとり富丘 … 123            聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘            聖隷訪問看護ステーション富丘</p>	<p>聖隷こうのとり富丘</p>
<p>在宅・福祉関東ブロック … 125</p>	<p>-</p>
<p>&lt; 浦安市高洲高齢者福祉施設及び            猫実高齢者デイサービスセンター &gt;            浦安市特別養護老人ホーム … 127            浦安市ケアハウス            浦安市高洲高齢者デイサービスセンター            浦安市猫実高齢者デイサービスセンター</p>	<p>浦安市特別養護老人ホーム（特養）            浦安市特別養護老人ホーム（短期入所）            浦安市高洲高齢者デイサービスセンター            浦安市ケアハウス            浦安市猫実高齢者デイサービスセンター</p>

## 2024年度 事業計画書 目次

浦安愛光園 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安	… 130
浦安ベテルホーム	… 132
聖隷訪問看護ステーション浦安	… 134
浦安市高洲地域包括支援センター	… 136
＜松戸愛光園＞ 松戸愛光園特別養護老人ホーム 松戸愛光園デイサービスセンター 松戸愛光園ケアプランセンター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸	… 137
＜横須賀愛光園＞ 横須賀愛光園特別養護老人ホーム 横須賀愛光園デイサービスセンター 西第二地域包括支援センター 聖隷ヘルパーステーション横須賀 聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀	… 140
在宅・福祉関西ブロック	… 143
＜宝塚せいの里＞ 宝塚すみれ栄光園特別養護老人ホーム 宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターすみれ 宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター	… 145
ケアハウス宝塚	… 147
結いホーム宝塚	… 149
宝塚栄光園	… 151
＜聖隷ケアセンター宝塚＞ 聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター	… 153
＜聖隷ケアセンター宝塚＞ 聖隷訪問看護ステーション宝塚 聖隷ケアプランセンター宝塚 逆瀬川地域包括支援センター	… 154
聖隷逆瀬台デイサービスセンター 聖隷デイサービスセンターあゆむ 聖隷デイサービスセンター結い	… 155
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	… 159
＜花屋敷せいの里＞ 花屋敷栄光園特別養護老人ホーム 花屋敷デイサービスセンター 花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷 聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷	… 161
ケアハウス花屋敷	… 163
聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸	… 165
＜聖隷カーネーションホーム＞ 聖隷カーネーションホーム特別養護老人ホーム 聖隷カーネーションホームデイサービスセンター 聖隷カーネーションホーム デイサービスセンターうつつこ 聖隷在宅介護支援センター淡路 聖隷ケアプランセンター淡路	… 166
＜淡路栄光園＞ 淡路栄光園特別養護老人ホーム デイサービスセンター淡路	… 168
＜聖隷ケアセンター津名＞ 聖隷訪問看護ステーション淡路 聖隷ケアプランセンター淡路第二 聖隷ヘルパーステーション淡路 聖隷ライフサポート津名	… 170
聖隷こども園夢舞台	… 172
野上あゆみ保育園	… 174
野上児童館	… 176
逆瀬川あゆみ保育園	… 177
御殿山あゆみ保育園	… 179
御殿山児童館	… 181
在宅・福祉奄美ブロック	… 182
＜奄美佳南園＞ 奄美佳南園特別養護老人ホーム 奄美佳南園デイサービスセンター 奄美佳南園在宅介護支援センター 奄美佳南園ホームヘルプ事業所 奄美佳南園訪問入浴事業所 奄美佳南園春日デイサービスセンター 聖隷チャレンジ工房カナン	… 184
春日保育園	… 187
のぞみ園	… 189
聖隷かがやき	… 191
法人本部	… 193

浦安愛光園
浦安ベテルホーム
聖隷訪問看護ステーション浦安
浦安市高洲地域包括支援センター
松戸愛光園
横須賀愛光園
-
宝塚すみれ栄光園
ケアハウス宝塚
結いホーム宝塚
宝塚栄光園
宝塚第二地区中州在宅複合事業（社福）
宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益）
宝塚第二地区逆瀬台在宅複合事業（社福）
聖隷デイサービスセンター結い
聖隷コミュニティケアセンター宝塚
花屋敷栄光園
ケアハウス花屋敷
北神戸地区在宅複合事業（公益）
聖隷カーネーションホーム
淡路栄光園
淡路地区在宅複合事業（社福） 淡路地区在宅複合事業（公益）
聖隷こども園夢舞台
野上あゆみ保育園
逆瀬川あゆみ保育園
御殿山あゆみ保育園
-
奄美佳南園
春日保育園
のぞみ園
聖隷かがやき
法人本部

## 2024年度 事業計画「職員一人ひとりが輝き最高の質のサービスを提供する」

### はじめに

2023年は、新型コロナウイルスの指定感染症の位置づけが変更となり、新たなスタイルでの生活が送られるようになった。感染症流行期においては、様々な制限を強いられる中、全職員が職務に真摯に取り組み、利用者へのサービスを提供し続けることができたことに深く感謝を申し上げます。一方で、ウクライナ侵攻や円安に伴う物価高騰が続き、法人の事業においても、非常に大きな影響を強いられることとなった。

2024年度は、医療と福祉の連携強化、DXのさらなる推進、人材の確保など、直面する課題やニーズへの対応が求められている。その中で、これまで聖隷が事業を展開し積み上げてきた利用者からの信頼をさらに高めていくため、事業団全体で社会の変化に柔軟に対応することにより、最高の質のサービスを提供することを目指していく。

(質の高い事業を行う)

### 社会福祉法人として最高の質を追求した事業を展開する

- ・全事業において質の高いサービスの追求と提供
- ・業務の効率化（内容や運用の見直し）を図り、超勤削減やワークライフバランスを推進し健康経営の実践
- ・医療と福祉の連携を強化し、利用者サービスの充実
- ・地域包括ケアシステム※1を推進するための事業連携の再構築
- ・環境に配慮した事業運営の推進（カーボンニュートラル、GX※2、CO<sub>2</sub>削減、再生可能エネルギー導入）

(組織力を活かす)

### 地域ごとの課題解決に繋がる事業部間の連携を構築する

- ・地域課題に対応するため、事業団内連携および他法人との連携の推進
- ・聖隷福祉総合相談センターに、医療・保健などの機能充実を図った総合相談センターの構築
- ・児童福祉事業のさらなる推進（2024年度 浜松市医療的ケア児等相談支援センターの受託）
- ・医療事業における病院間の連携を推進し強化
- ・三方原地区における再開発計画の始動

### 人材の確保と育成を推進する

- ・各地域における採用競争力の強化
- ・聖隷のみらいを担う人材の育成
- ・全ての職員に対し健康経営の推進
- ・働き方改革の実行とコンプライアンスの徹底
- ・理念の継承とエンゲージメント（やりがい・誇り）を高めるための仕組みづくり

## 大規模広域法人としての強みを活かした仕組化を推進する

- ・ブランディング戦略の強化と推進
- ・税務・法務等の管理機能の強化とコンプライアンスの徹底
- ・関連業務の集約化（シェアードサービス）を推進し業務効率の向上
- ・就労支援を強化し、地域社会へ送り出す体制の充実と障がい者雇用を促進するための働く場の創出

（生産性の高い運営体制を築く）

## 聖隷 DX を推進する

- ・情報の共有と DX 化を推進し、利用者サービスの向上
- ・聖隷 DX を推進するためのインフラの整備（ネットワーク環境、モバイル端末の増設等）
- ・SEIREI アプリの普及を促進
- ・報酬改定への迅速な対応
- ・職員の情報リテラシー（知識）の向上

## ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する

- ・健康経営を実践するためのチェック機能の確立と推進
- ・人生における様々なライフイベントに対応した多様な働き方の推進
- ・聖隷で働く全ての職員（業務委託・派遣職員含む）が生き生きと働くことのできる環境の再構築

（財務体質を強化する）

## 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

- ・事業を永續するための投資計画（建て替え、大規模修繕）の策定
- ・原材料費の高騰による経営への影響に対し、柔軟かつ迅速な経営改革の実践
- ・新規投資計画の管理と投資後の実績検証の継続

聖隷福祉事業団の提供するサービスは、地域や利用者の求める声に耳を傾け対応していく必要があり、その原動力となるのは職員一人ひとりの活躍であり、それなくして最高の質のサービスは成し得ないとする。最高のパフォーマンスを発揮できるよう、人材の確保と育成、健康経営の実践に力を入れて取り組んでいく。

理事長 青木善治

---

※1 地域包括ケアシステム：医療においてはより「生活」に配慮した質が高い医療を、介護においてはより「医療」の視点を含めたケアマネジメント。必要不可欠となる在宅医療・介護の連携のさらなる推進。  
（引用：第 221 回 社会保障審議会 介護給付費分科会資料）

※2 GX：グリーントランスフォーメーションの略。化石燃料をできるだけ使わず、再生可能エネルギーなどのクリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のこと。

## 基本理念

キリスト教精神に基づく

### 「隣人愛」

聖隷福祉事業団が事業を行う上で  
根底にある考え方

## 使命

聖隷福祉事業団の  
存在意義

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

## Vision2025

2025年聖隷福祉事業団はこうなっている

地域連携体制の強化・デジタル改革・  
経営基盤の安定化を実現し  
未来につなげる地域共生社会をつくる

## 中期事業計画2021-2025

各事業中期事業計画

Vision2025へ到達するために  
7つの重要課題およびテーマを  
提示し5年間かけて達成を  
目指す計画

## 事業団年度目標

各事業年度目標

事業団および  
各事業の毎年度の  
目標

## 職員行動指針

使命をもとに職員が共有し  
実践する具体的な行動を示した指針

わたしたちは、ひとりひとりの命と尊厳を守ります

わたしたちは、サービスを求めるすべての人々に、誠実かつ献身的に仕え、その自立を支援します

わたしたちは、「保健・医療・福祉・介護」サービスを通して社会に貢献し、地域の人々との強い絆を育みます

わたしたちは、先駆的・開拓的精神で新たなニーズの発見に努め、常に課題に挑戦します

わたしたちは、ひとりひとりが専門職としての倫理と誇りを持ち、最高の技術を提供します

# Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・経営基盤の安定化を実現し、未来につなげる地域共生社会をつくる

## A 2025年、聖隷福祉事業団はこうなっている

## B 重要課題

### 事業

#### 質の高い事業を行う

地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し、また先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦し、最高の質を追求した事業を展開している。



1 社会福祉法人として最高の質を追求した事業を展開する

### 組織

#### 組織力を活かす

地域課題の解決に繋がる事業部間連携や聖隷の質と規模を維持する人材の確保ができています。大規模広域法人に適した購入や物流、情報システムを構築し、大規模災害に対する連携の強化等、より一層の協働した組織となっている。



2 地域ごとの課題解決に繋がる事業部間の連携を構築する

3 人材の確保と育成を推進する

4 大規模広域法人としての強みを活かした仕組化を推進する

### 運営

#### 生産性の高い運営体制を築く

ICT・AI・ロボット等を活用し、少人数であっても質の高いサービスを提供できる効率性の高い業務体制を構築している。外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティが進み、働きがいのある仕事を推進している。



5 聖隷DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する

6 ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する

### 財務

#### 財務体質を強化する

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境を学びにし、需要減少時でも安定する経営構造を構築している。また、予期せぬ経営環境の急変にも揺るがない骨太の財務体質となっている。



7 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

**C** テーマ

- ・地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し挑戦する
- ・先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦する

- ・事業部を越えた職員間で情報交換しやすい環境、検討する場を設ける等、地域ごとで事業部間が連携し、利便性の向上や課題解決に繋がる仕組みを構築する

- ・生産年齢人口が減少する中、需要拡大が見込まれる聖隷の事業を支える人材確保を図る
- ・聖隷の質を体現・継承できる「聖隷人」の育成を推進する  
※聖隷人（せいれいびと）  
基本理念および使命を理解し、職員行動指針を実践している人

- ・大規模広域法人としてのメリットを活かし、人事・資材・資金・情報システムなどの一層の効率性を追求する
- ・広域な大規模災害に対する BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）対応と連携を強化する

- ・ICT、AI、ロボット等を活用して少人数であっても質の高いサービスを提供できる、効率性の高い業務体制を追求する
- ・事業部を越えた利用者情報の共有ネットワークシステムの整備、データヘルスサービスなど医療・介護・健康分野の情報化を推進する

- ・健康経営の推進、働き方改革等の制度へ対応するとともに、外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティを推進する

- ・成長性：サービス活動収益の成長率 前年比 2%以上
- ・収益性：税引前当期活動増減差額 年 15 億円以上
- ・効率性：総資産に対し税引前当期活動増減差額率（ROA）年 1%以上
- ・安定性：純資産比率 45%以上（2025 年度末）



**事** 生活困窮者支援などが当たります。



**事** 災害時の食事提供や健康寿命延伸に向けた栄養指導などが当たります。**組** 災害時にも安心して食事の提供ができる体制が必要です。BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）策定など準備を進めます。



**事** 新たなニーズや制度の狭間など支援が届いていない方への支援、より質の高い医療福祉の提供を目指します。



**事** 健康、介護予防教育や生活困窮の負の連鎖に対する教育支援などが当たります。**組** 優秀な人材の確保、育成は事業の質を維持するうえで極めて重要です。今後も人材育成に注力します。



**組** 育児支援など女性が働きやすい職場をつくと共に女性の経営職の増加を目指します。**運** 職員へより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。



**財** エネルギー使用量を削減する取り組みを継続します。



**運** 職員へのより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。  
**財** 地域に必要な事業は行わねばなりません。法人として健全な成長を目指します。



**運** 医療福祉の領域での DX をはじめとした情報化やロボットなど自動化を推進し、生産性の向上と新たな価値創造に繋げて強みにしていきます。**財** 強靱で、より持続可能な施設設備を維持する管理を推進します。また DX やロボットなど先進的な技術の導入を推進します。



**運** 地域共生社会の実現を先導する組織として、内部でも年齢、性別、障がい、外国人などに関わらず活躍できるダイバーシティを推進します。



**事** 住み続けられるまちづくりは地域共生社会の理念と同一であり、地域包括ケアシステムなどを用いて社会福祉法人に求められています。



**組** 環境への影響を配慮された物品の使用や電気ガス等の効率的な使用が求められます。**財** 将来にわたり社会を支えていける様に、事業の持続性を確立します。



**組** 台風や大雨の激甚化など温暖化による大規模災害が増加していますので、災害に対する準備が一層必要になります。



**事** 子ども達により良い環境を提供することも私たちの大切な事業となります。



**組** 各所との連携体制の構築は最も重要なテーマの一つです。内部の連携強化と共に、外部組織とも連携を強めていきます。

# 総合病院 聖隷三方原病院

当院の歴史は前身である1942年の聖隷保養農園附属病院設立まで遡ると、2024年度で82年目を迎えることになる。90周年・100周年に向けて、当院がどのような役割を担い、市民及び利用者の皆さんの期待に応えていくのか、極めて重要な時期に差し掛かっていると認識される。2023年7月には荻野和功前病院長から山本貴道現病院長体制に移行するという病院にとっては大きな変化があった。

山本院長の病院経営の構想は、「隣人愛」という基本理念を基軸として「聖隷発祥の地から日本一信頼される病院を創る」である。医療安全と質向上の面ではTQM (Total Quality Management) センターを発足させ、満足度の高い医療を提供できるように包括的に管理する部門とする。またBSC (Balanced Score Card) を導入することで、職員一人一人に到達目標を意識させる。これら「医療の安全と質」及び「安定した経営基盤」は車の両輪と位置付けている。今後本格的に展開される三方原地区再開発に向けた元年となるよう舵を切っていく。

## 【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

## 【経営方針】

聖隷発祥の地から日本一信頼される病院を創る

## 【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

### 1. 利用者から信頼され選ばれ続ける病院

(ア) 利用者満足度の向上	①新入院患者数	1,350人以上/月
	②患者満足度調査実施回数	4回以上/年
	③病床稼働率(おおぞら除く) (おおぞら・精神・結核除く)	81.8%以上 88.7%以上
(イ) 断らない医療の推進	①救急車の重症症例応需率	95.0%以上
	②不応需救急車の緊急度調査	調査実施
(ウ) 地域連携の推進	①紹介初診患者数	1,100件以上/月
	②退院時共同指導料算定数	13件以上/月
	③紹介率・逆紹介率	85%・107%以上

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

### 2. 地域から求められる専門性の高い医療の提供

(ア) ブランディング活動の強化	①プレスリリース数・メディア掲載数	2件・1件以上/月
	②HP閲覧数	40,000回以上/月
	③LINE登録数	12,000人以上

	④市民公開講座参加者数	平均80人以上/回
(イ) 聖隷浜松病院との連携推進	①病院連携グループの構築	研修会の開催
(ウ) 三方原地区再開発計画の検討	①三方原地区再開発計画の検討開始	準備室稼働
(エ) 高度救命救急センターの機能充実	①C3病棟47床の稼働率	60%以上
	算定率	80%以上
	1日算定患者数	23人以上
(オ) 手術室の効率的活用	①手術件数	660件以上/月
	②全麻手術件数	310件以上/月
	②手術室の稼働率	63%以上
	③デイスージェリーの設置検討	検討実施
(カ) 専門性の高い医療機能の充実	①院内がん登録件数	1,810件以上/年
	②がん遺伝子パネル検査症例数	21件以上/年
	③高難度新規医療技術(手術件数)	95件
(キ) 聖隷おおぞら療育センター連携推進三方原ベテルホームの機能充実	①ベテルの受診依頼に対する応需率	100%
	②受診まで1時間以上要した件数	10%以下
(ク) 精神科入院機能の効果的活用	①C6病棟の稼働率・算定率	65%以上
		90%以上
	②C5病棟の稼働率・平均在院日数	50%以上
		40日以内
3. 安全で質の高い医療の提供		
(ア) 災害対応の強化	①DMATチーム数	チーム数5
	②非常時通信環境整備	通信機器1台増
	③防災訓練参加人数	延3,000名以上
(イ) 医療の安全と質の向上	①患者誤認件数	前年比20%減
	②IA件数(3b以上)	前年比20%減
	③患者あたり1日手指衛生回数	20回以上/人

「成長と学習」の視点(人材確保・成長のために)

#### 4. 働き方改革の推進

(ア) 医師採用の強化	①医師不足科の医師確保	救急・産婦・内科 各1名以上確保
	②専攻医の確保	5名以上
	③研修医のフルマッチ	100%
	④初期研修医～専攻医の残留率向上	2名以上
(イ) タスクシフトの推進	①必要な専門職の確保	薬剤師・看護補助 ・施設員の採用
	②看護師の採用	70名以上

③タスクシフトの件数	32件以上
④超過勤務時間	12.5h以下
⑤有休消化日数	12.0日以上

5. 働きがいのある職場環境づくり

(ア) 教育体制の充実	①職員満足度調査実施回数	4回以上/年
	②「教育への支援」4段階評価	75%以上
(イ) ハラスメントのない職場環境づくり	①ハラスメント防止の体制整備	委員会設置
	②職員満足度調査実施回数	4回以上/年
	③「ハラスメント防止活動・支援」 4段階評価	60%以上

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

6. 安定した経営基盤の確保

(ア) 予算の達成	①サービス活動収益伸び率	103.4%以上
	②サービス活動費用伸び率	103.9%以下
	③税引前当期活動増減差額率	0.8%以上

【数値指標】

サービス活動収益	24,300百万円	常勤換算職員数	1,547.6人
外来患者数	950人	外来単価	22,600円
入院患者数	全体 630人 <一般 573人・精神 55人・結核 2人>		
入院単価	全体 73,500円 <一般 77,900円・精神 29,000円・結核 40,000円>		
病床利用率	全体 81.8%<一般 88.7%・精神 52.9%・結核 10.0%>		
紹介率	85%	逆紹介率	107%

《医療保護施設・無料低額事業》

当院は、医療を必要とする要保護者に対して医療の給付を行うことを目的とする施設であり、また、経済的理由により適切な医療を受けられない人に対し、無料または低額で診療をおこなう事業を展開している施設でもある。2024年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な医療を受けやすい環境を整えていく。

《助産施設 聖隷三方原病院併設助産所》

助産事業は、シングルマザー等への経済的、精神的援助という観点においても意義のある制度である。2024年度も引き続き「みどりの通信」「院外ホームページ」等による地域への広報を図り、当制度対象者の利用しやすい環境を整えていく。

## 総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

おおぞら療育センターには大きく二つの機能がある。一つは重症心身障害児・者に関わる医療、生活支援、もう一つは脳性麻痺を中心とした小児運動リハビリで、そのどちらも、専門性の高い多職種が関わり、地域にはなくてはならないものとなっている。これまで、関係者の先進的な考えと、多大な労力により、事業として発展し、現在の規模に成長した。

その一方で、障害児・者を取り巻く様々な社会情勢の変化や課題に取り組む為には、既存の制度や体制における限界も見えてきた。事業の将来像を描くために、現状を正確に分析し、職員一体となって課題に取り組む必要がある。

2024年度は、引き続き、重心医療及び小児リハビリ医療に専門性を持つ医療者の育成、チームとしての多職種連携の強化、生活支援員の研修などを通じて利用者生活支援の質の向上を図る、また、在宅支援について、特にショートステイ、レスパイト入院の要望に答えられるような人的配置、病院全体としての連携体制の強化等、おおぞら療育センターの多様な人材を生かし、質の高い医療、生活を提供するよう取り組みたい。

### 【経営方針】

聖隷おおぞら療育センターは、施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個人の尊厳を護り、質の高い生活を提供します。

### 【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い障害児者支援の実践
  - ・利用者誤認による事故ゼロに向けての対策強化（ICT導入）
  - ・総合病院の実施する障害福祉サービス施設としての感染対策の在り方を検討
  - ・多職種・多職場の対話による連携強化
  - ・個別支援計画に基づいた施設における利用者の生活設計の検討
2. 全診療科協力のもとでの専門医療の提供【診療体制の強化】
  - ・障害医療の専門医師の育成
  - ・入所利用者の病院受診への対応検討
  - ・成人入所者の診療体制の構築
3. 職員教育の充実
  - ・医療事故防止のための職員教育の徹底
  - ・生活支援員、看護師等の専門職の人材確保
  - ・障害支援に対するプロフェッショナル意識の浸透
  - ・多職種によるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）勉強会の継続
  - ・施設運営についての意識向上

#### 4. 地域から求められる施設機能の整備

- ・ショートステイ／レスパイト入院の地域ニーズへの対応を継続
- ・児童発達支援センター機能の検証及び事業方向性の検討
- ・障害福祉サービス通所部門の事業継続のための体制作り
- ・障害児者歯科外来の診療継続
- ・事業継続計画（BCP）の精度強化
- ・緊急時のサービス利用受入れルールの検討
- ・提供する各サービスや施設方針の見える化
- ・在宅療養者支援のための多施設協同カンファレンスの継続
- ・リハビリテーションの更なる充実

#### 5. 業務改革の更なる推進【安定した経営基盤の確保】

- ・入所希望はあるが在宅介護を継続する利用者が多い中で、入所者120名とショートステイ／レスパイト入院20名でも収益が出せる体制作り
- ・ICT活用の更なる推進
- ・中長期的な施設運営計画の検討

#### 【数値指標】

	入所	短期入所	ひかりの子	あさひ
サービス活動収益	2,010,030 千円	132,470 千円	67,400 千円	121,800 千円
常勤換算職員数	179.4 人		9.9 人	17.4 人
入院患者・利用者数	127 人	11 人	—	—
入院単価（医療）	31,500 円	—	—	—
外来患者・利用者数	23 人	—	14 人	35 人
外来単価（医療）	4,800 円	—	—	—
単価（福祉）	9,950 円	33,000 円	16,600 円	13,300 円

# 聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2023 年度は、高い医療ニーズに対応できる組織体制の見直しとして、看護・介護課内に看護係を設置した。それにより医療、居宅等関係機関との連携をさらに強化することができ緊急ショートステイの当日受け入れ等も実施することができた。また前回の介護保険報酬改定において経過措置となっていた感染・災害に関する BCP（事業継続計画）を完成させ訓練を実施した。

2024 年度は、聖隷三方原病院事業部として事業計画に BSC（Balanced Score Card）手法を取り入れていく。利用者価値の視点として、地域社会に貢献できる事業を実施するため、利用者を対象とした満足度調査の評価と共に、新たに利用者家族への満足度調査も行っていく。価値提供行動の視点では、地域包括ケアシステムを更に深化・推進させるため、地域関係機関からの受け入れ体制を強化し、緊急入所（短期入所）を確実に受け入れていく。また安全・安心・快適で質の高いケアを提供するために、聖隷グループとの協働の更なる推進や ICT をより効果的に活用できる取り組みを行う。成長と学習の視点では、介護と医療の視点を持った人材を育成するために医療職と介護職の相互研修を行うとともに働き続けられる環境づくりを行っていく。財務の視点では、継続して利用者の期待に応えられるよう介護保険報酬改定への対応や年度予算の達成に注力していく。

## 【施設理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

## 【経営方針】

地域とつながり その人らしい暮らしを支える

## 【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点

### 1. 地域社会に貢献できる事業の実施

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| (ア) 利用者、家族の満足度の向上                | ①入所、短期入所、通所リハビリテーション<br>利用者の平均満足度 70%以上                                   |
| (イ) 地域における公益的な取り組みの実施            | ②利用者家族の満足度調査年 1 回以上の実施<br>①地域での介護予防教室等年 4 回以上の実施<br>②地域共生社会に沿った取り組み 1 件以上 |
| (ウ) 生活困窮者や身寄りがいない人等に対する<br>支援の推進 | ①無料定額事業利用率 10%以上<br>②身寄りがいない人等の受け入れマニュアルの<br>年度内完成                        |

「価値提供行動」の視点

### 2. 地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進

- |                                    |                        |
|------------------------------------|------------------------|
| (ア) 地域関係機関からの受け入れ体制強化              | ①緊急入所（短期入所）応需率 80%以上   |
| (イ) 在宅復帰・在宅生活継続を常に意識した<br>チームケアの提供 | ①在宅復帰・在宅療養支援等指標 80 点以上 |

### 3. 安全・安心・快適で質の高いケアの提供

(ア) 聖隷グループとの協働によるシームレスなケアの提供

- ①事業団内ケアマネジャーからの相談件数  
年間 90 件以上、全体比率 17%以上
- ②聖隷三方原病院から受け入れ 70 件以上
- ③通所リハビリテーションから事業団内  
通所介護への移行支援 2 名以上

(イ) ICT の活用推進

- ①職員の ICT 活用アンケート回収率 100%
- ②見守りシステム活用取り組み 3 件以上
- ③転倒・転落 IA 件数それぞれ 120 件以下
- ④ホームページ等の更新回数月 2 回以上

### 4. 安定的に事業継続ができる体制の構築

(ア) 感染・災害対策の強化

- ①感染対策研修への参加率 100%
- ②災害対策訓練への参加率 100%

「成長と学習」の視点

### 5. 医療と介護の視点を持った人材の育成

(ア) 老人保健施設の専門性を強化できる職員教育の実施

- ①医療職、介護職の相互理解のための  
取り組み 3 件以上
- ②認知症対応に関連した取り組み 2 件以上

(イ) 理念、経営方針、経営参画意識の浸透

- ①事業計画説明会参加率 100%
- ②理念における講演会参加率 100%

### 6. 働き続けられる職場環境づくり

(ア) 働きやすい職場づくり

- ①職員が交流できる機会年 2 回以上の実施
- ②職員満足度調査年 2 回以上の実施
- ③定着率 95%

「財務の視点」

### 7. 利用者の期待に応えられる経営管理

(ア) 介護保険報酬改定への対応

- ①サービス活動収益 837,000 千円以上

(イ) 年度予算の達成

- ①税引前当期純利益 5,000 千円以上
- ②人件費率 65.5%以下
- ③減価償却費率 6.1%以下

#### 【数値指標】

	入所（短期入所含む）	通所リハビリテーション	訪問リハビリテーション
利用者数/月	127 人	28 人	3 件
	入所 118 人	介護保険 27 人	
	短期入所 9 人	介護予防 1 人	
単価/人	15,600 円	13,000 円	9,000 円
サービス活動収益：	837,000 千円		常勤換算職員数： 92.8 人

# 総合病院 聖隷浜松病院

2023年度は「Teaming」をテーマに、院内そして事業団内連携も含め、職員間の心理的安全性を高めることで変化に対応できるチームの構築を目指した。新型コロナウイルス感染症は5類へ移行したが、感染者数が急増し第9波となった8月には、多くの陽性患者を受け入れた。コロナ専用病床を廃止し病棟閉鎖などの診療制限をすることなく通常診療を継続することができたのは、まさに変化に対応できるチームが構築され、能力を発揮した瞬間であった。また、7月には新S棟が完成し、長年の課題であった駐車場不足の問題が大幅に改善された。

2024年度は新S棟の機能をさらに活用し、拡充された外来スペース、手術室の有効活用を推進する。4月からは医師にも時間外労働の上限規制が適応されるが、医師だけでなく全ての職員がやりがいを持って働き続けたい労働環境を目指し、働き方の多様性の尊重、労働時間管理の徹底、DXを活用した業務改善の検討を行っていく。職員の負担軽減を進めながら安全で質の高い医療を提供し続けるために、職員がお互いを尊重し、感謝の気持ちをもってチーム医療を推進する精神となる「Respect」を2024年度のテーマとする。

## 【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

## 【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

## 【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します
- 地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます
- 働きやすい環境を作ります
- 健全な経営を継続します
- 災害・感染対策を強化します
- 環境に対する責任を果たします

## 【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

### 1. 利用者満足の向上

- |                |                      |             |
|----------------|----------------------|-------------|
| (ア) 選ばれ続ける病院   | ①紹介初診患者数             | 2,000人/月以上  |
|                | ②患者満足度               |             |
|                | 病院に満足している            | 肯定回答率 85%以上 |
|                | ③職員満足度               |             |
|                | BSCのテーマを知っている        | 肯定回答率 70%以上 |
|                | この病院で働くことにやりがいを感じている | 肯定回答率 70%以上 |
| (イ) あたたかみのある接遇 | ①患者満足度               |             |
|                | 職員から安心感のある応対を受けた     |             |
|                |                      | 肯定回答率 70%以上 |

②職員満足度

職員同士で気持ちの良い挨拶をしている

肯定回答率 70%以上

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 高度・急性期医療の提供

(ア) 地域ニーズに応える医療提供

①新規がん患者数 150 件/月以上

②救急車搬送件数重症・中等症件数 330 件/月以上

③緊急入院患者の DPCⅡ期以内比率 55%以上

(イ) 診療スペースの有効活用

①中央ケア室の利用人数 50 件/日以上

②8:30~17:00 中央手術室の稼働率 66%以上

③平日の予定入院数の差異 月~木 18 人/週以下

3. 医療環境の充実

(ア) 業務プロセスの可視化と改善

①患者支援センターの滞在時間 平均 40 分以下

②紹介患者の予約時間 15 分前までの案内率

80%以上

(イ) DX を活用した業務改善

①電子問診の導入診療科数 年度末時点 30 科以上

②コンテンツの聖隷アプリ実装件数

動画掲載件数 年度末時点 55 件以上

うち、運用活用動画件数 年度末時点 10 件以上

③生成 AI 等検討件数 年度末時点 6 件以上

4. 医療の質と安全の保証

(ア) 安全で質の高い医療の推進

①患者誤認発生率 事象レベル 1 以上 0.3%以下

②麻薬・ハイアラート薬品関連の IA 発生率

事象レベル 1 以上 0.3%以下

③転倒・転落による負傷発生率（入外含む）

事象レベル 2 以上 0.85%以下

④職員満足度

コミュニケーションに関する指標

肯定回答率 70%以上

⑤手指衛生実施率

医師 50%以上

看護 82%以上

事務・医療技術 80%以上

⑥職場防災訓練（実践型）実施率 100%

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

5. 魅力のある職場環境

(ア) 働き続けたい職場環境づくり

①職員満足度 心理的安全性を評価する指標

平均 70%以上

②職員満足度 職員のやりがいを評価する指標  
平均 70%以上

(イ) 働き方改革

①超勤時間（医師）80 時間超え（日当直含まず）  
7 名/月以下

②超勤時間（看護・事務医療技術）30 時間超え  
40 名/月以下

③長時間労働医師に対する面接指導実施率 100%

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

## 6. 安定した財務

(ア) 年度予算の達成

①収益（サービス活動収益） 36,793 百万円以上

②変動費率（全職員超勤費用/サービス活動収益）  
3.3%以下

③S 棟関連事業収益  
（眼科・眼形の診療収益増収額 2022 年度比較）  
134 百万円以上

④医師一人あたりの収益比率  
（医師の人件費（非常勤含）/診療収益）  
16.4%以下

### 【数値指標】

サービス活動収益	36,793 百万円		職員数	2,217 名	
入院単価	94,400 円	入院患者数	690 名	病床利用率	92.3%
外来単価	24,400 円	外来患者数	1,625 名	平均在院日数	10.5 日
地域医療支援病院紹介率	65.0%		逆紹介率	70.0%	

### 【地域における公益的な取組】

当院は、地域で暮らす既存の福祉制度には該当しない疾患を抱えた長期療養者に対し、ハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに行なう相談会を定期的で開催している。2024 年度は、ハローワーク相談会を 12 回、社会保険労務士の相談会を 4 回開催する計画としている。また、がんに罹患し、就労継続に困難をかかえる療養者と事業主に対し、商工会議所と連携し当院のがん支援センターが相談の窓口を担っており、継続していく。

### 【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2023 年度は 12 月までに 3 名の利用があった。引き続き、社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方々へ向けた受入体制の確保と充実を図っていく。

# 聖隷淡路病院

2024年度は総合診療の充実により高齢者救急を積極的に応需し、淡路医療圏における急性期と在宅療養を繋ぐ地域包括ケアの拠点（＝地域密着型多機能病院）としての役割を果たしていく。さらに疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応できる病院機能を最大限に発揮して経営目標の達成を目指す。地域内の入院・外来診療が必要な患者の需要に応えるため、病床管理の徹底、在宅医療の推進、保健事業の拡大と健診実施後の積極的なフォロー等を行っていく。

ホームページの更新や地域向けのイベント開催など、広報活動を充実させて病院情報の積極的な発信に努めていく。また、淡路市内の聖隷関係施設との人事交流や顔の見える関係を通じた情報交換・共有によりさらなる連携を推進する。聖隷各施設の質の高いサービスを切れ目なく利用者に提供することで、淡路島における聖隷福祉事業団の事業全体の拡充に繋げていきたい。

新興感染症への対応や予期せぬ大規模災害発生に対する準備など発生しうるリスク・脅威に対して持続可能な事業継続計画（BCP）の整備を行い、“島”という立地に対応した当院独自の対策を確立したい。

## 【施設理念】

『聖隷精神（隣人愛）を継承し、地域に根ざした医療・福祉に貢献する』

## 【経営方針】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す
4. 経営基盤を確立する

## 【事業・運営計画】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
  - (ア) 地域包括病棟（病床）の機能を幅広く活用し、病床管理を徹底する
  - (イ) 在宅療養支援病院として訪問診療・在宅医療事業を積極的に推進する
  - (ウ) 患者支援センター（新設）により入院前から退院後まで継続した患者支援を行う
  - (エ) 各診療科の診療体制の充実とともに診療科の垣根を越えた相互協力体制を構築する
  - (オ) 保健事業を拡充し、地域住民の健康増進と地元企業の健康経営に貢献する
  - (カ) 総合診療の体制充実により、高齢者救急の受け入れを強化する
  - (キ) 認知症ケアへの取り組みを強化し、チーム活動を積極的に行う
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
  - (ア) 働き方改革を推進し、職員が働きやすい労働条件・職場環境を整備する
  - (イ) 各職種の専門性を向上し、質の高いチーム医療を実践する
  - (ウ) 病院機能評価（日本医療機能評価機構）の期中評価を行い、質改善活動を継続する

- (エ) 医療安全管理体制を強化する
  - (オ) 院内感染対策を徹底する
  - (カ) 医療倫理的な問題を審議し、その結果に基づいて医療提供を行う
  - (キ) クリニカルパスを運用し、医療の標準化と質の向上を図る
  - (ク) 初期臨床研修における地域医療研修と総合診療専門研修プログラムを充実させる
  - (ケ) 地域に根差した人材を確保し定着させる
  - (コ) 各部門の役職者と高い技術・知識を有する専門職を育成する
  - (サ) 利用者からの声を活かし、院内の環境改善に努める
3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す
- (ア) 地域の医療機関との役割分担を明確にし、地域連携をより一層推進する
  - (イ) 入退院支援・在宅復帰支援を行う体制を再構築する
  - (ウ) 淡路島内外（淡路市・洲本市・明石市）の産後ケア事業を継続して行う
  - (エ) 医療・介護の連携推進により聖隷関係施設と一体となって事業運営を行う
  - (オ) 広報活動の充実により院内情報を広く発信する
4. 経営基盤の確立
- (ア) 医療資源を最大限に活用し、入院・外来の患者を安定的に確保する
  - (イ) 収益に見合った費用の削減に取り組む
  - (ウ) 職員一人一人が経営参画意識を高め、経営目標の達成に向けて経営改善を行う
  - (エ) 診療報酬改定に対応し、病院機能に見合った基準・報酬を漏れなく取得する
5. その他
- (ア) 防災・防犯活動の推進と緊急事態に備えたBCP（事業継続計画）の策定を行う
  - (イ) 省エネルギー、資源循環等の活動に積極的に取り組む
6. 地域における公益的な取組
- 地域住民に向けた健康啓発活動を実施する
7. 無料又は低額診療事業について
- 無料又は低額診療事業を行う施設として広く生活困窮者の受け入れを行い、基準10%以上の実績を維持する

**【数値指標】**

サービス活動収益				2,265,900千円	
入院患者数	131人/日	入院単価	33,800円	職員数	207名
外来患者数	130人/日	外来単価	11,500円	病床利用率	86.2%

# 聖隷横浜病院

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行となり、日常診療の中で感染症対策を行いながら地域完結型医療を推進するケアミックス型の病院として、病病・病診連携ならびに横浜市内救急隊など行政との連携強化に全力を尽くし地域貢献に努めた。特に、地域の救急医療体制を支えるために、救急医の招聘ならびに診療部体制の変更を行った。輪番日を週2回と固定することにより、整形外科を含めた疾患に対応できるように体制を確立した。

2024年度は物価高の継続や診療報酬のマイナス改定、医師の働き方改革の新制度が施行されるなど、病院経営を行う上では非常に厳しい1年となることが予想される。そのような状況の中でも医療サービスを必要とする地域の多くの方々に良質な医療を提供し続けるため、多様な人材の確保、生産性の向上、救急医療体制のさらなる充実、各医療機関との連携強化、地域の健診業務拡大を行っていく。併せて、関東地区事業団施設との連携を強化し地域から愛されつづける病院づくりを職員と共に進めていく。

## 【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

## 【運営方針】

1. 安全で良質な医療の提供 事業、運営
  - (ア) 医療安全管理体制および感染管理体制の強化 事業
    - ①医師を含めた医療安全体制を構築し、さらなる質改善に努める 事業、運営
    - ②医療安全・感染管理体制の評価とさらなる充実 事業、運営
    - ③倫理問題の検討方法の整理 事業
  - (イ) 救急診療体制の充実 事業
    - ①救急医療の体制を充実し地域医療への貢献 救急車受け入れ年間4,500件 事業、財務
    - ②「急性心疾患」、「脳血管疾患」、「外傷（整形外科）救急」の受け入れ体制の強化 事業
    - ③入院・外来に通じた救急救命士の活用 運営
  - (ウ) ドック・健診事業の充実 事業、運営、財務
    - ①予約受入体制の強化、および健診予約枠の拡大 事業、運営、財務
    - ②病院利用者へのドック・健診の推奨 運営、財務
    - ③日曜乳がん・婦人科検診の拡大 事業
  - (エ) 外来診療科体制の充実 事業、運営、財務
    - ①午後の外来診療の増枠 事業、運営
    - ②院内導線の見直し 事業
    - ③受付および問診体制の見直し 事業、運営
    - ④待ち時間の実態を可視化し有効な対策を検討 事業、運営、財務
    - ⑤診療科の再構築 運営

⑥透析利用者の増加 事業、運営、財務

⑦循環バス利用者の促進および利便性向上に向けた検討 事業、運営

## 2. 多様な人材確保と育成 事業、組織、運営

(ア) 人材確保とディーセントワークの推進 事業、運営、組織

①求人広報の充実と医局および養成校等へのアプローチ強化 運営、組織

②障がい者雇用と定年後における雇用延長の推進 運営、組織

(イ) 働き続けたいと実感できる職場づくり 運営

①職員ドックを推進し、健康経営を展開する 組織

②ストレスチェック結果をもとにメンタルヘルス対策を行う 運営

(ウ) 次世代リーダーの育成 事業、組織、運営

(エ) 病院と訪問看護との人事交流の推進 組織

(オ) コンプライアンス教育の推進 組織、運営

(カ) 地域に求められる医療を推進し続ける職員の育成 事業

## 3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践 事業、運営、組織、財務

(ア) 診療報酬改定への迅速な対応と病院の方向性の検討 運営、財務

(イ) 人員配置に見合った収益確保（人件費率：年間平均 56.1%） 運営、財務

(ウ) 物価高に対応し、生産性を向上する 財務

(エ) 手術室の効率的な稼働による件数増加：年間 2,000 件（手術室実績） 事業、運営、財務

(オ) 事業団内連携の推進 事業、組織

(カ) 病床再編による効率化と収益性の向上 事業、組織、運営

(キ) 自然環境に対する取り組み 事業、運営、財務

①環境に配慮した資源活用（フードロスの活用、薬品、物品の適正使用） 事業、運営、財務

②食材の地産地消の推進 事業、財務

(ク) 病院設備および医療機器の管理体制の充実 事業、運営、財務

(ケ) 無料低額診療事業の基準 10%以上を堅持 事業

## 4. 最適な環境づくりの推進 事業、組織、運営

(ア) 働き方改革関連法への対応 事業、運営

①働き方改革の実践 事業、運営

②慣例に捉われない業務手順の見直しやスリム化 運営

③専門看護師・認定看護師・特定看護師の活動の拡大によるタスクシフトの実現 組織

(イ) 職員（子育て世代）の働きやすい環境づくり 運営

①病児保育、一時預かり、小学生の居場所の確保など運用検討 組織

(ウ) 安全・感染対策に配慮した療養環境と労働環境の整備 事業、運営

(エ) インフラ（電子カルテ、ネットワークなど）の安全な移行 事業、運営、財務

(オ) 職種の垣根を超えた協働による、自己及び組織成長の推進 組織、運営

(カ) 共に育ち、互いを認め合う組織づくり 組織

(キ) 聖隷 DX の推進 運営

①医療費後払い運用の構築 運営

5. 地域包括ケアシステムの推進 事業、運営、組織、財務

(ア) ケアミックス病院として各機能病床の安定稼働 事業

(回復期リハビリテーション病棟・緩和ケア病棟・地域包括ケア病棟 各 90%) 事業、財務

(イ) 訪問看護ステーションの機能強化 事業、運営、組織、財務

①看護師・リハビリ技師の人材確保 組織

②在宅医療を必要とされる利用者の獲得 事業、運営、財務

③有効な人事交流とケアサービスの質向上 事業、組織

(ウ) 地域連携および広報活動の強化 事業、運営、組織

①地域の診療所との連携強化 紹介件数：月間 850 件 紹介入院患者数：月間 150 件

組織、財務

②病院の特色および活動を発信できる広報戦略の立案（診療科特色記事・市民公開講座・ホームページ）と実践 運営

③入退院支援（病-病連携）の充実 組織

#### 【数値指標】

サービス活動収益	10,303,140 千円	職員数	702 名		
外来患者数	595 名	外来単価	19,000 円	救急車受け入れ件数	4,500 件
入院患者数	318 名	入院単価	58,000 円	病床稼働率	86.6%
訪問看護介護保険単価	10,300 円	訪問看護介護保険訪問数	852 件		
訪問看護医療保険単価	11,300 円	訪問看護医療保険訪問数	265 件		

#### <地域における公益的な取り組み>

- ・無料健康相談会の開催
- ・寄付型自動販売機の設置

#### <無料低額診療事業>

無料低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、基準 10%以上の実績を維持する

# 聖隷佐倉市民病院

2023年度はコロナ診療と一般診療の両立、健全経営に向けて取り組んだ。5月にコロナが5類に移行したが、当院は9月まで重点医療機関として全病棟でコロナ患者の受け入れを行った。また、コロナインフルエンザ外来、ワクチン接種も継続し、コロナ診療における使命を全うした。一般診療では、7月に救急車受入台数300台、8月には入院患者数330名/日、手術件数306件と過去最高値を更新し、当院の持つ力を再認識することができた。一方、経営面においては、人件費をはじめとした費用が大幅な予算未達となり、人材確保などの課題が残った。

2024年度は電子カルテシステム、放射線治療装置の更新など大型投資を計画している。経営への影響は大きいですが、新たな3ヵ年計画に基づき経営の健全化を目指していく。そして、将来を見据えた病院機能の強化、職員の採用、定着、育成を強化していく。

2024年3月、当院は20周年を迎えた。これからも職員一人ひとりが病院運営の主体として「We」で語る」、そして当院成長の原動力である部門間の強固な「ヨコのつながり」を大切にし、地域医療への更なる貢献を目指して取り組んでいく。

## 【施設理念】

キリスト教精神に基づく『隣人愛』に立ち、患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします。

## 【経営方針】

1. 隣人愛の精神の継承と実践
2. 安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供
3. 地域医療との連携、地域住民参画の医療
4. 創造的な変革を通し、効率的で安定した健全経営
5. 働きがいのある職場づくり

## 【事業計画】

1. 地域医療に貢献するための医療の提供
  - (ア) 救急患者の受入体制の強化
    - ①救急車受入台数2,000台を維持
    - ②近隣医療機関からの緊急要請の受入強化
  - (イ) 紹介受診重点医療機関としての役割発揮と評価
    - ①紹介割合、逆紹介割合の基準達成
    - ②7日以内返書の継続と評価
  - (ウ) シームレスながん医療の提供
    - ①緩和ケア病棟再開、放射線治療装置更新の準備
    - ②健診、病院、在宅医療の連携強化

(エ) 高齢者に必要とされる医療の提供

- ①地域包括ケア病棟への直接入院受入数増加
- ②病院と訪問看護ステーション、ケアプランセンターとの連携強化
- ③摂食嚥下障害や認知症への対応
- ④ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の推進

2. 安全で質の高い医療の提供

(ア) 安全な職場風土の醸成

- ①IA レポートを活用した改善活動の共有
- ②医療安全風土向上への取り組み

(イ) 感染管理体制の充実

- ①上位の感染対策向上加算取得に向けた検討
- ②各種サーベイランスの実施

(ウ) 継続的な質改善活動

- ①外部評価（適時調査・保健所立入調査・各種監査等）への対応
- ②BCP（事業継続計画）の策定と評価
- ③災害対策の強化

3. 利用者に信頼され、選ばれる医療サービスの提供

(ア) 情報発信力の強化

- ①クリニカルインディケーター、診療情報の充実
- ②ホームページの更新
- ③地域住民参加型イベントの開催

(イ) 利用者に優しい病院づくり

- ①タスクシェアによるチーム医療の充実
- ②待ち時間対策
- ③利用者の声を活用した改善活動

4. 将来を見据えた人材確保と育成

(ア) 採用力の強化

- ①採用媒体を活かした採用活動の実施

(イ) 働きやすい環境づくり

- ①働き方改革への適切な対応
- ②健康経営の推進
- ③全部門連携による業務の効率化
- ④心理的安全性の高い組織づくり

(ウ) 人材育成体制の整備

- ①各種研修の充実および一元管理

(エ) 当院の強みを職員が知る

①20年の歴史と組織文化の継承

5. 経営と運営の両立に向けた取り組み

(ア) 予算達成に向けた取り組み

①診療報酬改定対応

②新たな集客、集患策の実行

(イ) 適切な運営管理

①収益と費用のバランスを意識した運営

②電子カルテおよび健診システム更新後の安定稼働

③コンプライアンスの徹底

(ウ) 将来構想の継続検討

①3か年経営計画の評価

②SDGs、カーボンニュートラルへの積極的な取り組み

6. 地域における公益的な取組

(ア) 地域住民の病気予防・健康寿命延伸につなげるための市民公開講座の実施

(イ) 生活困窮者の自立促進に向けたケースワーカーによる相談支援

せいれい訪問看護ステーション佐倉 / せいれいケアプランセンター佐倉

2023年度は地域の利用者のニーズに応えることができるよう、ケアマネージャー2名、看護師1名を採用し事業拡大及び、より専門性の高いサービスの充実を図った。また、病院との連携強化を目的とした定期的なミーティングの開催や病棟看護師向けの勉強会、退院後同行訪問等を実施した。2024年度も、地域に根差した支援が行えるよう病院や地域との連携を大切にしながら、病院機能の一環として個人または事業部の教育体制を徹底し在宅部の強化を図る。

【数値指標】

項目	予算	項目	予算
外来 患者数	822名	外来 単価	15,300円
入院 患者数	310名	入院 単価	56,500円
病床 稼働率	82.2%	職員数	797名
健診 受診数	198名	健診 単価	18,920円
訪看 介護保険利用回数	474件	訪看 介護保険単価	8,000円
訪看 医療保険利用回数	203件	訪看 医療保険単価	10,550円
ケアプラン 介護保険利用回数	147件	ケアプラン 介護保険単価	13,790円

<無料又は低額診療事業>

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い基準10%以上の実績を維持する。

# 浜松市リハビリテーション病院

2024年度は浜松市の指定管理5期目（17年目）のスタートとなる。浜松市における当院の存在意義は「急性期から社会復帰にかけてのHUB（ハブ：拠点）としての役割を果たすこと」である。回復期リハビリテーションを提供する過程において、退院後の生活を見据え「その人にとっての生き方」を自分で決められるよう支援することが当院の使命である。2024年度はその使命を果たすため、「利用者にとっての最善の関わりは何か」の明確化に加え、職員自身もユニークな考えや自分達のやりたいことを言語化し、「運用や運営に主体性を持って独自の新しさを創っていく」年になるようテーマを「発想」とした。利用者に「また来たい」と思ってもらえ、働く職員同士が「ここで一緒に働きたい」と思える雰囲気をつくることが重要である。職員が健康でいきいき働けるとケアの質は向上し、利用者満足につながる。マインドも含めた組織のムードを高めていきたい。

人材確保は喫緊の課題である。業務改善を具体的に進めるとともに協働する組織体制の成熟が必要となる。業務の切り分けや就労ボランティアの活用など新しい業務スタイルを「発想」し、時代にあった働き方と体制を実現していく。

経営的には、病床管理の確実性が最重要である。地域連携・患者サポートセンターの権限強化、病床管理の見える化に取り組んで行く。同時に将来的に安定した収益確保ができるよう、新規事業について「発想」しコンセプトの作成を進める。

## 【病院理念】

私達は、地域に根ざし、利用者の尊厳と生活の質を尊重した、患者中心主義に基づく医療を提供します

## 【運営方針】

1. 多職種共働による、安全で科学的な根拠に基づく質の高い医療を提供する
2. 患者・家族のニーズに即し、個別性を重視した関わりを大切にする
3. 地域包括ケアを念頭に置き、幅広い地域連携体制を構築する
4. 職員の資質・技能向上、その育成と人材確保に努める
5. 健全な経営基盤を確立する

## 【回復期リハの基本姿勢】

地域と連携し“その人らしい”社会参加に向けて、個人の病態や生活環境に配慮したリハビリテーション支援を行う

## 【2024年度事業テーマ】：「発想」

職員自身がユニークな考えや自分達のやりたいことを言語化し、運用や運営に主体性を持って独自の新しさを創っていく年とする

【2024年度 事業目標・年度重点施策】

1. 利用者や職員に選ばれる病院
  - (ア) また利用したい、ともに働きたいと思える病院づくり
  - (イ) 地域に求められる新しいサービスの拡充
  - (ウ) 生産性向上と業務効率化を同時に実現
  - (エ) カンファレンスの全面的改革
  
2. 質の高いリハビリテーション医療の実践と伝承
  - (ア) 持続的発展ができるセンター体制
  - (イ) 想定されるあらゆるリスクへの対策を強化
  - (ウ) 外来診療体制の再構築
  - (エ) 電子カルテ更新マスタープランの作成
  
3. 地域連携の強化
  - (ア) スムーズな入退院支援
  - (イ) 退院後の活動・参加の充実を図る
  
4. 持続可能な経営基盤の確立
  - (ア) 確実な病床管理
  - (イ) 新規企画・事業による新たな価値の創出
  - (ウ) 新訓練棟建築計画の具体化
  
5. 地域における公益的な取り組み
  - (ア) いきいきトレーナーの活躍の場の創出
  - (イ) 地域と連携した災害対策の強化
  - (ウ) 地域ニーズに沿った積極的な情報発信
  - (エ) 医療と福祉の狭間の就労支援「momo」の事業拡大

【数値指標】

サービス活動収益	3,859 百万円			常勤職員数	437 名	
	外来	入院			介護	
		回復期	一般	合計	通所	訪問
患者・利用者数	145 人/日	176 人/日	40 人/日	216 人/日	916 人/月	411 人/月
単価	10,200 円	43,000 円	35,000 円	41,500 円	4,770 円	8,400 円
利用率		97.7 %	88.8 %	96.0 %		

# 聖隷袋井市民病院

当院はリハビリテーションを中心とした医療や慢性期医療を提供し、地域の急性期病院、診療所、介護施設などとの連携を通して地域共生社会の一翼を担っている。袋井市から指定管理を受託し12年目となる2024年度は、職員が互いの専門性を尊重しながら質改善活動をおこなう『共感力と協働』をキーワードとし邁進する。

## 【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

## 【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

## 【事業・運営計画】

キーワード：共感力と協働

1. 安全で質の高い医療サービスの提供
  - (ア) 多職種で取り組む質改善活動の推進
    - ① 認知症患者の適切な医療評価や認知症ケアの質向上
    - ② 終末期患者への緩和医療や看取りケアの質向上
    - ③ 利用者の利便性・満足度の向上
  - (イ) 多職種による安全な医療サービスの提供
    - ① 医療安全体制の確立と実践
    - ② 院内感染管理体制の強化と実践
  - (ウ) 地域における特色あるリハビリテーション医療の充実
    - ① 先進機器の活用を含めた先駆的なリハビリテーションの提供
    - ② 摂食えんげ障害への支援の充実
    - ③ 高次脳機能障害への支援の充実
2. 地域共生社会への貢献
  - (ア) 退院後生活を見据えた支援体制の強化
    - ① 退院支援・調整機能の向上
    - ② 訪問診療のさらなる発展
    - ③ 訪問リハビリテーションの拡充
  - (イ) 後方支援病院としての機能の強化
    - ① 急性期病院との密な情報交換の実施
  - (ウ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援
    - ① 職員と市民の認知度向上に向けた取り組みと ACP の実践

### 3. 人材の確保・育成の推進

#### (ア) 人材の確保と育成

- ① 採用困難職種の採用強化
- ② 看護補助者教育体制の充実

#### (イ) 専門性向上の支援

- ① 認定資格等の取得促進
- ② 資格取得後の活用体制の構築

### 4. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進

#### (ア) 業務効率化の推進と労働環境の整備

- ① 時間外労働の低減につながる業務改善
- ② 健康施策の実施

#### (イ) 両立支援制度の普及啓発、活用

### 5. 経営基盤の安定化

#### (ア) 病床稼働の安定化

- ① 柔軟なベッドコントロール
- ② 情報発信力の強化

#### (イ) 回復期リハビリテーション病棟施設基準の上位取得

#### (ウ) 災害対策の強化

- ① 発災から 72 時間に取り組むべき行動の可視化と対応の強化

### 6. 地域における公益的な取り組み

#### (ア) 袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画と提案

#### (イ) 袋井市版 ACP「こころのノート」普及啓発活動

#### (ウ) 認知症初期集中支援活動

#### 【数値指標】

サービス活動収益	1,759,740 千円	常勤換算職員数	203.5 名
	患者数	単価	病床稼働率
外来	46 人／日	8,200 円	-
入院	135 人／日	29,100 円	90%
再掲（回復期）	46 人／日	36,880 円	92%
（一般）	42 人／日	28,000 円	84%
（療養）	47 人／日	22,460 円	94%
	利用回数	単価	
訪問リハビリテーション	949 件／月	3,370 円	

# 保健事業部

聖隷健康診断センター 聖隷健康診断センター東伊場クリニック  
聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター  
聖隷健康サポートセンター *Shizuoka* 聖隷静岡健診クリニック

2023年度は、組織再編、システム改修、必要人員の確保等により業務の安定を図り、利用者からの信頼回復と職員の長時間労働の是正に努めた。

しかしながら、利用者からの完全な信頼回復は未だ途上にあり、今後はさらに利用者が求めていることに対して耳を傾け、信頼回復に向けて努力を積み重ねていかなければならない。

また、事業を支える職員の長時間労働は前年度に比べ改善傾向にあるものの、健康経営を実現するには、抜本的な事業運営方法の見直しが必要である。

以上の現状を踏まえ、2024年度は下記の通り6つの「事業・運営計画」を掲げた。

## 第一に、「利用者本位の業務遂行」

契約団体に対しては、スピード感と正確性を持った渉外活動を実施し、先方が求める最適な健診を提供する。またご利用者に対しては滞在時間短縮、利便性の向上に努め、満足度の高い健康診断を実現する。

## 第二に、「質の高いサービスの提供」

健診業務遂行の要である契約マスタの精緻化を図り、誤りのない健診運営を実現する。また、接遇力、技術力、問題解決力等を備えた人材を育成し、ご利用者に対して最高品質の保健サービスを提供する。

## 第三に、「コンプライアンスの遵守」

システム改修によりレスポンス改善及び作業時間の削減を図る。また、巡回健診においては過剰な健診日程や人員配置をなくすことで長時間労働の是正を図り、労働基準法を遵守する。

一方、職員の情報リテラシーを向上させると共に、個人情報保護法を遵守する。

## 第四に、「システム改修の継続とデジタル化の推進」

健診システムの改修、業務のデジタル化およびWeb化により業務の効率化と利便性向上を図る。

## 第五に、「職場運営体制の充実」

2023年度に再編成した組織を基に、課及び係レベルの業務分掌、指揮命令系統を明確にし、運営管理の徹底を図る。

## 第六に、「経営数値の改善」

事業継続に必要な取り組みを各部署において実施しつつ、将来需要予測、法改正、人口動態、企業・市町の動向等、マーケティングに基づいた戦略的な経営を実践する。

以上の施策をもって、2024年度は、職員の健康を守り、利用者からの信頼を丁寧に積み重ねていく年度としたい。

## 【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

## 【事業・運営計画】

### 1. 利用者本位の業務遂行

○何事も顧客本位に考え、契約内容および期日を厳守し顧客に対してきめ細かい対応を図る

#### (1) 契約団体

(ア) 契約団体管理体制の再構築

(イ) 請求書・結果報告書の電子化およびWeb化の実施

(ウ) 市町との協働による巡回住民健診受診勧奨の実施

(エ) 法改正への確実な対応(第4期特定健診・特定保健指導制度、HPV公的検診、労働安全衛生法改正、特殊健診法令改正等)

#### (2) 利用者

(ア) 健診システム改善および運用改善による待ち時間の短縮

(イ) Web予約枠拡張による利便性の向上

(ウ) Web問診の導入検討

(エ) 滞在時間短縮サービス(スピードドック等)の拡張<健診センター、予検センター>

(オ) 滞在時間短縮型ドックの展開<東伊場クリニック>

### 2. 質の高いサービスの提供

○サービスの質を追求し、利用者に対して最高品質の保健サービスを提供する

(ア) 挨拶、丁寧な説明、臨機応変を旨とした接遇の実施

(イ) 正確な技術力、課題発見力、問題解決力を備えた人材の育成

(ウ) オンライン保健指導の積極活用によるハイリスク者への早期介入の実現

(エ) 組織的な連携体制と各種専門職等による産業保健支援活動の展開

(オ) 契約マスタの精緻化による品質の向上

### 3. コンプライアンスの遵守

○法令を遵守し、健康経営の実現および情報漏洩の防止に努める

#### (1) 労働基準法

(ア) 健診システムの改善、運用の抜本的な見直しによる長時間労働の是正

(イ) 巡回健診における健診日程、人員配置の適正化による長時間労働の是正

(ウ) 職場環境・作業環境の改善

#### (2) 個人情報保護法

(ア) 契約マスタの精緻化による誤送付防止

(イ) ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)手順書遵守による個人情報漏洩防止

### 4. システム改修の継続とデジタル化の推進

○システム改修を継続し作業の効率化と精度向上を図り、業務のデジタル化を推進する

(ア) 健診システム改修による省力化

(イ) 業務の電子化およびWeb化による効率化

(ウ) 健診事前準備システム導入検討

### 5. 職場運営体制の充実

○職場における業務分掌、指揮命令系統を明確にし、運営管理の徹底を図る

(ア) 管理規定および組織図に則った職場運営管理の徹底

(イ) 運営管理センターミーティングによる相互連携強化

## 6. 経営数値の改善

○事業継続と、将来の設備投資計画を念頭に置き、必要なサービス活動収益及び増減差額を確保し、予算を達成する

(ア) 「保健事業部経営再建計画」に則った経営再建

(イ) マーケティング（将来需要予測、契約団体の動向等）に基づいた戦略的経営の実施

(ウ) 初回利用者リピート率向上による継続的な収益確保

(エ) 巡回健診契約団体および実施エリアの見直しによる経営効率の改善

(オ) 事業継続に向けた費用コントロール

### 【数値指標】

#### ■ 聖隷健康診断センター、聖隷健康診断センター東伊場クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
34,115 名	205 名	47,910 名	7,780 名	26,600 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	常勤換算職員数
2,690 名	16,300 名	135,600 名	2,898,000 千円	221.3 名

#### ■ 聖隷予防検診センター、地域・企業健診センター

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
21,790 名	0 名	329,650 名	4,100 名	49,250 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	常勤換算職員数
43,520 名	13,470 名	461,780 名	4,305,000 千円	313.1 名

#### ■ 聖隷聖隷健康サポートセンターShizuoka、静岡健診クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
18,580 名	0 名	90,860 名	2,450 名	21,320 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	常勤換算職員数
7,400 名	11,210 名	151,820 名	2,042,000 千円	151.3 名

#### ■ 保健事業部合計

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
74,485 名	205 名	468,420 名	14,330 名	97,170 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	常勤換算職員数
53,610 名	40,980 名	749,200 名	9,270,000 千円	840.5 名

## 高齢者公益事業部

2023年5月1日に浜名湖エデンの園は開設50周年を迎えた。聖隷及びエデンの園の歩み、存在意義、あるべき姿を関係者と共有し、100周年に向かって着実に歩み続けたい。

現在の中期的な経営課題は人手不足である。採用力の強化、働き方に合わせた職場づくり、徹底したDX化（デジタル技術を活用し、業務改革等を推進すること）によって入居者・利用者に対するサービスを向上すると同時に、職員の負担軽減を図りたい。

経営の安定と持続性の確保は、高い入居率と健全な収支が不可欠である。入居者募集では、実質的な空室ゼロ、入居率96%（宝塚を除く）を目指す。広告出稿、中小規模のセミナー、個別見学会・相談会等を組み合わせた集客対応で相乗効果を狙った募集活動を推進する。明日見らいふ南大沢（東京都住宅供給公社からの受託事業）の入居者募集業務は受託して2年目に入るため、これまでの取り組みが結実することが期待される。直営、共同事業、受託事業の間の連携と協働をさらに強化し、直営8施設の目標数値として、入居契約件数122件、入園金合計41億円、事業部全体の税引前当期活動増減差額3.5億円を目指す。収支に関しては、2023年10月に宝塚エデンの園、藤沢エデンの園一番館・二番館、2024年1月に浦安エデンの園の食費を改定したが、物価高騰、人件費増を見据え収支均衡策を立案・実践し、健全な事業運営を確保したい。また、医師の働き方改革に対応し、医療サービスの提供体制の維持・安定を図る。自然災害、感染症のBCP（事業継続計画）に基づき実践的な訓練を継続し、必要な見直しを行う。事務処理の効率化を推進するため、運営管理部に事業部内の全施設の給与・社会保険業務の集約を完了したい。

人材採用は、募集媒体、紹介会社、派遣会社、ホームページ等の活用量を増やし、対応のスピードアップを図るとともに、働き方の柔軟性を高める必要がある。働き方改善を目的とし、各施設でDX、介護ロボット等の導入に取り組むとともに、職員の身体的負担軽減とケアの安全性向上のためノーリフトケアを推進する。また、コンプライアンス経営を徹底し、健康経営を推進するため、労働時間の適切な管理、有給休暇の取得促進を図る。実務の要となる職員を対象とする新たな交流・集合研修を実施することにも取り組みたい。

サービスに関しては、ケアサービスの質と量の標準化を図る取り組みを継続し、見守りシステムとともにデータに基づくサービスを実践したい。食事に関しては、食材費の高騰に対応しながら各施設で喫食率を高めるための新たな具体策に取り組むほか、業務効率を向上するため複数施設で献立の統一化を試行したい。また、接遇の向上のため、外部の専門家による接遇研修を継続的に実施する。

2025年度着工予定の宝塚エデンの園建替え計画を確実に進める。理念に基づいた事業を継続していくために、様々な社会環境の変化に柔軟に対応し、入居者・利用者の期待に応えるサービスの構築と実践を2024年度も心掛けていく。

### 【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

### 【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と永続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

### 【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
  - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
  - (イ) 標準サービスの具現化
  - (ウ) 公益活動の実践
2. 経営の安定と永続性の確保
  - (ア) 直営施設の一般居室・介護居室の入居率向上
  - (イ) 直営施設の施設会計収支改善
  - (ウ) 医療サービス提供体制の維持
  - (エ) 防災対策の強化
  - (オ) 事務処理の効率化の推進
3. 人材の採用・育成・定着の強化
  - (ア) 採用活動量の増加
  - (イ) 職場環境づくりによる離職の防止
  - (ウ) 職員のキャリアアップ
4. サービスの質・安全・効率の向上
  - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
  - (イ) リスク対策の強化
  - (ウ) 食事サービスの向上
  - (エ) 介護・看護の質を向上させる新たな取組みの実践
  - (オ) 入居者満足度調査の継続及び改善案の実施
  - (カ) 接遇の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
  - (ア) 新規施設開設の検討
  - (イ) 次世代技術の創造

### 【数値指標】（新規契約のみ）

2024年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 一番館	藤沢 二番館	合 計
件 数	22件	10件	14件	31件	13件	20件	10件	2件	122件
入居率	96.3%	80.1%	94.5%	96.0%	96.0%	100%	100%	92.0%	93.0%

※月払プラン件数含む

## 介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

1973年5月1日に開園した浜名湖エデンの園は、2023年度開園50周年を迎えた。5月の開園50周年記念式典を始め、年間を通して記念イベントの開催や、新型コロナ禍前には定例であった行事等を復活させ、入居者と職員が一緒になって大いに盛り上がった1年となった。

その反面、2021年度後半のエネルギーの異常高騰から始まり食材の高騰、2023年に入ってさらにあらゆる物価の高騰が深刻化し、人件費の高騰と相まって園の経営は厳しさを増していった。当園では、2020年にグランドオープンした新棟の建替工事が始まる以前と以後で入居時期を分けそれぞれ異なる管理費設定となっていた。昨今の社会情勢に鑑み、また管理費の使途が入居時期によって違いはないことを入居者に説明し、2024年4月から全入居者の管理費をそれまでの高い方の金額にそろえて一律とすることに同意を得られ、二重構造が解消されることとなった。およそ半数の入居者に管理費の値上げをお願いすることは苦渋の決断であったが、入居者の理解・協力を得られたことを心より感謝申し上げる。

2024年度はこれまでどおりの手厚いサービスの継続と強化、そして職員の負担を大きく軽減するために、産休・育休や退職等で減少した人員を確保する。同時にDX化の活用を推進し、2024年1月から介護居室に導入した「見守りシステム」のより良い運用の検討、今後導入予定の移乗アシスト機器の運用検討、AIを使った「自動勤務表作成ソフト」の利用など多様な取り組みを計画している。また、これまでと同様であるが、自立入居者対象のトレーニングマシンの充実やパーソナルトレーニングの強化、ウォーキング企画の更なる推進等、そして介護予防対象者には適切な運動プログラムを提供し、筋力低下予防や健康維持・増進の強化を継続する。もう一つの柱である「入居者のその人らしい生活を支える」という点においては、入居者の入居時から終末期までの情報を一元化し、入居者参画型のアドバンス・ケア・プランニング（ACP：人生会議）の強化を図り、入居者の「想い」を全職員が共有し、個別のサービス向上に努めていく。

経営面では、物価の高騰や人件費の高騰など不安定な状況は長期化し、園運営に大きく影響することが容易に予想される。管理費の統一だけでは今後の見通しは不透明であり、我々職員は更なる費用削減に努め、一つひとつ対応策を実践していくとともに、課・園全体でも「SDGs」を意識した取り組みを行う。

公益事業としては、入居者と共に実施する地域の清掃活動の継続と、災害時の地域支援マニュアルの策定を進める。また地域の方々の行事参加や相互交流等の再開についても検討する。

### 【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします」

### 【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者と共に成長し続ける浜名湖エデンの園づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
  - (ア) 入居から終末期までの情報の一元化の推進
  - (イ) 入居者参加によるカンファレンスを継続し、その人らしい生活につなげる取り組み
  - (ウ) サービスの質の検証と評価
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
  - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の浸透と継承
  - (イ) 自ら考え、行動できる人材の育成
  - (ウ) 職員の負担軽減につながるDX化の検討と導入
  - (エ) 雇用の促進と定着
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
  - (ア) 「事業運営計画」の全職員の理解と達成への参画
  - (イ) 全職員が参画し入居率96%を維持する入居者募集活動
  - (ウ) 職場・職種間の連携強化による業務改善
  - (エ) 時代に即した経営管理
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
  - (ア) 感染症対策の見直しと継続的な取り組み
  - (イ) 全職員に対するコンプライアンス教育の強化
  - (ウ) BCP（事業継続計画）の実効性の検証と緊急時対応ができる職員の育成
  - (エ) 安全・防災・防犯体制の強化に向けた設備・機器の導入と活用
5. 入居者と共に成長し続ける浜名湖エデンの園づくり
  - (ア) 入居者に向けた健康維持・増進サービスの提案
  - (イ) 「after コロナ」の中で入居者と共に楽しめる園づくり
  - (ウ) 入居者の協力を得て、地域に貢献できる活動の検討
  - (エ) 安心してその人らしく過ごせる環境・体制作り

【数値指標】

2024年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	359戸/372戸		54戸/57戸		413戸/429戸			
入居者数/定員	445名/455名		56名/64名		501名/519名			
入居率	96.5%		94.7%		96.3%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	25名	12名	38名	21名	20名	12名	5名	
常勤換算職員数	135.3名							
サービス活動収益	947,760千円							

## ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2023年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行され、社会・経済活動が活性化されつつある中、当園においても5月の開園祭をはじめとして多くの交流が深められる催し等を開催し、人と人の繋がりを大切にするエデンのコミュニティに活気をもたらすことができた。

2024年度は、開設45周年を迎える節目の年である。この長い歴史の中で培われてきた風土や文化を園全体で再確認するとともに、50周年に目を向けて積極的に課題に取り組んでいく。

建替え計画については、引き続き住替え・仮住いの要望や不安・心配事などをお聞きするための戸別訪問を行うとともに、不安・心配事を軽減するための取組を行っていく。

サービスを深化させるための取組として、「全員コンシェルジュ」の浸透を目指す。また、園からの情報発信を強化し、入居者が園のことをより「知る」ことで安心をもたらしていきたい。職員の「働きがい」なくしてサービスの質向上は図れない。働きがいの土台となるのはコミュニケーションであり、上司や部下、同僚である仲間同士がしっかりと向き合うことでコミュニケーションの「質」を上げていきたい。

物価や人件費などの高騰が、依然として施設運営に大きな影響を与えている。費用の最適化を図るとともに、職員が一丸となり経営方針を実行し、各部署が年度計画を達成することで収支改善を図る。

近年、頻発・激甚化が進んでいる自然災害に対しては、BCP（事業継続計画）に基づく実践的訓練を強化し、新型コロナウイルスなどの新たな感染症に対しても対応可能な体制を整えておくことで、安全・安心の基盤を強固にしていく。

持続可能な社会・地域共生社会の実現に向けて、SDGs（持続可能な開発目標）としての活動を念頭に置き、WAC事業（ふるさと21健康長寿のまちづくり事業）を中心に取り組んでいく。

### 【施設理念】

安心と生きがいの創造

### 【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者ととともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

### 【事業・運営計画】

1. 入居者満足度の向上
  - (ア) 入居者がどの職員にも相談できる「全員コンシェルジュ」の浸透
  - (イ) データを活用したサービスの提供

- (ウ) 「食べたくなる」「健康になる」食事の提供
- (エ) 情報発信の強化による安心の提供
- (オ) 建替え計画に伴う不安や心配事軽減への取組

2. 職員満足度の向上

- (ア) 職員間の「対話」の総量を増やすための取組
- (イ) 職場・職員間の連携強化への取組
- (ウ) 園全体での人材定着・確保への取組
- (エ) 健康経営に関する取組
- (オ) AI（人工知能）、ICT（情報通信技術）等の活用による業務効率化

3. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 費用最適化に向けた取組
- (イ) 診療所運営の在り方の検討
- (ウ) 建替え後を見据えた入居者募集活動の推進

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) BCPに基づく実践的防災訓練及び感染症対応体制の強化
- (イ) 行方不明・離園防止・不審者対応訓練の徹底
- (ウ) 防災意識向上に向けた入居者への啓発活動の実施
- (エ) 権利擁護教育の強化とリスク、苦情への迅速な対応

5. SDGs としての活動を念頭においた、地域における公益的な取組

- (ア) WAC 事業の活性化
- (イ) 地域貢献活動の推進
- (ウ) サステナブル活動の実施

【数値指標】

2024 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	286 戸／358 戸		41 戸／50 戸		327 戸／408 戸			
入居者数／定員	327 名／501 名		42 名／50 名		369 名／551 名			
入居率	79.9%		82.0%		80.1%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	25 名	13 名	34 名	21 名	13 名	11 名	3 名	
常勤換算職員数	131.9 名							
サービス活動収益	861,400 千円							

## 介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2023年度は、新規契約16戸17名、入居率85%以上を目指し、県内7か所と大阪での合同セミナーに2回参加し積極的に渉外活動を行った結果12月末時点で19戸20名の新規契約に繋がった。入居者へのサービス面においては園内行事やクラブ活動の再開や壁面の補修、ロビー改修による環境面での整備を行うことができた。

2024年度は介護保険の報酬改定に向けた迅速な対応と県外での入居募集セミナーや介護居室の直接入居募集の継続による入居率向上と食費の改定を行い経営改善に取り組むたい。

費用面では、テクノロジーの導入による業務の効率化を行い超過勤務の削減を目指すことと多様な働き方ができる職員の採用を意識しながら人員配置の見直しを図っていく。

入居者へのサービス面では満足度調査や事業部内相互監査の結果を元に立案した改善策を確実に取り組むことと見守りシステムを更に活用し安心、安全な施設作りを行う。

人材育成は他施設を知らない職員が多いため、計画的に交換研修を実施し次世代のリーダーを育成したい。また有給休暇の取得や超勤が当たり前にならないメリハリのある働き方を推奨していく。

公益的な取り組みとしては、地域にある子ども食堂の支援や暫く中止されていた地域合同防災訓練や清掃活動等に積極的に参加し地域貢献できる施設運営に努めていく。

### 【施設理念】 『 明るく楽しく共に輝いて生きる 』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

### 【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の確保と育成
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 地域における公益的な取り組み

### 【事業・運営計画】

1. 入居募集と経営の安定
  - (ア) 入居率95%を目指す。新規契約戸14戸(うち直接入居7戸)15名
  - (イ) 介護居室の稼働率95%を目指す
  - (ウ) 県外セミナーの実施と居宅支援事業所との連携強化
  - (エ) 愛媛県人会への参加(東京・大阪・広島)
  - (オ) 食費改定による収益の改善

## 2. 人材の育成

- (ア) 多様な働き方に合わせた勤務体制の見直し
- (イ) 研修やOJTを活用した次世代リーダーの育成
- (ウ) 各種サービスのマニュアルやチェック表が現状に合っているか点検し更新する
- (エ) 職員のストレス軽減に向け、カウンセリングなどを取り入れた体制作り

## 3. よりよいサービスの提供

- (ア) テクノロジーを活用した業務の効率化と安全・安楽な介護の提供
- (イ) 介護予防機器の更新を行い、介護予防活動に繋げる
- (ウ) 満足度調査や監査指摘事項を活用した課題解決への取り組み
- (エ) 各課の業務改善の推進と連携強化
- (オ) 入居者の楽しみに繋がる行事の運営や食事の提供

## 4. 安心安全な施設環境づくり

- (ア) 各種非常時・防災関連マニュアルの定期的な見直しと定期訓練の実施
- (イ) 苦情、リスク発見時の迅速かつ連携できる対応の徹底
- (ウ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
- (エ) 省エネ活動の継続的な取組と施設内巡視による危険個所の発見と対応

## 5. 地域における公益的な取組

- (ア) 入居者参加型の公益的な取り組み内容を検討・実施する
- (イ) 地区社協や民生委員との繋がりを持ち、地域に根差した園作りを行う
- (ウ) 地域合同防災訓練や夏祭り等への積極的な参加

### 【数値指標】 2024 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	107 戸		31 戸		138 戸			
入居者数	125 名		32 名		157 名			
入居率	96.4%		88.6%		94.5%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	14 名	6 名	14 名	8 名	12 名	4 名	5 名	
常勤換算職員数	51.2 名							
サービス活動収益	334,170 千円							

## 介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2023年度は、感染症対策を継続しながら、コロナ禍前の入居者の生活や園内活動に近づけるために取り組んだ一年となった。2024年度は改めて施設理念に立ち返り、入居者一人一人のその人らしさを大切にした運営を行っていく。職員一人一人の意識が行動を、行動が習慣を、習慣が職場風土を形成することが職員のやりがいを高め、入居者サービスの質の向上につながる。導入した見守りシステムのデータの活用により、ケアサービスの質の向上を図り、受ける側も、提供する側も安全な介護を目的とした介護ロボット等の積極的導入を進める。近年、喫食率は低下傾向にあるが、入居者の声を聴き、新メニューを取り入れるなど、喫食率向上につなげたい。医師の働き方改革により、診療所の医療サービスの提供体制の安定を維持しながら、また、将来的な診療所運営のあり方の検討を継続していく。人材確保は継続的な課題であり、ICT（情報通信技術）の導入の推進も含め、職員が働きたい職場環境をつくり、雇用の定着を高めたい。入居者募集では、個別見学と分かりやすいセミナーの開催を組み合わせ、検討者個々への丁寧な対応を繰り返し、安定した入居率を維持する。物価等の高騰により、施設会計は引き続き厳しい状況が続くものと予測される。しっかりとコスト意識を持ち、将来とも整々として事業継続を行うための安定した経営維持を行う。公益的な取り組みとして、SDGs（持続可能な開発目標）を意識し、フードバンク等への備蓄食料の提供、認知症講演会の開催、地域の清掃活動等、入居者と一緒を考えながら進めていく。

### 【施設理念】

私達は『ひとり一人と こころよく 共に暮らす』ことを目指します

### 【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 人材の確保と定着
3. 安定した施設運営・経営
4. SDGsを意識した環境・省エネへの取り組み強化と地域における公益的な取り組み
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

### 【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
  - (ア) 園全体でその人らしさを大切にしたサービスの提供
  - (イ) 基本感染対策の継続と発生時のサービスの維持
  - (ウ) 介護現場でのテクノロジー活用
  - (エ) 潤いのある生活のための行事の再構築
  - (オ) 食事メニュー改革と美味しい食事の提供
  - (カ) 接遇向上のための知識と技術の習得
  - (キ) リスク対策評価の徹底による再発防止

## 2. 人材の確保と定着

- (ア) 一人一人のやりがいとやりたいことのある働きやすい職場環境づくり
- (イ) 部署間連携と職員間コミュニケーションの強化
- (ウ) 人材の定着と ICT を活用した業務効率の向上
- (エ) 職員個々のキャリアアップへの支援

## 3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 年度末の入居率 96%（期末）以上と食費改定の検討
- (イ) 園内設備改修の計画と実施
- (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (エ) 健康寿命延伸・自立支援促進の仕組みづくり
- (オ) 入院ベッドの適正利用と診療所運営のあり方の検討

## 4. SDGs を意識した環境・省エネへの取り組み強化と地域における公益的な取り組み

- (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取り組み
- (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加
- (ウ) 地域と共同した介護フェスタ開催とフレイルチェック

## 5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 自然災害のBCP（事業継続計画）による実践的防災訓練の実施と見直し
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した災害協力体制の維持

### 【数値指標】

2024 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	366 戸／379 戸	41 戸／45 戸	407 戸／424 戸
入居者数／定員	455 名／500 名	42 名／50 名	497 名／550 名
入居率	96.6%	91.1%	96.0%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	17 名	22 名	35 名	18 名	13 名	18 名	13 名	

常勤換算職員数	140.1 名
サービス活動収益	1,128,700 千円

## 介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2023年度は、長期化するコロナ禍で余暇活動が減少し不活発となっていた状況を改善するため介護予防活動を中心に楽しめるイベントを再開した。また、四季折々の自然を楽しむことが出来る中庭となるよう改修工事を行うなど入居者が活動しやすい環境づくりに努めた。

2024年度も引き続き、施設理念の「ご入居者を真ん中においた生活の創造」を念頭に、入居者が安心して生活できる施設づくりと健康長寿を支える各種活動の充実に努めていく。また、満足度調査の結果をふまえた改善の取組みの継続や、既に導入したICT・介護ロボット等の積極的な活用に加え、新たなテクノロジーを導入しサービスの質向上に尽力する。コロナ禍で職員との接点が減ったとの声も寄せられているため接遇教育にも取組み、入居者一人ひとりに寄り添える職員の育成に努める。入居者の平均年齢の高齢化と同時に年齢の幅が大きくなり、必要とするサービスが多様化している状況に対応していけるよう、職員の知識技術の向上にも力を注いでいく。災害等のリスク対策については、発生時に迅速な対応を行えるよう、作成した自然災害に関するBCP（事業継続計画）に基づく実践的訓練を実施する。備蓄や設備の見直しや更新を計画的に行い建物の安全にも注力していく。感染症対策については、感染症予防対策の啓蒙活動を継続し集団感染の防止に努める。

経営面では、安定した収益確保のため、需要の多い浦安近隣地域を中心とした積極的な募集活動を展開し入居率96%の達成に取組む。物価高騰や人件費高騰による影響を最小限に食い止めるためにも、経費節減の取組みの継続や設備の機械化等も行っていく。レストランでは、メニューの工夫や環境整備を進め、満足度を高める食事サービスの提供を目指し、選んでいただけるレストラン運営に努める。また、地域に根差した施設を目指し、地域との交流に積極的に取り組んでいく。

### 【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

### 【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取組み

### 【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追求
  - (ア) 健康長寿を支える余暇活動や介護予防活動の充実
  - (イ) 満足度調査の実施と結果を踏まえた改善の取組み
  - (ウ) 一人ひとりに寄り添ったサービスの提供

- (エ) 選んでいただけるレストラン運営
- (オ) 新たなテクノロジー導入によるサービスの質向上への取組み

2. 働きがいのある職場風土の醸成

- (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
- (イ) 新たな人材確保と長く勤めたいと思える職場づくり
- (ウ) 人材育成の取組みによる組織の質の向上
- (エ) 健康経営の推進

3. 安心・安全な施設づくり

- (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
- (イ) 自然災害に関するBCP（事業継続計画）に基づく実践的訓練の実施
- (ウ) 行方不明対策や防犯を柱としたリスクマネジメントの強化
- (エ) 建物、設備の計画的な修繕及び更新

4. 安定した施設経営の実現

- (ア) 入居率 96%の達成
- (イ) 安定した収益の確保
- (ウ) 経費節減の取組み

5. 地域における公益的取組み

- (ア) 地域との交流を深める取組みの実施
- (イ) SDGs（持続可能な開発目標）を意識した取組みの実施

【数値指標】

2024 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	189 戸	26 戸	215 戸
入居者数	223 名	27 名	250 名
入居率	96.9%	89.7%	96.0%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17 名	12 名	19 名	5 名	5 名	4 名	8 名	

常勤換算職員数	68.7 名
サービス活動収益	446,230 千円

## 介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2023年度は、次世代介護機器やデジタル技術の導入と活用に注力し、入居者のサービスの質の向上、業務改善につなげることができた。入居者募集では、選ばれる施設を目指し入居検討者のニーズに合わせ契約プランの追加、入居時健診の見直しを行った。

2024年度は介護報酬改定が行われる予定で、特定施設入居者生活介護においては、医療機関との連携、医療的ケアを必要とする方の入居継続支援、口腔衛生管理の強化、介護ロボット・ICT（情報通信機器）等のテクノロジー活用推進が重点施策となる。

横浜エデンの園では隣接する聖隷横浜病院と連携を図り、介護や医療が必要になっても安心して自分らしく暮らせるよう、入居前からの関わりにも力を入れていく。入居者サービスの提供においては、2024年度も積極的に次世代介護機器やテクノロジーの導入・活用し、「人にしかできないこと」に注力できる環境作りと業務改善を図りたい。人材育成・採用・定着においては、各職員がやりがいを持って働けるようプロフェッショナル領域に焦点を当てた育成体系を構築すること、多様な働き方を実現できる職場環境と受け入れ体制を整備することを目指す。

入居者募集では、入居率96%を目指し専門職によるセミナーの開催、園内見学会の再開を行う。また、地域の中で信頼される、選ばれる施設となることを目指して、防災活動や地域交流活動にも引き続き取り組んでいきたい。

### 【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出会えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

### 【経営方針】

1. 「自分らしく暮らし続けられる」ことを支えるためのケアの推進
2. 働きがいを重視した人材の採用・育成体制の構築
3. 経営基盤の安定と永続性の確保を図る
4. サービスの創造と業務改善の推進
5. 地域における公益的な取り組み

### 【事業・運営計画】

1. 「自分らしく暮らし続けられる」ことを支えるためのケアの推進
  - (ア) 介護ロボット・見守りシステム等を活用したケア実践によるアウトカム評価の推進
  - (イ) 入居から最期のときまで安心した生活を実現できる医療連携体制の再構築
  - (ウ) 入居者の個別性に応じたリスクマネジメント
  - (エ) 最期のときまで「好きなものを食べられる」口腔機能の維持
  - (オ) デジタル機器を活用した介護予防活動、アクティビティの検討

## 2. 働きがいを重視した人材の採用・育成体制の構築

- (ア) 専門職としてのやりがいに着目したエデン版介護キャリアパスモデルと教育体系の導入
- (イ) プロフェッショナル領域における育成体系の構築
- (ウ) 外部有識者等による訪問指導、聖隷横浜病院との事例検討
- (エ) デジタル技術を活用した教育・研修システムの導入
- (オ) 多様な働き方に対する受入れ体制の整備（短時間介護別、高齢、障がい者、介護補助業務）

## 3. 経営基盤の安定と持続性の確保を図る

- (ア) 平均入居率 96%の維持
- (イ) 園の強みをアピールするために各課職員が参画する募集活動の推進
- (ウ) 感染症・自然災害に関する BCP（事業継続計画）に基づいた実践的な訓練の実施
- (エ) 介護報酬改定に伴う体制の見直しと新設加算の取得
- (オ) 入居相談員の育成と直入受け入れ体制の整備
- (カ) 健康経営の推進（受診率、再受診率 100%を目指す）

## 4. サービスの創造と業務改善の推進

- (ア) 介護次世代技術の導入（移乗・移動、入浴、排せつ、スマートハウス化）
- (イ) 完全調理品とアラカルトメニューの導入
- (ウ) ペーパーレスシステムの導入
- (エ) ノーリフトケアの推進

## 5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域防災連携の構築
- (イ) 社会福祉協議会と協同し地域住民向けの講座を実施（健康講座、在宅介護講座、高齢者が食べやすい食事作り講座等）
- (ウ) 入居相談時に介護相談窓口としての機能を果たす取り組み

### 【数値指標】

2024 年度期末

	2023 年 3 月末	2024 年 4 月～ 2025 年 3 月	計（退去 14 戸除く）
契約戸数	44 戸/50 戸	48.0 戸/50 戸	50 戸/50 戸
入居率	88%	96.0%	100%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合 計
	1	2	1	2	3	4	5	
	1 名	1 名	5 名	12 名	13 名	9 名	9 名	50 名

常勤換算職員数	48.0 名
サービス活動収益	277,000 千円

# 聖隷藤沢ウェルフェアタウン

聖隷藤沢ウェルフェアタウンは2011年4月に高齢者複合施設として開設し、2024年に14年目を迎える。他の施設に比べ歴史は浅いが、コロナ禍を経て周辺環境が変化し、医療や介護を取り巻く環境、雇用についての社会情勢等も変化している。当施設が未永く安定した施設運営が継続でき、選ばれる施設となるためには、この環境の変化に柔軟に対応していくことが必要である。

2024年度は、複合施設ならではの施設全体が連携したサービス提供方法の見直し、住宅型有料老人ホームである一番館で少しでも長く暮らしていただけるように、2023年度の取り組みをさらに前進させ、二番館や在宅部門との連携を強化していく。特養・在宅部門については各々の強みをアピールし、一番館だけでなく地域にも貢献していく。またICTの導入促進を行い、業務の効率化だけでなく質の高い介護サービスにつなげる。職員の確保については、採用方法の更なる工夫と定着に向けた業務・環境改善が必要であり、職員の超過勤務時間の削減や有給取得を進めることで職員の健康管理にも力を入れていく。

## 【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

## 【経営方針】

1. より良いサービスの追求
2. 安心・安全の施設づくり
3. 安定した施設運営と持続性の確保
4. 人材確保と職員育成の強化
5. 地域における公益的な取り組み

## 【事業・運営計画】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. より良いサービスの追求
  - (ア) ウェルフェアタウン版の地域包括ケアサービスの実践
  - (イ) 各事業所の役割や特性をお互いに理解し、連携することでトータルサービスを目指す
  - (ウ) ICT・介護ロボット等を活かしたサービスの提供
2. 安心・安全の施設づくり
  - (ア) ICT・介護ロボットを駆使し、入居者・職員に安心・安全なサービスを提供する
  - (イ) 災害・防犯等の有事に対応できる職員の育成および環境整備
3. 安定した施設運営と持続性の確保
  - (ア) 複合施設としての強みを活かした利用者ニーズへの対応
  - (イ) 物価高騰を踏まえた対策の検討と事業運営の見直し
  - (ウ) 計画的な設備更新と環境整備
  - (エ) 診療報酬・介護報酬の改定に伴い、利用者のサービス向上につながる適切な加算の取得

#### 4. 人材確保と職員育成の強化

- (ア) 職員募集を工夫し、採用までのスピードアップ
- (イ) 職員間のコミュニケーションを深め DX を推進することで、職員の定着を図る
- (ウ) 職員の超過勤務時間削減および有給休暇の取得促進
- (エ) 接遇を向上させるための計画的な研修の実施

#### 5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域貢献活動に積極的に参加し、地域との交流を深める
- (イ) 藤沢市フードバンク活動等の SDGs を意識した取り組みの継続
- (ウ) 災害時における地域との連携強化

### 【藤沢エデンの園 一番館】

入居者が、一番館で長く心豊かな生活を送ることができるように各介護事業所との連携を図る。また、職員個々が知識や技術を高めることで入居者一人ひとりに寄り添ったサービスの提供を目指す。

1. より良いサービスの追求
2. 安心・安全の施設づくり
3. 安定した施設運営と持続性の確保
4. 人材確保と職員育成の強化

(数値指標)

2024 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	209 戸／209 戸	—	209 戸／209 戸
入居者数	260 名	—	260 名
入居率	100%	—	100%
常勤換算職員数	52.9 名		
サービス活動収益	418,040 千円		

### 【藤沢エデンの園 二番館】

「安心で安全なサービス」を提供するためサービスの質の向上を目指す。また、一番館入居者の住み替えと直接入居者をコントロールして入居率を維持する。

1. 他課、他事業所との連携を図り、安心で安全なサービスの提供
2. 教育システムの見える化と職員の適正配置
3. 業務改善と ICT を活用した質の高いサービスの提供

(数値指標)

2024 年度期末

	2024 年 3 月末	2024 年 4 月～2025 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	46 戸／50 戸	46.0 戸／50 戸	46 戸／50 戸
入居率	92.0%	92.0%	92.0%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	0名	1名	7.7名	11.3名	11.2名	8.1名	6.8名	
常勤換算職員数	42.6名							
サービス活動収益	219,100千円							

#### 【藤沢愛光園】

2024年度は愛光園全体に見守りシステムの導入を拡大し、「ケアの見える化」と「根拠のあるケア」の実践を目指す。またノーリフトケアを推進し、入居者に安心・安全・安楽な介護の提供と職員への身体的負担の軽減を目指す。さらに、コロナなど感染症の予防に努めながら、家族参加型のレクリエーション活動や行事の開催を積極的に進めていき、家族と顔が見える関係を作る。また、職員のスキルアップのため、外部研修等の参加の機会を設けていく。

1. 安心・安全・安楽な暮らしの提供
2. 経営の安定化
3. 職員が働きやすい環境づくり
4. 感染・災害に備えたしくみづくり

(数値指標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100床	20床
利用者延べ人数	35,770人	6,680人
営業日数	365日	365日
一日平均利用者数	98.0人	18.3人
稼働率	98.0%	91.5%
単価（1人1日あたり）	15,512円	15,488円
サービス活動収益	556,930千円	103,470千円
常勤換算職員数	67.0人	14.4人
常勤換算職員数	81.4人	

#### 【聖隷デイサービスセンター藤沢】

2024年度は、より個別性の高い機能訓練の提供に向けて、ICTを機能評価等に活用し、運動機能維持や認知機能低下予防など多様なプログラムを利用者・家族が選択できる様な形にしていきたい。又、サービス提供にあたっては、利用者が安心して在宅生活を継続できるよう各部署や地域の事業所との流れるような連携強化を目指していく。各職員には専門教育を継続して行い、ウェルフェアタウン全体で専門性が発揮できるようにし、利用者・職員が共に過ごせるデイサービスを目指していく。

(数値指標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	21.7件	558件	6,695.5件	9.8件	117件	11,716円	33,605円	88,110千円
半日	2.6件	65.5件	785.4件	—	—	7,302円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

地域の利用者・家族の強みに着目し、自立した生活が継続できるよう支援する。藤沢エデンの園一番館の入居者が自宅で長く生活し、重度化しないよう適切なケアマネジメントを実践する。各ケアマネジャーが質の高いケアマネジメントを実践し利用者・家族からの満足度の向上を図る。

(数値指標)

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,817件	516件	17,300円	4,200円	207件	4,500円	34,540千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

利用者が自宅での生活が継続できるよう、他部署との連携を図りながらサービスを提供する。質の高いサービスが提供できるよう職員の育成を図りながら、地域や藤沢エデンの園一番館の入居者一人ひとりが安心して自分らしく、自宅での生活が継続できるよう努める。

(数値指標)

介護給付		総合事業		障害	
月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数
465件	5,578件	116件	1,396件	305件	3,664件

単価			サービス活動収益
介護給付(回)	総合事業(月)	障害(回)	
4,267円	21,827円	3,727円	45,490千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

利用者・家族が安心して自分らしく暮らせるように、スタッフの知識・技術の向上を目指し人材育成を行う。聖隷藤沢ウェルフェアタウン内外のさらなる連携を図り、地域での健康増進活動行い選ばれる事業所を目指す。

(数値指標)

月平均利用者数	月平均訪問数	年間訪問件数	単価(円)	サービス活動収益
114名	636件	7,629件	9,102円	71,460千円

# ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2024年度は各事業において、行政による補助金により抑えられていた電気、燃料費をはじめとする物価全般の高騰の影響が顕在化すると考える。安定した経営基盤の確立にあたり管理費の見直しなど事業継続のための根本的対策の検討が必要な時期となる。

一方で、トータルケアサービスの実践においては、開園32年を経過し顕在化した課題※を解決に導く具体的な取り組みについてより深化させていく。

2023年度より掲げている「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」を具現化するために、エデン包括ケアシステムにおいて組織、ハード、ソフト面から強化し、独自の優位性の確立を目指す。具体的には入居者との日常接点頻度の可視化、介護予防室（仮称）の開設、介護居室の増築、緩和ケアの強化、認知症早期発見ツールの導入、マイメモリーシート（入居者人生録）の活用、人生会議手帳のデータ化などの検討、取り組みの推進である。

また、地域におけるサービス強化にも視点を向け、クリニック、ベテルホーム、在宅事業が互いに業務連携について具体的な取り組みを図ることにより、経営においても複合施設の強みをより発揮していきたい。

同時に ICT 化については、導入自体が目的化するのを防ぐことに留意しつつ、見守りシステムや顔認証システムの活用、AI 画像診断など安全性向上と効率化の両輪で推進する。

地域貢献において、2020年より継続している小学校児童の下校見守りについては、超高齢化を迎えている地域との課題共有にも寄与しており、今後、園と地域の多世代間における緩衝地帯（サードプレイス）づくりへと昇華させていくことも検討する。

職員教育においては、引き続き職員が複合施設の強みを認識、発揮できるよう交換研修を推進する。また変化に強い風土醸成に不可欠な心理的安全性の向上に取り組み、「変化を恐れない」「できない理由ではなく、できる方法を探す」マインドセットへと導いていく。

また虐待・不適切ケアを防ぐため、基本的な接遇の徹底による風土形成から取り組むと同時に、「虐待・不適切ケア0 ミッション」を掲げ、「絶対に許してはいけない」という組織としての強いメッセージとともに必要な設備整備も合わせて検討する。

2040年問題を見据え、職員の採用・教育スキームの構築とともに外国人や従来就労困難と言われていた人々が活躍しやすい職場環境は不可欠である。その実現のため国籍、年齢、障がいの有無に捉われない多様性を受容できる価値観を組織として育てていく。同時に、従来の規則や運用に当て嵌まらないケースに多々直面することも想定される。その際には解決に向け常に前向きなアプローチを提案できる発信力を組織として発揮していきたい。

時代に合わせて WAC 施設としての機能を最適化し、それらの大きな課題を乗り越える体制整備の足がかりとなる年としたい。

- ※①入居者・利用者の孤立防止                      ②身元引受人等の高齢化への対応
- ③介護保険サービスの狭間の解消              ④職員年齢構成の偏在をふまえた採用・育成計画
- ⑤選ばれる施設であるための優位性の確立

## 【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

## 【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

## 【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践
  - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
  - (イ) 「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」の推進
  - (ウ) エデン包括ケアシステムの充実
  - (エ) 食べる楽しみの追及と食堂の満足度向上
  - (オ) SDGs の活動を念頭に置いた取組み
2. 安定した経営基盤の確立
  - (ア) 複合施設だからこそできる、入居者・利用者・患者・地域ニーズへの対応
  - (イ) 光熱費・原材料費等の高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し
  - (ウ) 防災・防犯対策および自然災害における BCP（事業継続計画）に基づく実践対応能力の強化
  - (エ) 選ばれる施設であるための計画的な設備更新と環境整備
  - (オ) 職員年齢構成改善にむけた計画的な人材採用
3. 人財の育成・活用・定着の強化
  - (ア) 採用力強化と定着への取組み
  - (イ) 多様性を受容できる職場風土づくりの推進
  - (ウ) 職場の魅力・強みを語る事が出来る職員の育成
  - (エ) 交換研修の推進と職場への成果還元、専門研修受講、資格の取得支援
  - (オ) 職員の心理的安全性への取組み
4. サービスの質・安全・効率の向上
  - (ア) 感染症発生時 BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止
  - (イ) 基本的な接遇の徹底による職員の意識向上と不適切ケアの防止
  - (ウ) 身体拘束、虐待防止への取組みの継続
  - (エ) Pm-SHELL 活用によるリスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
  - (オ) ICT 導入の推進と効率化の検証
5. 地域における公益的な取組み
  - (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
  - (イ) 地域との災害時の協力体制強化
  - (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と地域の社会課題解決に向けた活動

#### ◆ 有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2023年12月1日現在において、入居契約件数394戸（一般居室346戸、介護居室48戸）入居率は95.6%（一般居室95.6%、介護居室96.0%）、入居者の平均年齢は全体で83.0歳である。

2024年度は光熱費をはじめ、物価全般の高騰の影響が顕在化すると考える。安定した経営基盤の確立にあたり事業継続のための根本的対策の検討が必要な時期となるため、効率的かつ持続可能な運営を模索・実践していく。

「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」をより具現化するため、エデン包括ケアシステムとして入居者との日常接点頻度の可視化、介護予防室（仮称）の創設、緩和ケアの強化、認知症早期発見ツールの導入、マイメモリーシート（入居者人生録）の活用、人生会議手帳のデータ化を推進し、独自の優位性の確立を目指す。

職員教育においては、複合施設の強みを発揮できる職員の育成を目指し、職場間の交換研修を実施する。また、虐待防止においては施設の明確なメッセージと共に必要な設備整備を検討する。

不確実な情勢を乗り越えるために組織としてICT化、障がい者・外国人雇用といった多様性受容と変化への適応力が求められている。引き続き“変化に強い組織づくり”のために取り組みと職員の心理的安全性を強化する。

#### 【事業・運営計画】

##### 1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

(ア) 人生会議に対する理解の促進と、その人らしさを支えるケアの推進

(イ) エデン包括ケアシステムによる

「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」への取り組みと優位性の確立

(ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり

(エ) 食事をトータルで楽しむ企画・運営と満足度向上と喫食率UP

(オ) SDGsを念頭においた取り組み

##### 2. 安定した経営基盤の確立

(ア) 燃料費・原材料費等の高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し

(イ) 適切な住み替えによる安心・安全なサービスの提供

(ウ) 実質入居率100%を目指した入居募集活動への各職場間の横断的な取り組みの強化

(エ) 防災・防犯対策および自然災害におけるBCP(事業継続計画)に基づく職員の実践力向上

(オ) “住んでみたい”と思える空間作りと修繕・設備整備

(カ) 介護報酬改定への適切な対応

##### 3. 人財の育成・活用・定着の強化

(ア) 多様な働き方に対応した採用・定着向上への取り組み

(イ) 障がい者・外国人など多様性を支える職場風土づくりの推進

(ウ) 職場の魅力・強みを語る事が出来る職員の育成

(エ) 交換研修等の実施と職場への成果還元

(オ) 職員の心理的安全性への取り組み

#### 4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染症発生時 BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止
- (イ) 身体拘束、虐待防止への取り組み
- (ウ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止
- (エ) 基本的な接遇の徹底による職員の意識向上と不適切ケアの防止
- (オ) ICT 導入の推進と効率化の検証
- (カ) サービス質の維持・向上につなげるための第三者評価の受審
- (キ) 介護予防活動の積極的展開による潜在的特定高齢者の ADL 維持・向上

#### 5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流の継続的な取り組み
- (イ) 地域との災害時の協力体制の強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と社会課題解決に向けた活動の推進

#### 【数値指標】

2024 年度期末

	一般居室			介護居室			計	
契約戸数	351 戸			49 戸			400 戸	
入居者数	466 名			49 名			515 名	
入居率	97.0%			98.0%			97.1%	
要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	15.5 名	29.1 名	31.1 名	18.2 名	16.5 名	19.9 名	12.9 名	143.2 名
常勤換算職員数	106.7 名						※有料老人ホーム部分	

#### ◆ 高齢者総合福祉センター

2023 年度は、収容人数に制限を設けるなど感染症対策に十分に配慮した上で、園内共用棟でのイベント開催を再開した。新規講師を招聘しリニューアルした「大人のぬり絵講座」、宝塚観劇企画、園内大ホールコンサートについては大きな反響があった。

2024 年度は、OSK 日本歌劇団 OB、現役音大生によるコンサートなど、より多くの人が興味を抱くよう様々なジャンルの演目・演者を招聘し、内容の充実を図る。

#### ◆ ニッセイ聖隷クリニック

2023 年度は、新型コロナワクチンの春と秋の追加接種の受入れを行い増収につながった。入院では、初めてベテルホームとの連携により、入院から入所の流れを構築することができた。また、ケアプランセンターからの困難事例に対しても協力することにより、地域患者の入院に繋げることができた。新型コロナウイルスについては 5 類移行後も発熱外来の継続を行った。

2024 年度は診療報酬の改定に伴い、新規加算等を迅速に検討し取得に繋げる。入院では、がん患者の増加から痛みを取り除き安心して入院生活を送っていただくため、緩和ケアの強化に努める。入居者の定期健診では認知機能セルフチェックを導入し、認知症の早期発見・早期治療に繋げる。また、電子カルテへの移行に伴い、安定稼働後の業務効率化を目指す。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2023年度は、新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行したことにより利用中の生活スタイルや面会、外出などの見直しを行った。特に面会は、訪問人数、時間は制限したが、対面により利用者と家族が触れ合う時間を多く持つ事ができた。また、利用者の相談件数の増加（入所・通所リハビリテーション）及びベッド運用等の見直しにより、入所、短期入所の稼働が過去最高の数値となった。在宅生活の困難により入所希望をする方が多かったと考える。施設内での看取りは継続して5件行えた。

2024年度は、介護報酬改定にあたり加算要件の把握・見直しにより、可能な限り新規加算を算定できる体制を整備したい。利用者の安心、安全・職員の介護負担軽減を目的とした見守りシステム導入の拡大にあたり、スムーズな運用を目指したい。利用者稼働率の安定を目指すために利用者、家族、居宅支援事業所、病院など意見交換を密に連携を深め、選ばれる施設として職員一丸となり取り組む。

◆ ニッセイせいい在宅介護サービスセンター ベル西大和店

2023年度の新規利用者は前年比で増加したが、長期利用者のケア終了が多くあり収益全体ではマイナスとなった。新型コロナ感染症が落ち着き、施設入所や入院ケースが増えていることで在宅生活が続かない傾向にあると考える。

2024年度は限られた人材でも収益アップを目指し、ホームページの更新やヘルパー確保のため賃金の見直しを行う。利用者のサービスを日勤帯に限らず、ニーズに合わせ柔軟に行う。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2023年度は、医療保険件数が減少し介護保険の需要は増加した。利用者の高齢・重症化により医療訪問看護へ切り替わる件数は増加した。少ない職員で連日の訪問看護を提供することができたが緊急対応の増加など職員負担の大きさが浮き彫りとなった。

2024年度は、職員の獲得・育成を実現し、地域内の関係機関・他事業所とともに在宅療養を支える仕組みの整備に力を尽くす。

◆ ニッセイせいいケアプランセンター西大和

2023年度は、地域の会議や研修へ積極的に参加しケアマネジメントの質の向上に取り組んだ。また、常勤職員を増やし地域のニーズに合わせ出来る限り新規依頼を断らず、利用者の望む暮らしが実現できるよう医療・介護・地域との連携を強化した。

2024年度は、介護保険制度改定に対応しながら、選ばれる居宅介護支援事業所運営を目指す。

## ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2024年度はコロナ禍から脱却した園運営にしていくと共に、将来の成長に向けての基盤を着実に作っていく。まずは困難な状況が今後も続く想定される人材の確保について、将来にわたりより安定的な人材採用につながる採用活動の仕組みを構築していく。業務においてはよいプロセスがよい結果を生むと考え、品質管理システム Quality Management System (QMS) として当園が取り組んできたエデン品質管理 Eden Quality Control (EQC) を発展させ、業務の標準化によりサービスの向上やノウハウの継承が自律的にできる体制を構築していく。入居者募集や求人など外部向け情報発信はもちろん、よりよい園の風土づくりを目指して入居者や職員に向けての情報発信を強化する。業務の可視化に取り組み、業務改善、広報活動に活用する。職員のサービスレベルの向上や、ハラスメント対策などを通じ、入居者はもちろん、職員も尊重されていると感じる園づくりを目指していく。

2023年10月に入居者の理解と協力により管理費を改定したが、想定以上に逝去による退去があり、収入の伸び悩みにつながった。また、電気・ガス料金や人件費等含めた諸物価は高騰が続くと想定される。収益維持のために高い入居率を保つとともに、サービスの質を落とすことなく、生産性の向上に向けた構造の見直しを推進する。近隣に同業施設の開設が予定されており、入居者募集においてはより厳しい環境となる中「EQC」「部署間の相互連携」「ファシリティマネジメント（施設管理）」を強みとして、ブランド力を高めることに努めていく。

### 【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”とっていただけるような施設づくりを目指します。

### 【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 安定的な経営基盤の維持
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネへの取組み強化

### 【事業・運営計画】

#### ◆ 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

顧客の視点「入居者も職員も尊重され、ここを選んでよかったと思える」

- ・ 部署間の相互連携を強みとしたシームレスなサービスの提供
- ・ 品位ある園の雰囲気継承（接遇やハラスメントへの理解促進等）
- ・ 働きやすい職場環境の実現（超勤削減などの成果）

業務プロセスの視点「業務の可視化と情報発信を行う」

- ・業務の可視化の推進（業務の仕分けや数値化による業務効率化・改善の件数）
- ・DXの推進と成果の検証を行い、次につなげるための導入経緯のとりまとめ
- ・EQCの新規作成数および改定の推進（件数）
- ・ブランディング、相互理解促進のための情報発信（外部向け/内部向け）の充実
- ・防災体制の充実
- ・大規模改修工事の安全でスムーズな実施

学習と成長の視点「計画的な人材確保とプロセスで質を担保する仕組みの導入」

- ・人材要件の再定義と育成方針の再確認による人材の可視化
- ・多様な働き方の実現に向けた施設で実施可能な取り組みの推進
- ・採用媒体の選定やホームページの充実と採用成果の検証
- ・園内の諸運用見直しの検討
- ・QMSの推進（EQCの発展、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）導入）
- ・大規模改修（外壁、大浴場等）による老朽化対策の実施

財務の視点「持続可能な経営に向けて」

- ・収支構造改善への取組と予算達成

地域における公益的な取組

- ・コンサートや文化講座、健康増進施設等の地域住民の利用（WAC事業）
- ・松戸市との災害避難所協定の継続
- ・地域清掃活動や松戸市社会福祉協議会とのフードバンク活動

【数値指標】

2024年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	294戸	38戸	332戸
入居者数	376名	41名	417名
入居率	93.3%	88.4%	92.7%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	29.5名	19名	21名	21名	4名	15名	7名	

常勤換算職員数	116.76名	※有料老人ホーム部分
---------	---------	------------

◆ 診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

2023年度は新型コロナウイルスやインフルエンザウイルス感染者の報告はあったが園内やクリニック内での感染拡大はなく、感染予防・拡大防止対策がスタッフ内に定着しつつある。感染制限の緩和が進む一方、これまでと同様にクリニックが感染予防・拡大防止の中心的役割

を担いつつ、診療機能を落とさず患者一人ひとりに合わせた医療を提供していくことが必要である。そのためには、チーム医療だけでなく、個人のスキルアップが求められる。外部への研修にも積極的に参加させ、職員の接遇を含めた医療人としての能力を引き上げていくことが重要となる。また、隣接の東松戸病院が2024年3月末で閉院となるため、外部医療機関との連携を充実させなければならない。診療報酬等の改定もあり、取得できる施設基準は速やかに申請し体制整備が必要なものは早期に準備を進めていく。患者、入居者に合わせた医療サービスを提供し、安心してクリニックを利用してもらうためにも、安全で感染管理やコンプライアンスに配慮した運営を行なうことが求められる。そのために、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組んでいく。

### 【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 医療・看護サービスの充実
  - (ア) 各課と連携した退院支援・退院調整の実践
  - (イ) 看取り・ターミナルケアの質向上
  - (ウ) 定期健診結果やイベントの相談からの受診勧奨推進
  - (エ) 外来・入院診療の感染対策の徹底
  - (オ) 高齢者に対する権利擁護の実践
2. 人材育成と連携
  - (ア) 専門職としての接遇・知識・技術向上の推進
  - (イ) 外部研修参加と e-ラーニング（動画等を用いた遠隔講義）受講の推進
  - (ウ) ハラスメント・コンプライアンスを意識した働きやすい職場風土の醸成
  - (エ) キャリアラダー（業務習熟の目安）を活用した人材育成の推進
3. 経営基盤の安定
  - (ア) 病床稼働率80%の維持
  - (イ) 健康経営推進と超勤削減対前年5%
  - (ウ) 新たな算定への情報収集と漏れのない請求業務の実践
  - (エ) 東松戸病院閉院に伴う患者受入体制の構築と指定病院との連携強化
4. リスク管理体制の強化
  - (ア) 施設内 I/A（インシデント/アクシデント）および警鐘事例に対する再発防止策の遵守と予防策の再検討と実践
  - (イ) 高齢者及び認知症患者の理解と対応の推進
  - (ウ) サイバーセキュリティー・災害・感染 BCP（事業継続計画）の検証

### 【数値指標】

診療部門

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	54.0名	5,500円	243日
入院部門	16.0名	13,400円	365日

## 検診部門

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	705名	60名
職員検診	152名	

### ◆ 高齢者総合福祉センター「ニッセイ松戸アカデミー」

2023年度は、アカデミー教室で新しく1教室開講し、イベントでは、まつど国際文化大使を招いてのコンサートなど、松戸市との交流イベントを実施した。

2024年度も引き続き、教室やイベント運営を通して、入居者および地域住民の生きがい作り、仲間作りに貢献していく。

1. 生きがい作りや仲間作りを促進する、魅力ある教室やイベントの運営
2. 地域住民の、教室・イベント参加や別館の施設利用を促す仕掛け作り  
(地域住民への積極的なサービスの解放)
3. 魅力ある教室・イベント運営による入居者募集への貢献

### ◆ ニッセイエデンヘルパーステーション

2023年度は、千葉県指導監査（介護保険法・障害者総合支援法）を年度当初に受け、必要な書類の整備や作成を前倒して実施することができた。新型コロナウイルスの感染対策については、PCR 検査、定期的な抗原検査の実施など感染対策を講じてきた。職員の感染時には、感染症発生時BCPをもとに勤務調整することができ、サービス提供には大きな影響はなかった。

2024年度は介護報酬改定が実施されることもあり、「認知症への対応力向上に向けた取組みの推進」「看取り介護」について、地域の訪問看護ステーションや園と連携しながら質の向上を図っていく。また、職員の処遇改善の検討実施は急務であり、事業継続に向け体制の再構築とスタッフの確保に重点を置き、地域に貢献できる訪問介護ステーションを目指す。

1. 事業継続に向けた新体制の構築
2. 認知症、看取りに特化し質の向上
3. 他課との連携による入居者へのサービス継続

### 【数値指標】

	利用者数	単価
介護給付・障害者支援（日平均）	21.5名	5,000円
予防給付（月利用者数）	20.0名	19,500円
有償(入居者)サービス（月利用者数）	15.0名	9,000円

営業日数=310日（月平均26日）

## ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2023年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の取り扱いが2類相当から5類に変更となり、社会全体が感染対策の緩和に大きく舵を切った。この数年間で社会との関わりが希薄になってしまった方も多いと想像される中で、これまで実施できなかった遠足や施設内コンサートなど、入居者の皆様にお集りいただき、楽しいひとときを過ごしていただくことが、ようやく出来始めた年となった。また、2023年度は東京都住宅供給公社との5年契約の初年度にあたり、これまでの施設運営の他、新たに入居者募集活動も聖隷が担うこととなった。高齢者公益事業部入居者募集センターと連携し各種セミナーや見学会を開催し、新規入居者獲得に結び付けることができた。

人と人との関わりは私たちの生活になくてはならない大切なものである。2024年度はより活発に行事・イベントを企画・実施していくことで、ご入居者の皆様が社会と触れ合い、コミュニケーションを図る機会を増やしていくことが急務である。また食堂運営については2024年4月より新たな業者に運営を委託する事が決定しており、ご入居者からも注目されている。喫食率向上のために食事の質向上は勿論、入居者へのPR活動にも注力していくことが必要である。

地域における公益的な取り組みとして、南大沢連絡会へ引き続き参加しながら南大沢地区で開催される行事や、地域自治体主催の清掃活動など各方面への協力の機会をより増やししながら、2024年度は地域との結びつきを更に強くしていきたい。

募集業務は2年目を迎え、益々結果が求められる年となる。引き続き高齢者公益事業部入居者募集センター及び公社の力も借りながら、全職員がこれまで以上に入居者募集の意識を持ち、新規入居者の獲得、入居率の向上に向け施設一丸となって取り組んでいく。

### 【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

### 【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と聖隷福祉事業団が連携した施設運営

### 【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
  - (ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり
  - (イ) 生活利便サービスの更なる向上
  - (ウ) 入居前からシームレスな情報活用の仕組みづくり

(エ) 時代に合った福祉用具・ICT 機器導入と運用の確立

(オ) 食事サービス向上の推進

## 2. 人材の育成

(ア) 理念・ビジョンを継承する次世代の採用・育成と専門性の追求

(イ) 入居者個々に合わせた接遇の実践

(ウ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

## 3. 地域との交流・協力関係づくりと公益的な取り組み

(ア) 行事等を通じて地域に開かれた施設づくりの実践

(イ) 地域貢献活動への積極的な参画

(ウ) ご入居者と共同・協働による SDGs の実践

## 4. 防災・防犯対策の確立

(ア) 防災対策・ハードの見直しと災害時における近隣企業との協力体制の構築

(イ) 行方不明・離園防止・不審者対応の更なる強化

## 5. 入居者募集

(ア) 入居検討時から全職員参加型の募集活動の実践

(イ) 入居検討者目線で企画するセミナー・イベントの継続開催

(ウ) 東京都住宅供給公社・高齢者公益事業部・各直営施設と連携し効果的な広報活動の実践

### 【数値指標】

2024 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	229 戸/317 戸		41 戸/53 戸		270 戸/370 戸			
入居者数/定員	252 名/429 名		41 名/53 名		293 名/482 名			
入居率	72.2%		77.4%		73.0%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	6.7 名	19.1 名	28.7 名	32.3 名	7.9 名	9.2 名	7.5 名	111.4 名
常勤換算職員数	107.7 名							
サービス活動収益 ※	115,800 千円							

※クリニック南大沢施設診療所のみ

# 在宅・福祉静岡ブロック

2023年7月に在宅・福祉サービス事業部が再編され在宅・福祉静岡ブロックが誕生した。ブロック体制移行に伴う効果の検証にはしばし時間を有するが、我々が担う地域の実情は日々刻々と変化を続けている。さらに、2024年1月の浜松市行政区再編により、その変化のスピードは加速度を増す可能性を帯びているため、当ブロックに属する全事業所は、今まさに発生している地域課題のみならず未来を見据えた地域ニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに合致するサービスが提供できるよう、各地域における事業のスクラップ&ビルドを効果的に実践していく必要がある。また、社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践を改めて我々の原点と捉え、サービス提供困難地域等への積極的な介入を推し進めていく必要性も等しく高いと考える。

そのためには、質の高いサービスを提供し続ける専門職はもとより、事業を支えるマネジャーの育成もスピード感を増し、変容する地域課題に対応し得る人材の育成に注力していく。併せて、有能な人材の発掘と育成に繋げ、静岡ブロックの管理体制がきめ細かいものとなるよう、現行のエリア軸・統括所長軸の2軸管理から、エリア軸・職種軸・事業軸の3軸へとマトリクスを発展させていく。これらの対策を計画的に実践することで、変化を続けていく地域課題にフレキシブルに対応できる組織としての体力を養うとともに、地域実情に応じ事業を超えた法人内外の連携にも積極的に取り組むことにより、地域におけるより強固なセーフティネットを構築していくことを目指す。

## 【在宅・福祉静岡ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

## 【2024年度目標】

「社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践」

現在だけではなく未来を見据え、一手先の質の高い支援を実践する

## 【経営方針】

1. 現在だけでなく未来を見据えた地域課題を検証し、実現性のある計画を立案・実践する
2. 各事業の永続性を見極めた上で事業集約・分散等を図り、効果的な投資に繋げる
3. 専門職の働きやすさ、やりがいを追求したキャリア形成並びに業務革新を促進する

## 【事業計画】

1. 静岡ブロック管理・運営体制のアップデート
  - (ア) 浜松市の新たな行政区に応じたエリアへ再編する
  - (イ) 事業連動等の展開に合致したエリアへ再編する
  - (ウ) エリア軸・職種軸・事業軸の3次元的な管理・運営体制を構築する
  - (エ) 部門会議の体制を再編し、専門職やマネジャーとしての新たな役割・機能を創出する

## 2. 地域課題の抽出と実現可能な計画立案・実践

- (ア) 引佐地域における医療・福祉提供体制を検討し、構築を図る
- (イ) 老朽化した施設の建て替え・大規模修繕等の具体的な計画を立案する
- (ウ) 新たな食事提供体制（直営化、クックフリーズ、配食他）の検討を進める
- (エ) 無料低額宿泊所（日常生活支援住居施設）の開設に向けた協議を進める
- (オ) 「こども」という領域で障害の有無にかかわらず育ちを支援するスキームを策定する
- (カ) 浜松市医療的ケア児等相談支援センターの受託並びに適切な運営に努める
- (キ) 地域実情に応じ、法人内での事業を超えた連携を図る。また、法人外事業との連携も検討し、効果的な地域包括ケアシステムの構築を目指す

## 3. 専門職のキャリアプランの構築と働きやすさ・やりがいの追求

- (ア) ICT化、ロボット導入等に伴う新たな価値観の創造と利用者・職員への還元を促進する
- (イ) 意図的な人材の確保・登用の仕組みを構築する
- (ウ) 専門職の地域における長期的なキャリアイメージが築けるように、各専門職のキャリアプランを形成する
- (エ) 現任マネジャーの業務整理を図り、マネジャーが自施設・職場に注力しやすい環境を設定する。その上で、新任マネジャーへの伴走型支援を徹底する
- (オ) 「次世代マネジャー育成プログラム」を策定し、次世代のマネジャー候補を発掘・育成・擁立する

## 4. 多様な人材の有効活用とサービスの質向上

- (ア) ベテラン専門職やシニア世代、働く上で何らかの制限がある方等の多様な人材が活躍できる仕組みを検討の上、実践する
- (イ) 突発的な欠員等による負担感を軽減するための対応策を、事業所横断的に展開できるように静岡ブロック規模で検討の上、実践する
- (ウ) 適切なサービス提供がなされているかのセルフチェックを徹底するとともに、外部視点によるサービス評価を実施しサービスの質向上を図る

## 5. 運営の安定化

- (ア) 報酬改定の内容を精査し、適切な対応を実施するとともに新たな加算算定に努める
- (イ) 事業を永續するための方針並びに投資計画を策定する
- (ウ) 人件費や物価高騰等による経営への影響度を適時検証し、柔軟かつ迅速な対応を図る

# 和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき  
障害者支援施設みとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター  
聖隷こども発達支援センター和合 聖隷チャレンジ工房和合 相談支援事業所くすのき  
浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和  
地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」になり、感染対策に取り組みながらも日常生活上の規制が緩和され人的交流の機会が戻り始めた。和合せいれいの里では、地域実情に応じ、前年度から計画をしていた「聖隷こども発達支援センター和合」を9月に、10月には2024年度以降の浜松市地域福祉計画を見据え「聖隷福祉総合相談センター和合」と、続けざまに新規事業の開設に至った。また、事業部再編を受け、静岡ブロック運営管理室も和合せいれいの里内に内包し、新たな運営管理体制の構築に至った。このように2023年度は、今までの価値観を刷新し、より地域に求められる新たな機能を獲得していくことを推し進めた1年であった。

2024年度は、2024年1月の浜松市行政区再編、4～6月の介護・障害・医療の報酬改定等に伴う大きな変化の波が到来する。そして、その変化のスピードも加速度を増すことが予想されるため、和合せいれいの里の全事業所は、今まさに発生している地域課題のみならず未来を見据えたニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに適合するサービスが提供できるよう、地域実情を面的かつ立体的に把握していく必要性を強く感じるとともに、それら地域ニーズに応え得る質の高いサービスを提供できる組織へと成長を続ける。

## 【施設理念】

和合せいれいの里の全事業所および全職員は、和合せいれいの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

## 【経営方針】

1. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、地域課題の抽出とライフステージの変化に応じた切れ目のない支援体制の構築を目指す
2. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
3. 専門職の多様なキャリアプランの構築と、AI・ICT・ロボット等の機器やシステムの具体的な活用を図ることで、専門職としての働きやすさとやりがいを追求する
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割等を果たし、地域貢献に取り組む

## 【事業計画】

### 1. ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築

- (ア) 地域ニーズに合致したサービスを計画的に創造、拡充していく  
(浜松市行政区再編に伴う課題抽出・解決策立案 等)
- (イ) 制度の枠を超えた切れ目のない支援体制を構築するとともに、地域への周知に努める  
(聖隷福祉総合相談センター和合の具体的活用、専門職の横断的な働き方の創造 等)
- (ウ) 事業種別を超えた協議を重ね、地域課題を見通す能力（マーケティング力）を醸成する  
(浜松市リハビリテーション病院他との連携モデルの創造 等)

### 2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
- (イ) ICT 機器を活用することでリスクマネジメントを徹底し、事故の発生予防に努めるとともに、利用者の状態変化に早期に気づき状態悪化を抑制していく
- (ウ) 支援困難な方や医療ニーズの高い方等の受け入れを積極的に検討、実践していく。あわせて、稼働率を意識した受け入れの徹底を図る
- (エ) 個性性にフォーカスしたケアに努め、利用者の生きがいややりがいを創造する

### 3. 新たな働き方・やりがい・役割の創造

- (ア) 資格取得や関連研修等の受講を促進し、専門性の向上を図る
- (イ) 和合せいれいの里の専門職としてのブランディングを検討・確立する
- (ウ) 次世代リーダーの育成に注力する。あわせて、育成スキームを確立する
- (エ) 根拠を持ったケアが実践できるように、プリセプター制度等の OJT 体制を再構築する。あわせて、画一的な育成システムではなく、多様性に対応できるシステムを創造する
- (オ) 実装された ICT 機器等の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す。あわせて、利用者・職員への還元効果等の成果を検証し実感する

### 4. 運営安定化の推進

- (ア) みるとす第2単位（あすなろ）の環境改修、老朽化設備等への計画的な投資を図る
- (イ) 施設・事業所の継続性を意識し、新たな価値を生み出す計画的な購入、改修を図る
- (ウ) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る
- (エ) 水光熱費、消耗備品の購入、及び外部委託業者の契約状況等を評価し、適正化を図る

### 5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 静岡県災害派遣福祉チームメンバーを中心に、地域の避難訓練等に参加し役割理解を促す
- (イ) 小中学校や介護未経験者、近隣企業等を対象に、情報発信、介護相談、研修会開催等を通して、介護に対する理解促進、介護離職防止等に貢献する
- (ウ) 学習支援事業へ聖隷キッチン和合の弁当配食を継続する
- (エ) 河川里親制度に登録し、隣接河川の環境美化活動を継続する

【数値指標】

■高齢者入所・通所事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			静岡 ブロック + 基幹相談
	特養入所		短期		通所介護			
	従来型	ユニット型	従来型 (障害)		ユニット型	一般型 介護	予防	
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名		12名	—
利用延数	22,529名	14,124名	6,405名	10,320名	8,431名	247名	1,998名	—
一日平均利用者数	61.7名	38.7名	17.5名	28.3名	27.3名	0.8名	6.5名	—
稼働率	99.6%	96.7%	88.3%	97.5%	56.2%		59.9%	—
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	309日		309日	—
単価（一人一日）	13,291円	15,057円	13,411円	15,064円	10,850円	8,301円	14,636円	—
サービス活動収益	299,449千円	212,668千円	85,898千円	155,469千円	93,988千円		29,243千円	17,748千円
正職常勤換算数	35.4名	24.4名	9.4名	17.0名	6.5名		2.8名	8.8名
パート常勤換算数	9.1名	5.5名	2.1名	4.5名	12.1名		3.1名	2.0名

■障害者入所・通所・相談事業

	聖隷トライサポート 和合		障害者支援施設 みるとす			相談支援 くすのき	中障がい者 相談支援 センター
	介護 予防	共生型 機能訓練 生活介護	施設入所 生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所		
利用者定員	40名(午前・午後・1日)		20名	20名	2名	—	—
利用者延数	12,502名	1,236名	7,248名	6,314名	1,141名	1,743名	—
一日平均利用者数	40.6名	4.0名	19.9名	20.5名	3.1名	—	—
稼働率	74.3%		99.4%	102.5%	156.3%	—	—
稼働延日数	308日		365日	308日	365日	—	—
単価（一人一日）	6,507円	9,100円	19,153円	15,142円	9,743円	—	—
サービス活動収益	93,443千円		138,821千円	95,608千円	11,117千円	30,670千円	48,660千円
正職常勤換算数	10.1名		14.9名	10.0名	—	5.1名	5.0名
パート常勤換算数	6.7名		4.0名	8.2名	—	0名	※3.0名

※他法人出向受入

■就労支援・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				はなえみ和合		かるみあ和合
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	放課後等デイサービス 学校日 休校日		児童発達支援
利用定員	10名	15名	10名	—	20名		30名
利用者述べ人数	2,340名	3,974名	2,213名	132名	3,387名	699名	7,380名
一日平均利用者数	9.6名	14.4名	9.0名	—	17.0名		28.8名
稼働率	96.3%	96.0%	90.0%	—	85.1%		96.1%
稼働日数(延べ)	243日	276日	246日	—	197日	43日	246日
単価 (一人一日当り)	12,636円	11,838円	7,581円	—	7,378円	8,172円	18,533円
サービス活動収益	29,570千円	47,047千円	46,450千円	2,276千円	30,793千円		136,777千円
正職常勤換算数	9.5名				5.5名		15.2名
パート常勤換算数	13.0名(うち、A型利用者 6.2名)				2.4名		4.0名

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価		サービス活動収益	常勤換算職員数	
	369名	1,962件	23,545件	10,430円		246,173千円	33.3名	
聖隷ヘルパーセンター	介護給付		予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)		
		月間	年間	月間	年間		円	円
60名	705件	8,465件	25名	300名	4,600円	3,900円	63,717千円	9.5名
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数			平均単価			サービス活動収益	常勤換算職員数
	介護	予防	予防A	介護	予防	総合A		
2,288件	120件	120件	19,200円	3,700円	3,700円	47,187千円	6.9名	
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防単価	サービス活動収益	常勤換算職員数	
	31,903千円		3,910件	3,340件	4,471円			
	日常生活支援総合事業の予防プラン							
	種別	ケアマネジメント請求件数		うち再委託件数	ケアマネジメント単価		60,813千円	6.1名
	ケアマネジメントA	2,430件		1,950件	4,471円			
ケアマネジメントB	114件		36件	3,246円				
ケアマネジメントC	36件		0件	732円				

# 聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト  
聖隷デイサービスセンター初生

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染対策を講じた上での行事の実施、面会や外出などコロナ禍以前の対応に近づけてきた。事業としては、デイサービスにおいて、栄養マネジメント体制の構築、利用者ニーズに合わせた短時間利用枠の創出、利用者の状態に合わせた機能訓練の見直し、記録システムの導入を行った。特別養護老人ホームにおいても、記録システム、見守り支援システム、インカムの導入、オンラインでの入所申し込みなどの整備を行った。利用者のニーズに応えるべく体制の基礎固めが出来たとと言える。

2024年度は、特別養護老人ホーム、デイサービスでの栄養管理体制を中心としたサービスを展開し、地域にケアセンター初生が何を求められているかを再考し、必要とされるサービスの提供に繋げていく。また、ICT化、ロボット導入等に伴い、新たな価値観の創造と利用者・職員への還元を推進していく。事業を行うにあたり、未来を見据えた支援を実践すると共に、継続可能な運営を検討、構築する1年とする。

## 【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

## 【事業計画】

1. 利用者、地域のニーズに沿ったサービスの推進と構築による質の向上
  - (ア) デイサービスにおいて、事業所としての強みを明確にし、他事業所との連携を強化する
  - (イ) 栄養に関する専門職が積極的に事業に参画し、在宅に訪問するなど栄養マネジメント体制を推進する
  - (ウ) 事業内容について積極的に地域、他事業所へ発信し、双方向のコミュニケーションを目指す
  - (エ) 地域のニーズに沿って、ケアセンター初生の強みが最大限活かせるようサービスを創造、拡充していく（デイサービスにおける持ち帰り食、ショートステイベッドの稼働開始）
2. 働きがいのある職場環境と人材育成の推進
  - (ア) 記録システム、見守りシステム、福祉機器等の活用により、業務の効率化、業務負担軽減を図り利用者、職員への還元を推進する
  - (イ) 利用者の生活の質を向上するため、情報収集、分析、計画立案の実施方法を検討し、実施する
  - (ウ) 目標参画システムを推奨するにあたり、職員への動機づけ、目標設定、達成への指導、支援を実施する
  - (エ) 職員のメンタルヘルスや腰痛等の対象者を減少させるための取り組みを行う
3. 感染症対応、災害時など、いかなる状況においても事業継続ができる体制を構築する
  - (ア) 職員個々が役割を遂行できるように、センター内で定期的な訓練、勉強会を実施する

- (イ) センターにおけるBCP（事業継続計画）を改善し、非常時に地域と相互支援体制が構築できるよう地域と会話をしていく

#### 4. 安定した運営の推進

- (ア) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務の見直しを図る
- (イ) 新規利用者獲得のためのICTを活用した広報活動
- (ウ) 業務の見直しを行う中で、現在の業務契約状況を評価し、適正化を図る

#### 5. 地域における公益的な取組

- (ア) 福祉避難所の役割を果たすことを常に念頭に、地域防災拠点としての組織作りに取り組む
- (イ) 地域包括支援センターと協力し、地域に対しての講義等に専門職を派遣し、地域福祉の向上に貢献する
- (ウ) 各専門職の実習、小・中学校からの福祉体験、特別支援学校の実習受け入れを行い、施設機能を提供する

#### 【経営指標】

	和合愛光園 初生サテライト	和合愛光園 初生サテライト ショートステイ	聖隷デイサービスセンター初生	
			介護給付	総合事業
利用者定員	29人	1人	50人	(50人)
利用延数	10,462人	130人	9,806人	924人
一日平均利用者数	28.7人	0.4人	31.8人	3.0人
稼働率（％）	98.8%	35.7%	69.6%	
稼働延日数	365日	182日	308日	
平均介護度	3.38	3.00	1.7	—
単価	14,500円/日	13,800円/日	10,022円/回	6,386円/日
サービス活動収益	152,356千円	1,797千円	104,702千円	
職員数（正職）	13.7人		5.5人	
職員数（パート）	7.5人		16.3人	

# 聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘  
地域包括支援センター高丘  
聖隷リハビリプラザ I N高丘  
聖隷ケアプランセンター浜松

2023年度は2021年度から続いている住民向けのフレイル予防活動の継続に加え、センター内連携、ケアプランデータ連携システム、HIMVIT活用による業務の効率化に注力した。

また、センター内職員全員で地域に求められている事等について話し合いをし、施設としての理念を確立した1年になった。

2024年度は重度化予防の視点で「質の高い支援」を展開できるような知識の習得やさらなるICT化の推進、また、地域の人が集まれる行事等で地域との関係をさらに強くする。これらの取り組みを通して地域にも利用者にも選ばれる施設、職員のやりがいのある施設を目指す。

## 【施設理念】

わたしたちは地域に根ざしその人らしく自立した生活を支援します

## 【事業計画】

1. 地域の利用者特性をつかみ、ケアセンター高丘内の連携を強化することでセンター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる
  - (ア) 訪問看護ステーション高丘は疾患のアセスメントや勉強会、事例検討等、認知症の理解を深め、病状の進行や身体能力の低下予防に気づく力、対応力を強化し利用者・家族の生活を支える
  - (イ) 聖隷リハビリプラザ I N高丘は介護保険の入口機能を果たしながら専門職として質の高いサービスの提供をする
  - (ウ) 地域包括支援センター高丘は幅広い世代へ認知症の啓発をし、認知症に優しい地域づくりの継続をする。また外国人在住者や地域に必要な資源と活躍できる人材のマッチングなど地域課題に取り組む
  - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は根拠に基づいたケアマネジメントをチームとして実践できる力を高める。特に在宅看取り支援に積極的に取り組む
  - (オ) センター化の強みを生かし、各事業所の事例検討への参加や必要時の訪問同行等を実践する
2. 職員1人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する
  - (ア) 業務の効率化、業務負担の軽減や超過勤務の削減を目指しながらも、安全に「質の高い」情報共有ができることを目的に、AI ケアプランの活用等 ICT化をすすめる
  - (イ) 専門職として地域のサロン講話等地域とつながる機会を作る
  - (ウ) 職員が自分や家族との時間がとれ、心身ともに健康に過ごせるよう職場環境の整備をする

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 施設開放や健康相談、センター祭りなど地域住民が立ち寄る機会を増やし、地域のニーズに応じた活動の継続をする
- (イ) 地域行事（防災訓練等）・学校行事に参加する
- (ウ) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受け入れを行う

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
205 人	1, 115 件	13, 380 件	9, 568 円	128, 310 千円	17.6 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ I N高丘）

介護給付			予防給付		共生型		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数		
23.2 名	594.1 名	7, 128 名	82.7 名	992 名	25.7 名	308 名	80, 311 千円	15.6 名
単価(円)	6, 414 円		32, 288 円		8, 534 円			

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	サービス活動収益	常勤換算職員数		
42, 631 千円	3, 542 件	2, 898 件	4, 666 円			72, 110 千円	7.9 名
日常生活支援総合事業の予防プラン							
種別	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	72, 110 千円	7.9 名		
ケアマネジメントA	2, 437 件	1, 681 件	4, 666 円				
ケアマネジメントB	456 件	0 件	3, 246 円				
ケアマネジメントC	0 件	0 件	2, 195 円				

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
1, 992 件	360 件	16, 200 円	3, 900 円	10 件	4, 400 円	34, 547 千円	5.1 名

# 聖隷コミュニティケアセンター

2023年度は、利用者に寄り添ったサービスの提供を根幹に、介護保険外レンタルの大幅な価格改定を行った。また、地域のニーズに合わせ、地域包括支援センターと共同し、福祉用具の啓発活動を広く地域に発信する仕組みを整えた。

2024年も継続して職員体制の整備を行い、利用される全ての方が安全・安心に在宅生活が送れるよう定期点検とモニタリングを確実にを行い、利用者ニーズに合わせた支援を実施していく。また、在宅だけではなく施設・病院に向けてのレンタルサービスやWEBサイトを活用した販売も導入し、介護保険だけに頼らないサービス拡充していく。販売事業では、店舗ごとの課題に向き合い、必要に応じたサービスを展開していく。

## 【事業計画】

### 1. 利用者満足度の高いサービスの提供

(ア) 利用者が安全に在宅生活を送れるようチーム支援と情報共有を強化

①福祉用具の定期点検訪問を6ヵ月に1度実施し、利用者のニーズをキャッチする

a) モニタリング毎にモニタリング担当者と営業担当で利用者の情報共有を行う

b) 困難ケースは、複数名で訪問を行う等チームアプローチを行う

②職員単独での支援にならないよう職員間で利用者情報共有の場を作る

(イ) 店舗販売の充実と連携

①Webサイトを活用した販売展開を実施する

②病院のニーズを調査し、自動販売機設置を検討する

③高丘配送センターのショールームを充実させ、他店舗では販売できない商品を展示する

④障害のある方でも立ち寄りやすい店舗レイアウトを形成する

⑤店舗内で定期的に共有会を開催し利用者情報の共有が徹底できる体制を構築する

⑥キャッシュレス決済の拡充

(ウ) 施設のニーズに対する新たな介護保険外レンタルサービスの提供

### 2. 人材の確保と育成

(ア) 人員を配置し、フォロー体制の構築

①突発的な欠員が発生した際の応援体制を構築する

②貸与部門と販売部門や店舗間の交換研修を実施し、知識レベルを向上させる

(イ) 次世代を見据えた人材育成

①次期店長候補の育成と店舗実習育成プログラムを構築する

②業務分掌を再構築し、業務ローテーションを可能にする

③熟練職員からの業務継承。計画的に同行訪問の機会を作る

(ウ) 専門職として質のスキル向上

①年間スケジュールに基づき、ビジネスマナーや介護保険幅広い研修を実施する

②業務に必要な外部研修や資格取得を推進する

### 3. 健康経営の推進

(ア) シフト勤務の導入や訪問ルールを設定し、超過勤務が常態化しない仕組みを構築する

### 4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 聖隷の在宅サービス事業所や行政が行う地域に向けた取組みに協賛していく

#### 【数値指標】

	レンタル 件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
コミュニケアセンター	15,315 件	200,824 千円	223,213 千円	20,350 千円	444,387 千円	30.7 人

# 聖隷厚生園 信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

聖隷厚生園まじわりの家

訪問看護ステーション細江

聖隷ケアプランセンター細江

聖隷ヘルパーセンター浜松北

2024年度は引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、利用される方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指す。

聖隷厚生園信生寮では、「利用者の“やりたい”を支援する」「職員が定年まで心身ともに健康で働き続けることができる職場づくり」の2つを基本方針とする。利用者と職員がお互いの気持ちを理解し合える機会を作り、利用者・職員の心理的安全性が保たれた施設を目指す。

在宅部門においては、利用者が望む地域生活が選択できるように、介護保険、障害福祉分野との連携強化を継続し、地域の多様なニーズに対応できる事業運営を目指す。

## 【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために  
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

## 【経営方針】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳のある生活ができる支援を行う
2. 地域課題の解決に向けた取り組み
3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造
4. 介護人材の確保と育成の取り組み
5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

## 【事業計画】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳のある生活ができる支援を行う
  - (ア) 利用者の意思決定支援ガイドラインに基づいて、サービスの利用意向を反映した個別支援計画等の実践に努める。
  - (イ) 身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で行う。
  - (ウ) オムツメーカーと協働して、利用者に負担の少ない排泄介助方法を検討、実施する。
  - (エ) 処遇困難ケースについて、グループスーパービジョンを行う。困難となっている原因を職員同士で分かち合い、利用者との関わり方を模索する。
  - (オ) 虐待防止セルフチェック表を年2回実施し、利用者の尊厳を守る取り組みを行う。
  - (カ) 社会資源を活用した新しい買い物支援のあり方を考え、実行する。
  - (キ) パラスポーツへの利用者参加を推進し、地域社会とのつながりを創る。

- (ク)利用者家族との意見交換を目的とした家族会を開催する。
- (ケ)夜間の宅直看護師が遠隔で利用者状態を目視しながら、夜勤者と情報交換ができるように、LINEの動画通話などを活用した新たな方法を実施する。
- (コ)入所・通所者の咀嚼能力等の口腔機能及び栄養状態を適切に把握し、かたちのある食べ物を口から食べる楽しみを多職種で支援し、食事の付加価値を向上させる。
- (サ)水光熱費、食材料費の価格高騰に考慮した運営を行う。特に給食委託業者と協働し、給食のオペレーションの見直しを行う。
- (シ)施設の指定基準どおりに運営が出てきているか、年1回以上チェックを行う。

## 2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア)訪問看護ステーション細江では、聖隷三方原病院と連携し、浜松市旧北区・旧西区を中心に活動をする。特に高齢者の独居世帯の増加が進む引佐地区への積極的な介入を行う。
- (イ)聖隷ヘルパーセンター浜松北では、細江、引佐、三方原、都田4地区を中心に引き続き地域ニーズに応じていく。また、ヘルパーセンターいなさと協働し、三ヶ日地区への支援に力を入れる。
- (ウ)聖隷ケアプランセンター細江では、学生やセカンドキャリアを目指す人材等が介護支援専門員の仕事に興味を持ってもらえるようにPR活動に力を入れ、人材の発掘から育成までを行い、減少している引佐地区への介護支援専門員の輩出に寄与する。
- (エ)在宅福祉サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同カンファレンスを定期的に行い、支援困難ケースを通じて実質的な連携に取り組み、課題解決の糸口を見出す。
- (オ)聖隷厚生園まじわりの家では、意思疎通ができない利用者に対して、感覚刺激を促す新たな支援を導入し、利用者満足度を向上させる。
- (カ)西部特別支援学校からの体験実習を積極的に受け、卒業後に利用者やその家族が求める地域生活ができるように支援計画を提案する。
- (キ)シオンハウスの今後の事業の方向性を協議し、具体的な動きにつなげる。

## 3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア)最新の介護機器を導入し、「介護の自動化」を推進させる。
- (イ)ノーリフトケア推進を継続し、職員が長く働き続ける職場づくりに努める。
- (ウ)新たに導入した支援記録・請求ソフト(ケアカルテ)の活用を進め、業務省力化を図る。
- (エ)カスタマーハラスメント防止のための仕組み整備し、職員・利用者研修を行う。
- (オ)職員が利用者のためにやりたいことを実現できる自発的な活動を推進させる。
- (カ)レクリエーション機会を通じて、職員同士の交流を活性化させる。

## 4. 介護人材の確保と育成の取り組み

- (ア)各専門職ラダー、コンピテンシー評価を活用し、職員の人材育成を図る。
- (イ)人事企画部と連携し、EPA介護福祉士候補生の学習支援の強化を図る。
- (ウ)聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを積極的に行い、養成校とともに将来の介護人材の育成に貢献する。

(エ) 聖隷厚生園ナルド工房・聖隷ワース工房浜松学園と連携し、障害者雇用や就労継続支援の受け入れを積極的に行う。

#### 5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

(ア) 大規模災害時や感染拡大時にも事業が継続できるように、職員へのBCP（事業継続計画）周知徹底を図る。

(イ) 地域の要請に応じて、災害等発生時には応援職員を派遣する。

#### 【数値指標】

##### ■障害者入所・通所事業

	聖隷厚生園信生寮		聖隷厚生園まじわりの家	
	入所	短期	生活介護	機能訓練
利用者定員	60名	10名	14名	6名
利用者延べ人数	21,535名	3,824名	4,156名	1,082名
一日平均利用者数	59.0名	10.5名	16.3名	4.2名
稼働率	98.3%	104.8%	116.0%	70.4%
稼働日数（延べ）	365日	365日	256日	256日
単価（一人一日当り）	17,799円	10,037円	17,392円	10,593円
サービス活動収益	383,309千円	38,382千円	72,281千円	11,462千円
常勤換算職員数	58.7名		12.1名	

##### ■訪問・居宅介護支援事業

訪問看護 ステーション細江	月平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数		単価		サービス 活動 収益	常勤換算 職員数	
	216名	1,057件	12,685件		9,703円		125,610 千円		
聖隷ヘルパー センター浜松北	介護給付		予防給付		単価		サービス 活動 収益	常勤換算 職員数	
	平均利 用者数	訪問件数		利用者数		介護 (時間)			予防 (月)
		月間	年間	月間	年間				
43名	367 件	4,400 件	22 名	264 名	4,350 円	21,000 円	42,114 千円	4.9名	
聖隷ケアア ンセンター細江	年間請求件数		平均単価		サライト(三方原)		サービス 活動 収益	常勤換算 職員数	
	介護	予防	介護	予防	月件数	月額			
	2,109件	360件	16,600円	4,023円	84件	73,500 円			37,878 千円

# 聖隷厚生園讃栄

救護施設聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド  
地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド  
福祉共同住宅ファーストステップ

2024年度、生活保護法改正に伴う個別支援計画作成の制度化が予定されている。救護施設讃栄寮では利用者の意思を尊重した個別支援計画を作成し、個人の能力に焦点をあてた生活支援を更に充実させ、自立促進を進めていく。障害在宅部門では利用者の生活背景の変化や若年化等がみられており、関連するサービス提供事業所や家族とも情報共有を更に強化し、地域の中で生活を継続するためのサービス提供に取り組んでいく。

## 【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために  
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

## 【経営方針】

1. 利用者の意思を尊重した自立支援の促進
2. 「経験できた」と実感できる利用者主体の個別支援を実施する
3. 利用者の将来を見据えた支援体制と仕組みづくりに取り組む
4. 利用者にとって最適な資源やサービスを提案する
5. 新たな地域ニーズを発掘し、関連するサービス提供事業所と協働する
6. 地域における地域貢献等の公益的な取り組み

## 【事業計画】

1. 利用者の意思を尊重した自立支援の促進
  - (ア) 利用者の自己選択と自己決定を促すことを主眼においた個別支援計画を作成し、実践する。
  - (イ) 地域移行支援、高齢者施設移行支援など、将来の生活を見据えた生活を送れるよう利用者、家族、関係機関と連携し、生活環境を整える支援を行う。
  - (ウ) 利用者の身体介助において安全且つ負担軽減されるよう ICT や福祉機器を活用する。
2. 「経験できた」と実感できる利用者主体の個別支援を実施する
  - (ア) 作業支援や金銭管理支援など日常生活目標にスモールステップを盛り込んだ自立生活支援を実施する。
  - (イ) 歯科受診、口腔ケア支援等の口腔内環境改善、または嚥下体操促進による嚥下機能低下防止等、安全に食事が摂れるよう支援する。
  - (ウ) 地域移行支援や居宅生活訓練において、地域資源の見学や体験機会を提供し、利用者の地域生活への意欲を高めるための取り組みを行う。
3. 利用者の将来を見据えた支援体制と仕組みづくりに取り組む
  - (ア) 生活訓練事業所ナルドでは、利用者の将来に対する家族の意向や自宅での生活状況を把握し、支援者間での情報共有や訪問支援など家族を巻き込んだ個別支援を提供する。
  - (イ) 生活介護事業では、利用者の「働きたい」という意欲を大事にし、将来的な可能性を維持した支援を提供するため、B型就労支援事業所等と循環的な支援体制を構築する。

4. 利用者にとって最適な資源やサービスを提案する
  - (ア) 相談支援事業所ナルドでは、介護・医療・障害・児童等、多種多様な地域ニーズに対応できるよう、児童発達支援センターや訪問看護ステーション、その他サービス提供事業所等と顔をあわせたネットワークづくりに取り組む。
5. 新たな地域ニーズを発掘し、関連するサービス提供事業と協働する
  - (ア) 地域活動支援センターナルドでは、利用者が「誰かと関われる居場所づくり」「次へのステップ」となるために、障がい者相談支援センターなど関連機関と協働する。
  - (イ) 福祉共同住宅ファーストステップでは、利用者の希望のある方に対して関係機関と連携し、地域移行を実現する。更に単身での地域生活に不安を抱える利用者を受入れ、将来的に地域移行を目標とした生活支援を実施する。
6. 地域における地域貢献など公益的な取組み
  - (ア) 生活困窮者支援では、浜松市生活自立相談支援センターつながりと協働し、ケース検討や交換研修等の支援体制を構築し、無料低額宿泊所（日常生活支援住居施設）開設の協議を進める。
  - (イ) 大規模災害や感染拡大発生時等、要請に応じて職員派遣や福祉避難所提供を行う。

【数値指標】

	聖隷厚生園讃栄寮		
	救護入所	救護通所	短期入所(総合支援法)
利用者定員	60名	10名	4名
利用者延べ人数	23,725名	2,920名	1,138名
一日平均利用者数	65.0名	8.0名	3.1名
稼働率	108.3%	80.0%	77.9%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日
単価(一人一日当り)	10,403円	5,070円	7,873円
サービス活動収益	268,682千円		8,959千円
常勤換算職員数	29.8名		

	生活訓練事業所ナルド		ナルド	ファーストステップ
	生活訓練	生活介護	指定相談支援	共同生活援助
利用者定員	10名	10名	—	13名
利用者延べ人数	2,243名	2,432名	—	4,512名
一日平均利用者数	8.8名	9.5名	—	12.4名
稼働率	87.7%	95.0%	—	95.1%
稼働日数(延べ)	256日	256日	—	365日
単価(一人一日当り)	10,046円	7,216円	—	4,559円
サービス活動収益	22,534千円	17,549千円	52,695千円	20,571千円
常勤換算職員数	5.8名		7.7名	3.1名

# 聖隷厚生園ナルド工房

聖隷厚生園ナルド工房では、利用者が地域社会で活躍できる機会を増やすため、2023年度に導入した床ワックス清掃作業に続き、2024年度は喫茶店の営業再開を目指す。利用者が自己実現に向けて現状から次のステップをイメージすることができるように、様々な職業経験を積むことができる環境を作り、仕事にやりがいを感じられる事業所を目指す。

## 【施設理念】

働くことが『生きる喜び』となるように共に歩みます

## 【経営方針】

1. 利用者の仕事へのやりがいを引き出し、次のステップがイメージできる取り組み
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
3. 就労支援を支える人材の質の向上と職員が安心して働ける職場作りの取り組み
4. 地域における公益的な取り組み

## 【事業計画】

1. 利用者の仕事へのやりがいを引き出し、次のステップがイメージできる取り組み
  - (ア) 喫茶店の営業を再開し、利用者へ販売・接客の仕事を提供することで、仕事の幅を広げる機会を作る。SNS等を活用し、プロモーションに力を入れることで、人が集まる事業所を目指す
  - (イ) 利用者の目標設定のカンファレンスでは、職業準備性ピラミッドに基づき、できたこと、頑張ったことを定期的にフィードバックするとともに、自己の課題を知り、働く時間や日数を増やす等、次のステップを明確にした計画を立てる
  - (ウ) 利用者が企業での就労をイメージできるように「5S活動」に取り組む。職員と利用者が一緒に働きやすい職場について意見交換を行う
  - (エ) 就労支援のグループワークでは、早期の企業見学や実習を行い、就職へのイメージが持てる取り組みを行う
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
  - (ア) 生活訓練事業所ナルドと協働し、利用者のステップアップや再チャレンジの仕組みを共有する。生活訓練事業所から就労支援事業所への体験会を積極的に行う
  - (イ) 聖隷ワース工房浜松学園と協働し、就労継続支援B型からA型へステップアップできるように、実習機会を設ける等の仕組み作りを行う
  - (ウ) 相談支援事業所や在宅サービス事業所と協働し、健康管理等に課題のある利用者が安定して就労ができるように、担当者レベルでのタイムリーな情報交換を行う
  - (エ) 「就労パスポート」(厚生労働省推進ツール)を活用し、利用者が働く上で、自分の特徴や希望する配慮を自ら整理ができるように支援する。また、企業担当者や関連機関と情

報共有し、必要に応じてジョブコーチ等を提案する

- (オ) 特別支援学校の進路担当者と情報交換し、生徒・保護者が進路の見通しが立つようなアセスメントが行えるように、計画的かつ効果的な実習を行う

### 3. 就労支援を支える人材の質の向上と職員が安心して働ける職場作りの取り組み

- (ア) 外部研修やe-ラーニング、スキルラダーを活用し、利用者の障がい特性の理解や職業指導スキルの向上ができる学びの機会を作る
- (イ) 新たに導入した支援記録・請求ソフト（ケアカルテ）の機能を活用し、業務の効率化を図るとともに、捻出した時間を利用者支援に活かしていく
- (ウ) 虐待防止セルフチェックを年2回実施し、利用者への関わりや職場環境について定期的に振り返り、利用者・職員ともに安心して働くことができる環境作りに役立てる

### 4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 近隣施設と合同防災訓練を企画・提案し、有事の際に協力ができる関係作りをする

#### 【数値指標】

	聖隷厚生園ナルド工房		
	就労移行支援	就労継続支援B型	就労定着支援
利用者定員	10名	30名	20名(利用者数)
利用者延べ人数	2,125名	6,313名	10名(登録者)
一日平均利用者数	8.7名	26.0名	-名
稼働率	87.0%	86.6%	-%
稼働日数(延べ)	243日	243日	-日
単価(一人一日当り)	9,946円	8,997円	26,075円
サービス活動収益	21,136千円	56,795千円	3,129千円
常勤換算職員数	10.8名		

# 浜松学園

障害者支援施設 聖隷チャレンジ工房浜松学園  
就労継続支援 A 型事業所 聖隷ワース工房浜松学園  
生活介護事業所 聖隷ステップサポート

2024 年度は「他者の幸せのために働く」「利用者サービスのさらなる向上」「新しいことへの挑戦」の 3 つを柱に、利用者も職員も「浜松学園で働くことに誇りが感じられる」施設運営を目指す。利用者や職員の“やってみたい”を大切に、働くことの楽しさや喜びを感じられる斬新な事業展開を目指す。

## 【施設理念】

『働く』・『暮らす』 — その人らしい未来を描けるようともに歩む —

## 【経営方針】

1. 「働く」平均工賃 25,000 円／月、6 か月就労定着者 15 名以上を目指す
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる
4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み
5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化
6. 地域における公益的な取り組みを行う

## 【事業計画】

1. 「働く」平均工賃 25,000 円／月、6 か月就労定着者 15 名以上を目指す
  - (ア) 利用者リーダーを中心とした作業運営を基本とし、利用者の主体性を引き出す支援を行う
  - (イ) 全作業の業務マニュアルを整備し、作業活動の効率化と標準化を図る
  - (ウ) 職場見学や体験実習先を開拓し、利用者が就労する上での課題を見出せる機会を提供する
  - (エ) 就労パスポートはケース担当者が中心となり、利用者、作業担当、就労支援員と共同して作成し、相手先企業に対し、利用者の能力や特性をわかりやすく説明できるようにする
  - (オ) 就労定着支援では、就労支援員だけでなく、ケース担当者も就職先へ出向き、多くの職員が就職後も利用者となつながることで、離職防止につなげる支援を行う
  - (カ) 浜松学園の敷地を活用して、利用者とともに楽しめる斬新な作業活動を企画提案する
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
  - (ア) 特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障がい特性に基づくアセスメントを行い、PDCA サイクルによる“チーム”で課題解決できる支援をする
  - (イ) 利用者の個別ニーズに考慮した生活講座を行う
  - (ウ) 共用部や自室の清掃時間を決めて、身の回りの整理整頓が習慣化できるよう支援を行う
  - (エ) 体験利用者の心に残る浜松学園のオリジナル食事メニューを開発し、提供する

- (オ) 利用者による自治会運営では、利用者自身が生活の仕方やルールをグループで考え、自ら決めて生活できることを支援し、自立を促進する
- (カ) 利用者と職員がともに計画し、楽しめる行事企画を行い、個別支援に必要な関係性を築く
- (キ) 就職後に暮らすグループホームの必要性とあり方について検討し、提案する

### 3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる

- (ア) 就労している先輩の体験談や職場見学、職場実習の経験を基にグループワークを行い、利用者個々に“仕事する上で大切なことは何か？”を考える機会を提供する
- (イ) 職場でのコミュニケーションの課題解決をするための社会生活技能訓練を行う
- (ウ) パソコン検定やクリーニング師など資格取得の支援を行い、利用者の自信につなげる

### 4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み

#### (聖隷ワース工房浜松学園)

- (ア) 新たな業務として iPad や PC の初期設定作業の導入と、filo 事業では菓子製造の生産力アップやオープンカフェの開始などで事業収益の増収に努める
- (イ) 生産活動、支援力の向上、地域連携活動を強化し、スコア値のさらなる向上を目指す
- (ウ) 『filo きずなプロジェクト』として菓子箱やショップカードに障がい者アートを採用し、障がい者の地域社会とのつながりを支援する活動を開始する
- (エ) 下半期に 1 名以上の就職 6 カ月定着者を輩出する

#### (聖隷ステップサポート)

- (ア) 五感を刺激するレクリエーションやリハビリテーションを取り入れ、重度の肢体不自由者が楽しめる活動を充実させる
- (イ) 利用者が安全で居心地のよい環境を整備する
- (ウ) 地域の短期入所事業への送迎方法など組織間連携を強化して、利用者のサービスの使いやすさにつなげる

#### (短期入所)

- (ア) 土日祝日の開所を行い、多くのニーズに応えることのできる体制を整える
- (イ) 施設入所を検討している中学・高校生に対して短期入所の定期利用を勧め、入園後の生活イメージを育む支援を行う
- (ウ) 保護者と一緒に宿泊体験ができる取り組みを行う

#### (全事業)

- (ア) 2025 年度に創設される就労選択支援の実施に向け、今後の入園選考会の在り方を検討する
- (イ) 障がい者虐待防止に関する研修会開催や定期的な自己チェックを行い、職場内で共有する
- (ウ) オープンキャンパスを行い、新規利用につなげるための情報公開をする取り組みを行う
- (エ) ソーシャル・ネットワークキング・サービス (Instagram) や介護記録閲覧サービス (ケアカルテライブ) などを活用し、保護者・関係者に情報発信を行う
- (オ) 地域社会への啓発と関係者が集うことを目的とした第 1 回浜松学園祭 (仮称) を開催する
- (カ) パラスポーツの参加を推進し、利用者と地域とがつながる機会をつくる
- (キ) 給食では食材料費や人件費の高騰を鑑みて、献立やオペレーションの見直しを行う

5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化

- (ア) BCP（事業継続計画）の周知徹底を行い、非常災害時に備える
- (イ) 外部講師を招き、定期的に職員の倫理観を養う研修を行う
- (ウ) e-ラーニングを活用し、障がい者就労支援の知識を全職員で共有し、実際の支援に生かす
- (エ) 研究論文発表で必要な知識を習得するためのグループディスカッションを定期開催する

6. 地域における公益的な取り組みを行う

- (ア) 民間企業に対して、体験利用や宿泊体験などを通じて社員研修の機会を提供し、障がい者就労支援の啓発につとめる

【数値指標】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園				
	施設入所	短期入所	就労移行	就労継続 B	就労定着
利用者定員	60名	10名	30名	30名	—
利用者延べ人数	12,275名	1,260名	7,465名	8,880名	442名
一日平均利用者数	35.1名	4.2名	29.0名	34.5名	—
稼働率	58.5%	42.3%	96.8%	115.2%	—
稼働日数（延べ）	350日	298日	257日	257日	—
単価（一人一日当り）	3,554円	8,688円	14,882円	12,526円	—
サービス活動収益	43,622千円	10,947千円	111,094千円	111,230千円	15,679千円
常勤換算職員数	31.2名				

	ステップサポート	ワース工房
	生活介護	就労継続 A
利用者定員	20名	15名
利用者延べ人数	5,131名	3,199名
一日平均利用者数	20.1名	13.2名
稼働率	100.2%	87.8%
稼働日数（延べ）	256日	243日
単価（一人一日当り）	12,640円	49,567円
サービス活動収益	64,858千円	158,565千円
常勤換算職員数	8.3名	5.9名

## 軽費老人ホーム もくせいの里

もくせいの里は、1978年に軽費老人ホームA型として設立され、建築後45年が経過した。2024年度は、三方原地区における再開発計画に合わせて、老朽化した施設の建替えの検討、今後の事業形態の在り方について具体的な計画を策定する年度とする。

入居者サービスについては、「もくせいの里で安心して暮らしたい」との思いに応える取り組みを行う。遠足・外出企画での行先の提案や、食堂で使用する各種食器類の選定など、入居者自らが主体的に選択して生活していくことを推進していく。認知症予防について、定期的に簡易認知機能検査等を行い、個別の状況に応じ必要なサービスに結び付けていく。さらに、理学療法・作業療法に加え、新たに言語聴覚士による言語聴覚療法の導入を図り、嚥下・聴覚機能等の維持・向上を図っていく。このようなフレイル対策と併せて、アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）にも取り組み、将来の意向を確認していくと共に、現在抱えている個人課題を発見し、課題解決に向けて取り組んでいく。

最後に、新型コロナウイルス等の感染症への対応や食品ロス低減も含めた物価高騰への対策、さらに南海トラフ地震への備えの強化をしっかりと取り組み、健全運営を推進していく。

### 【施設理念】

入居者の自由と尊厳ある生活を支援し、穏やかで明るい生活作りをめざす

### 【経営方針】

1. 職員間、職場間、また法人内の他事業所との連携を強化し、入居者がもくせいの里で安心した生活が過ごせる支援を行う
2. 入居者・利用者に満足していただける質の高い食事提供を行う
3. 老朽化している施設の設備更新をはかり、安心して利用できる施設を目指す
4. 入居者と職員が協力して地域との交流を図り、地域貢献を積極的に行う

### 【事業計画】

1. 質の高いサービスの追求と提供
  - (ア) 施設理念を具現化していくため、外出行事の行先や日程、各種レクリエーション等、日々の生活場面において、入居者自身が決定していく機会を提供していく。
  - (イ) より有効なフレイル予防のため、外部のリハビリ専門職を活用していく。2024年度からは言語聴覚士による支援を新たに導入していく。
  - (ウ) 認知症の早期発見や進行確認のため、定期的に簡易認知機能検査等を活用して状態把握を行う。必要に応じ、病院受診の推奨や地域包括支援センター細江に繋げていく。
  - (エ) 食事について、嗜好調査や日々の聞き取りを行い、満足度を向上させていくと共に、食事に関する行事や企画について、入居者と職員が協同して一緒に作る内容としていく。
  - (オ) 配食サービス利用者の配食時（安否確認時）の状況について、家族や地域包括支援センター・担当介護支援専門員と情報共有していく。

## 2. 健全運営の推進

- (ア) 光熱費や食材料費等の物価高騰に対し、電気料は2023年度比110%以下、ガス代、食材料費については2023年度同程度を目指す。
- (イ) 短・中期的将来の配食サービスの在り方について、在宅・福祉静岡ブロックと共に検討を開始する。
- (ウ) 地域包括支援センター等関係機関に対し、待機者状況を定期的に提供し、待機者確保に取り組む。
- (エ) 新型コロナウイルス等の感染症対策については、これまで同様に入居者の協力を得ながら継続していく。また、施設内蔓延に備え、衛生用品等の不足がないよう準備する。
- (オ) 南海トラフ地震への備えを強化し、消防・防火設備点検等での不具合は早期に改善していく。

## 3. 職員の質の向上

- (ア) 相談員・介護職員のソーシャルワーク実践力を高めるため、専門職ラダーの取り組みや外部研修に積極的に参加していく。
- (イ) アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）に取り組み、入居者の将来の変化に対応していく。
- (ウ) 各部署や職種間の業務内容の相互理解を促進し、連携力を高めていく。
- (エ) 他の軽費老人ホームとの交流の機会を設け、支援の幅を広げる取り組みを行う。

## 4. 地域社会への貢献

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託する。
- (イ) 近隣幼稚園との定期的な交流を行う。隣接する高台幼稚園とは、「ふれあいニコニコデー」として年間7回の交流会を開催する。
- (ウ) 浜名区細江町湖東地域住民ともくせいの里入居者の交流を目的に、毎月開催される「湖東公民館サロン」の運営委員会に参画する。

### 【数値指標】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利用者定員	50名	—	
利用者延べ数	18,104名	14,691名	
1日平均利用者数	49.6名	47.7名	
稼働率（％）	99.2%	—	
稼働日数（延べ）	365日	308日	
単価（一人一日当り）	6,044円	700円	
サービス活動収益	110,312千円	10,284千円	120,596千円
常勤換算職員数	12.7名	2.4名	15.1名

# いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園  
いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)  
聖隷ケアプランセンターいなさ  
いなさ愛光園在宅介護支援センター  
いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)  
ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)  
ひとり暮らし高齢者等配食サービス

2023年度は、施設として新型コロナウイルス感染症への対応方法を確立し、一定の条件下であったが、地域住民によるボランティア活動や今まで休止してきたイベント等を再開することができた。改めて地域に支えられながら運営できる喜びを感じる1年となった。

介護保険事業は、「引佐地域のまるごと聖隷」を掲げ、引佐の地域住民が安心して生活を営めるよう、地域の全事業で切れ目のないサービス提供体制を目指した。第一段階として、ケアセンターいなさ内にいなさ愛光園在宅部門のサテライト事務所を設置し、利用者情報や地域課題をタイムリーに共有、サービスに繋げる取り組みが構築できた。

2024年度は利用者・家族、地域の方々の意向やニーズを中心に据え、最高のサービスを追求すると共に、引佐地域・佐久間地域との連携・運動を加速させる。今後、中山間地域における担い手不足は事業継続の脅威となりうるが、ICT機器や福祉機器の活用による生産性の向上や、職員が安心して長く働き続ける職場環境の整備に注力したい。そして、未来を見据えた事業を継続する為に、地域に根差して活躍できる職員育成に取り組み、中山間地域での多様なニーズに応えられる事業運営を目指す。

## 【施設理念】

利用者の尊厳保持を援助の基本に捉え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

## 【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める

## 【事業計画】

1. 中山間地域における多機能型施設として、引佐地区全域で切れ目のない支援体制を構築する
  - (ア) ケアセンターいなさ・三ヶ日地区在宅複合事業・さくまの里との連携を構築する
  - (イ) 事業所間の理解と連携を高めるために、連携会議や交換研修を開催する
  - (ウ) 地域のサロンや地域ケア会議等に参加し、地域課題の発掘をおこなう
  - (エ) 医療・福祉提供体制について、検討・事業化の可能性を模索する
  - (オ) リハビリプラザいなさと連携し、送迎業務について送迎職員の一本化を図る

## 2. 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した支援をする

- (ア) 個別性に焦点をあて、利用者の意向や尊厳を尊重するケアを追求する
- (イ) 感染症対策として自粛していた活動を再開し、利用者に喜ばれるイベントを開催する
- (ウ) 利用者が清潔で明るく安全な環境で過ごせるよう、定期的な環境整備を実施する
- (エ) 在宅から入居まで一貫したサービスを提供する為に、在宅・施設部門の連携強化に努める

## 3. 人材育成と職員が長く活躍できる環境づくりを推進する

- (ア) ICT 機器や福祉機器を効果的に活用し、利用者・職員へ還元する体制を整備する
- (イ) 職員のワークライフバランスを意識し、全事業の業務改善に取り組む
- (ウ) 次世代を担う役職者及びリーダー職員を育成する
- (エ) 施設内外への異動や研修を意図的に行い、地域で活躍できる人材を育成する
- (オ) シニア世代が活躍できる職場体制を構築する

## 4. 安定した施設運営をする

- (ア) ICT 機器等を活用し、効果的・効率的な職員配置を実施する
- (イ) 食事提供に関して、完全調理品の導入を含めた検討を進める
- (ウ) 自然災害発生時における業務継続や防災計画の定期的な見直しと周知をする
- (エ) 経営状況を踏まえて修繕計画及び設備・備品の更新をする
- (オ) 報酬改定の内容を精査し、新規加算取得に努める

## 5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 家族介護者教室の企画運営やサロン活動等を運営支援する
- (イ) 地区社協主催の地域の子供行事に参画する
- (ウ) 自治会の防災訓練に参加し、連携を図る
- (エ) 福祉避難所として必要時に開設想定できるよう準備する

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通常規模型通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利用者定員	30名	40名	20名	35名	
利用者延べ人数	10,707名	14,449名	6,169名	7,838名	889名
一日平均利用者数	29.3名	39.6名	16.9名	25.4名	2.9名
稼働率	97.8%	99.0%	84.5%	80.7%	
稼働日数（延べ）	365日	365日	365日	309日	
単価 （一人一日当り）	13,614円	15,102円	13,640円	9,945円	
サービス活動収益	145,796千円	218,252千円	84,146千円	86,801千円	
常勤換算職員数	48.8名		15.1名	13.7名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応型通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利用者定員	9名			12名	
利用者延べ人数	3,230名	1,965名	720名	2,903名	0名
一日平均利用者数	8.8名			9.4名	0名
稼働率	98.3%			78.3%	
稼働日数（延べ）	365日	365日	365日	309日	
単価 （一人一日当り）	13,956円	17,779円	3,833円	13,162円	
サービス活動収益	45,077千円	38,623千円		38,208千円	
常勤換算職員数	7.3名	5.0名		7.4名	
	訪問介護		居宅介護 （障害）	配食 サービス	在宅介護支 援センター
	介護	予防			
利用者定員					
利用者延べ人数	2,537名	942名	540名	970名	
一日平均利用者数	7.0名	2.6名	1.5名	3.3名	
稼働率				—	
稼働日数（延べ）	361日	361日	361日	294日	365日
単価 （一人一日当り）	4,708円		3,989円	716円	
サービス活動収益	16,613千円		2,154千円	695千円	
常勤換算職員数			5.0名		
	合計				
単価 （一人一日当り）					
サービス活動収益	676,365千円				
常勤換算職員数	102.3名				

# 聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江

聖隷リハビリプラザいなさ

2024年度浜名区旧引佐三町地域は、高齢者が増加する一方で支援の担い手の減少、病院の診療科の縮小や診療所の医師の高齢化などによる地域医療の先細りが心配される状況が進み、高齢者が住み慣れた地域で生活することがますます困難になることが予想される。社会資源が乏しい当該地域において本人の住み慣れた地域で本人が望む生活の継続実現の為、地域のニーズに合致した事業をケアセンター内のみならず、法人内の他事業所と連携・協働し展開していく。

## 【拠点理念】

隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる

## 【経営方針】

旧引佐三町において、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現をめざし地域で支援を必要とする要援護者及びその家族等の人権、自立心、価値観等を尊重し柔軟で包括的な支援を実施する

## 【事業計画】

### 1. 住み慣れた地域での生活継続の支援体制づくり

#### (ア) 各事業所の地域への支援

##### ① 地域包括支援センター細江

幅広い世代への周知や他分野機関との連携による早期発見・対応機能の充実を図る

##### ② 聖隷リハビリプラザいなさ

専門性を活かした個別プログラムの提供を行い困りごとの解決

健康管理、各機関との連携による重度化予防の充実を図る

#### (イ) 認知症の周知

- ##### ① 地域の小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関を中心に認知症サポーター養成講座及び認知症ひとり歩き模擬訓練を開催

#### (ウ) 意思決定支援の推進

- ##### ① 引佐郡医師会と協働し地域向け市民フォーラムの開催

### 2. 運営の安定化

(ア) リハビリ特化型デイサービスの強みを生かした専門性を発揮できるフロア体制づくり

(イ) いなさ愛光園と連携した送迎の効率化

(ウ) 職員が働きやすく、やりがいを感じられる職場づくりの取組

### 3. 拠点機能の強化

#### (ア) いなさ愛光園との連携の強化

- ① いなさ愛光園在宅サービスによる設備の活用と地域向け広報活動の実施

#### (イ) 地域の支援者との連携の強化

- ① ケアマネジャーをはじめとした地域の支援者の事例検討会、地域ケア会議、ネットワーク会議等の開催支援

- ② 地域の社会資源の情報収集と発信

#### (ウ) 高齢者分野以外の要援護者、多問題世帯への支援

- ① 法人内障がいサービス事業所との連携

- ② 浜松市北障がい者相談支援センター、浜松市生活自立相談支援センターつながり、医療機関、行政等との連携による支援困難世帯、虐待高リスク世帯への対応力強化

### 4. 地域における公益的な取組

#### (ア) 自主運営のノルディックウォーク愛好会の継続的な活動の支援

#### (イ) 学習支援教室継続へ会場提供を通じた支援

#### (ウ) いなさ愛光園・聖隷訪問看護ステーション三ヶ日・聖隷ケアプランセンター三ヶ日と連携し、地域に向けた定期的なイベントと相談会の実施

#### (エ) 地域交流スペースを地域のつながりの場として活用

#### 【数値指標】

##### 地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

市受託収入	予防支援等	内再委託 件数	予防マネジメント 単価	総収入	常勤換算 職員数
54,274 千円	介護予防 4,344 件	3,360 件	4,471 円	89,673 千円	10.2 名
	マネ A 2,796 件	1,980 件	4,471 円		
	マネ B 1,068 件	— 件	3,246 円		

##### 通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価		総収入	常勤換算 職員数
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
27.2 名	660 名	7,918 名	100 名	1,324 名	7,422 円	27,741 円	95,940 千円	16.9 名

# 聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原  
聖隷ケアプランセンター三方原  
聖隷デイサービスセンター三方原

2023年度は、新型コロナウイルス感染予防対策が緩和され、利用者、職員の生活が少しずつ以前の状況に戻ってきた。2024年度は、3事業所の強みを活かした質の高いケアを提供し、また近隣の施設と連携することで、地域で暮らす方々の「その人の望む生活」を支援する。

## 【拠点理念】

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

## 【経営方針】

1. 近隣の施設と連携し、地域で暮らす方々が最期まで「その人の望む生活」を支援する
2. 予防から終末期まで、様々なご利用者への理解を深め、個々の利用者に寄り添う支援を提供する

## 【事業計画】

1. 近隣の施設との連携
  - (ア) 聖隷デイサービスセンター初生との連携
    - ① 職員がそれぞれの施設・役割を知るために職員交換研修、合同事例検討会を行う
    - ② ご利用者の合同イベントを開催する
  - (イ) 近隣の病院との連携
    - ① 聖隷三方原病院外来リハビリテーション終了後の後方施設として連携する
    - ② 浜松医科大学退院支援部門、消化器病棟との連携を促進する
  - (ウ) 地域包括支援センターとの連携
    - ① 地域の研修会・交流会への参画・情報交換を行う
2. 3事業所の強みを活かし、質の高いケアを提供する
  - (ア) 利用者個々の心身機能を把握し、個別性と効率性を重視した運動・生活動作の支援
  - (イ) 希望者に対し、認知症機能評価を実施し共有する
  - (ウ) 「その人の望む生活」を3事業所で聞き、それに沿った支援を共有・提供する
3. 職員が生き生きと働くことができる環境作りと経営の安定化
  - (ア) 業務の効率化を図るため、フロア業務、帳票の見直し、ICT化を推進する
  - (イ) 専門職が働きやすさ、やりがいを満たすことができるようケアサポーター、ボランティアを活用する

#### 4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) ロコモーショントレーニングサロン活動の内容を継続する
- (イ) 地域活動（認知症高齢者声掛け訓練・防災訓練等）に積極的に参加する
- (ウ) 健康秋祭りを開催し、地域の方々に「楽しみの場」を提供する

#### 【数値指標】

##### 訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
180人	913件	10,956件	9,689円	110,446千円	15.7名

##### 居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	介護	予防				
1,950件	636件	16,000円	636件	12件	4,400	34,113千円	5.1名

##### 通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(日)	予防(月)		
31.7人	816件	9,794件	69人	828人	6,640円	28,624円	89,166千円	18.0人

##### 通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
1.4人	39人	468人	8,940円	4,188千円	18.0人

# 三ヶ日地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

聖隷ケアプランセンター三ヶ日

2023年4月より三ヶ日地区在宅複合事業を開始し、「住み慣れた地域で暮らしたい」という地域ニーズに貢献できる体制の構築を目指してきた。2事業所が更なる連携強化を図り、在宅療養の浸透と「家にいたい」を支えていく。

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日では、三ヶ日町において「望む療養が自己決定できる地域づくり」を目指し、湖西地区においては関係機関との顔の見える関係づくりを強化し、聖隷訪問看護の浸透を図る。

聖隷ケアプランセンター三ヶ日では、介護や医療が必要な状態になっても、地域で住み続けられることが出来る支援体制の強化を図る。

## 【施設理念】

利用者と家族に寄り添い、住み慣れた地域で「自分らしく安心して暮らせること」を支え続ける

(聖隷訪問看護ステーション三ヶ日)

## 【経営方針】

1. 地域への意思決定支援の推進
2. 医療機関やサービス事業所と連携し、早期から切れ目のない支援を行う
3. 職員が元気に、安心して働くことができる環境づくり

## 【事業・運営計画】

1. 地域への意思決定支援の推進
  - (ア) 地域のサービス事業所や民生委員へ向けた勉強会開催
  - (イ) 訪問看護通信での情報発信
  - (ウ) なおとらシート、人生会議手帳の利用推進
2. 医療機関やサービス事業所と連携し、早期から切れ目のない支援を行う
  - (ア) 聖隷三方原病院外来との連携強化
  - (イ) 難病患者が多い聖隷浜松病院、浜松医科大学医学部附属病院への広報活動強化
  - (ウ) 聖隷ケアプランセンター三ヶ日との連携強化
    - ① 合同カンファレンスや地域の居宅介護支援事業も含めた事例検討会開催
  - (エ) 地域包括支援センター細江と連携し、出前講座の継続
3. 職員が元気に、安心して働くことができる環境づくり
  - (ア) 超過勤務時間削減のため、直帰の推奨
  - (イ) カンファレンスの充実
  - (ウ) 何でも相談できる環境づくり
  - (エ) ナーシングスキルを活用した自己学習の推進

#### 4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域包括支援センター細江と連携し、地域に向けた定期的なイベント開催

##### 【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
123 人	494 件	5,924 件	9,517 円	56,617 千円	8.4 名

(聖隷ケアプランセンター三ヶ日)

##### 【経営方針】

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制作りの推進
2. 運営の安定化
3. 働きやすく、やりがいを持って仕事ができる環境づくり
4. 地域における公益的な取り組み

##### 【事業・運営計画】

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制作りの推進
  - (ア) 聖隷訪問看護ステーション三ヶ日との連携で地域の在宅療養体制の発信・強化
    - ① 定期事例検討会の開催
    - ② 聖隷三方原病院への病棟ラウンド、退院支援看護師会議への参加継続
  - (イ) いなさ愛光園、聖隷リハビリプラザいなさとの連携で、地域の介護体制の強化
  - (ウ) 各サービス事業所・医療機関と顔の見える関係性の維持
    - ① 地域包括支援センター主催の研修への参加
  - (エ) 意思決定支援の推進
2. 運営の安定化
  - (ア) 継続的な新規利用者の受け入れを行う。特にターミナル期利用者に対しては、聖隷訪問看護ステーション三ヶ日と連携し、積極的に受入れる
  - (イ) 超過勤務時間削減のため、直行直帰の活用
  - (ウ) 新たな担い手の確保
    - ① 法人内のケアマネジャー試験対策講座への協力
3. 働きやすく、やりがいを持って仕事ができる環境づくり
  - (ア) 計画に基づいた研修への参加と伝達、勉強会の実施で得た知識を利用者に還元する
  - (イ) AI ケアプラン、ケアプラン連携データシステムの導入による業務効率化
4. 地域における公益的な取り組み
  - (ア) 地域包括支援センター細江と連携し、地域に向けた定期的なイベントの開催

##### 【数値指標】

年間請求件数			平均単価(円)			サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	サテライト	介護	予防	サテライト		
2,028 件	396 件	84 件	15,900 円	3,900 円	73,500 円	34,748 千円	5.3 名

# 浜松市生活自立相談支援センターつながり

生活困窮者自立支援制度が施行される前よりモデル事業としてスタートし、制度施行後も浜松市の受託事業として生活困窮世帯に対する支援を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症流行に伴い生活困窮世帯が急増し、生活困窮世帯に対する支援の必要性がこれまで以上に高まった。

2023年度は新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着き相談数も減少傾向であるが、緊急一時的な給付金等の制度が終了し、生活困窮に陥る世帯が継続して見られている。また、相談者は医療や福祉等各種制度につながりにくい「制度の狭間」にいる特徴がある。

2024年度は「制度の狭間」にある生活困窮世帯に対して、現状提供している各種支援内容を整備・強化していく。また、社会福祉法人として地域ニーズに沿った支援を展開していけるよう、事業団内外の関係機関や地域と今まで以上に連携を図り、生活困窮支援に取り組んでいく。

## 【施設理念】

全ての相談に心を傾け、受け止め、伴走しながら『生き活きと生きる』ことを支えます

## 【経営方針】

1. 地域における公益的な取り組みを推進する。
2. 生活自立に向けて就労支援・就労支援準備に努める。
3. 学習サポート及びキャリア形成支援に努める。
4. 生活困窮者一時生活支援事業及び新規入所型支援の検討を進める。
5. 職員が働きやすく、育まれる環境を創造する。

## 【事業計画】

1. 地域における公益的な取り組み
  - (ア) 生活困窮世帯及び生活保護世帯のうち、各制度や適切な支援につながりにくい「制度の狭間にいる困窮世帯」に対して、救護施設讃栄寮と連携し生活再建に向けた支援体制を構築する。
  - (イ) 地域の子ども達（小学1年生～高校生）に対して、学習サポートを継続実施する。学習を入り口として世帯に関わり、様々な課題の早期発見、解決につなげていく。
  - (ウ) 聖隷キッチン和合と連携し、学習サポート教室の子ども達や困窮世帯において食のニーズがある世帯へ食事の提供支援を実施する。
  - (エ) 外国にルーツのある子ども達（小学1年生～高校生）に対して、(イ)の学習サポート、(ウ)の食事の提供支援に加え、日本語支援の必要性について検討する。
2. 就労支援及び就労準備支援
  - (ア) 就労支援対象者のうち、年間100名以上の就職実績を目指す。
  - (イ) 就労準備支援対象者の新規利用者15名以上の支援を実施する。
  - (ウ) 協力企業と共同し職場見学や職場体験を経て、年間4名以上の就職を目指す。

### 3. 学習サポート及びキャリア形成支援

- (ア) 卒業生を対象に高校定着や就労支援等、必要な支援が実施できるよう開始した SNS について効果検証し、現役生や子どもの世帯への対象範囲拡大について検討する。
- (イ) 教室に通えない生徒や家庭に課題のある世帯に対して訪問支援を実施し、学習支援及び生活相談支援を継続する。

### 4. 生活困窮者一時生活支援事業及び新規入所型支援の検討

- (ア) 「制度の狭間に居る困窮世帯」に対して、救護施設讃栄寮、行政関係各課、民生児童委員等地域の方と連携し、「無料定額宿泊所の開設」及び「無料定額宿泊所における日常生活住居支援施設の運営」を 2024 年度中に方針決定する。
- (イ) (ア) の必要性を判断するため、「生活困窮者一時生活支援事業」では、生活支援や社会生活上の支援が密に必要な方を受け入れる。必要時には部屋数を増室して対応する。

### 5. 職員が働きやすく、育まれる環境づくり

- (ア) 生活困窮者自立支援の各業務について、業務マニュアルを作成する。
- (イ) 社会福祉士を目指す学生の実習を受け入れる。
- (ウ) 職員相互が相談しやすく、成長できる申し送りやケース検討方法を見直し実施する。

#### 【数値指標】

浜松市生活自立相談支援センターつながり				
	生活困窮者自立支援事業 (自立相談支援・就労支援・ 就労準備支援・家計改善支援・ キャリア形成支援・一時生活支援事業)	学習支援 事業	ホームレス 巡回支援 事業	学習サポート 事業
サービス 活動収益	83,761 千円	4,096 千円	384 千円	—
常勤換算 職員数	18.2 名			0.3 名

# 浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園      浜北愛光園デイサービスセンター  
障害者相談支援事業所浜松東      聖隷ケアプランセンター浜北  
地域包括支援センター北浜      訪問看護ステーション貴布祢  
聖隷チャレンジ工房浜北

2024年度は、利用者のニーズや想いを反映したプランニングと専門的な関わりに努める。また、職員が「やりたいこと」の実践と「やりがい」を感じられるための現場改革を継続し、人材育成と安定した人材確保の取り組みを進める。設備投資の効果を意識したケアの向上とともに複合施設として施設内連携を発展させ、サービスの狭間にいる方や地域で困っている方を支えることができるようシームレスで柔軟なサービスの提供を目指していく。

## 【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切に施設づくりを追求します

## 【経営方針】

1. 誰一人もれることが無いよう複合施設としての利点を活かした、サービスを追求・実践する
2. 地域や利用される方のニーズや想いを大切にできる職員を育成する
3. 個人やチームの創造力や専門性を高め、質の高いサービスを継承、発展させる
4. クリーンで健全な運営を行い、安定と発展ができる経営を行う
5. 地域貢献と地域の公益的な取り組みを行う

## 【事業計画】

1. 複合施設の強みを生かした、利用される方のニーズや想いが実現できる支援を行う
  - (ア) 事業所種別を超えたカンファレンスや人事交流を活発化させ、サービスの枠を超えた協力体制の構築を図り、サービスを一貫して行うワンストップ支援体制を推進する
  - (イ) サービス開始時に聴取したニーズや意向等を「BGA(Back Ground Assessment)シート」に落とし込み、在宅から施設へ移行しても、ニーズや想いが継承できるようケアプランに反映する
  - (ウ) 利用者の自己実現の為に、意欲（健康や就労等）向上を図る取り組みを行う
  - (エ) 身寄りのない方や重度認知症による介護を必要とする方が、安心してサービスを利用できるように在宅・施設の対応力の強化を図る
  - (オ) ICT 機器・福祉用具の導入や業務改善を行った結果、うまれた時間やゆとりを利用者に還元し、利用者の尊厳を尊重するケアを追求する
2. 新しい働き方への創造力と質の高い専門性を備えた職員育成を行う
  - (ア) 新人職員からリーダー職員までの育成システムを再構築し次世代職員の育成を行う

- (イ) 交換研修（職場体験）・人事交流を積極的に行い、職員個々がキャリアデザインを描ける環境を整備する
- (ウ) 職員個々のキャリアデザインから、必要な資格取得や計画的な研修参加を促し、将来を見据えたスキル取得を支援する
- (エ) ICT 機器・福祉用具の活用を促進し、根本的な業務改善と適正な人員配置を行う
- (オ) 福祉職としての喜びを分かち合える機会を設け、職員同士研鑽しあえる環境をつくる

### 3. 運営安定化の推進

- (ア) 新規利用者獲得の為に、SNS（HitomeQ コネクト・LINE 等）を活用した、広報活動の充実を図る
- (イ) 各種報酬改定内容を見定めた適切な加算算定、請求の正確性・効率化を図る
- (ウ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新、利用料の見直しを計画的に実施する
- (エ) 拠点施設としてエリア内の連携を高め、有事の際の協力体制を築く

### 4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 専門職による出前講座等、地域の中の施設として広報と地域貢献活動に取り組む
- (イ) 大規模災害に備え、地域の集まりや訓練に参加し、災害発生時に協力できる関係づくりを行う

#### 【数値指標】

#### ■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 事業 (浜松東)
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット 型	従来型	ユニット 型	一般型	予防	
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名		
利用延数	17,704名	35,408名	5,775名	5,120名	7,383名	108名	
一日平均 利用者数	48.5名	97.0名	15.8名	14.0名	23.9名	0.3名	
稼働率	97.0%	97.0%	79.1%	77.9%	59.7%		
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	309日		
平均介護度	3.9	3.8	3.4	3.1	2.3		
単価 (一人一日)	12,972円	15,190円	11,804円	14,168円	11,504円		
サービス 活動収益	232,055 千円	538,452 千円	68,170 千円	78,330 千円	86,178 千円		21,844 千円
常勤換算 職員数	38.9名	67.1名	8.1名	11.0名	14.7名		3.0名

■居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜北）

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
介護	予防	介護	予防				
2,000 件	360 件	16,300 円	3,800 円	8 件	4,400 円	36,167 千円	5.5 名

■地域包括支援事業（地域包括支援センター北浜）

浜松市受託収入	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
37,267 千円	1,716 件	636 件	4,471 円	57,117 千円	5.7 名

■訪問看護事業（訪問看護ステーション貴布祢）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
163 名	811 件	9,727 件	10,240 円	99,607 千円	14.1 名

■聖隷チャレンジ工房浜北

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
就労移行	6 名	994 名	38.8%	256 日	8,869 円	12,429 千円	15.3 名
就労継続	24 名	5,240 名	70.9%	308 日	8,616 円	64,523 千円	
就労定着		106 名			28,809 円	4,626 千円	
生活介護	10 名	2,740 名	112.7%	243 日	7,444 円	20,476 千円	

# 森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園	森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション	聖隷ケアプランセンター森町
森町愛光園天宮サテライト	聖隷放課後クラブはなえみ森町

2024年度森町愛光園は、導入した介護ロボットやICT機器を活用し、生産性の向上と科学的根拠に基づいた介護・支援の実践を推進する。加えて設備の更新、修繕を行い施設の価値を向上させることでより地域から求められる施設づくりを行っていく。地域に必要とされるためには園内の取り組みだけでなく、地域に出向いて多様な地域ニーズを把握し、ニーズに対応していける人材を育成すること、また、地域資源の一つである福祉施設として今後起こり得る災害への備えを一層強くすることも必要である。生産性向上と人材育成を両輪としながら、スタッフがやりがいと誇りを持って働くことができ、地域に貢献していける環境と仕組みを整えていく。

## 【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

## 【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の尊厳を守ることを第一とし、一人ひとりのクオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、誠実かつ献身的に仕えます
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供に必要な人材の確保と育成に努め、「安心と効率の追求」と「働きやすくやりがいのある職場環境」の両立を実現します
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、創造性・持続性・実現可能性を高めてゆくことができる組織づくりを目指します

## 【事業計画】

1. 「最高の質のサービス」の提供
  - (ア) ICTを活用しながら適切なアセスメントに基づいたサービス計画を立案し、利用者の自立支援に資するケア・支援を提供する
  - (イ) スタッフのホスピタリティ能力を高める取り組みを行い、利用者満足度を向上させる
  - (ウ) 各専門職と協力医療機関との連携を強化し、専門的知見を利用者ケア・支援へ一体的に反映できる仕組みをつくる
  - (エ) 各事業において生産性向上活動を実施し、利用者へのケア・支援の密度を高める
  - (オ) 在宅、施設で利用者が「最期まで安心して過ごせる」看取りケアを推進する
2. 働きがいのある職場づくりと人材の確保と育成
  - (ア) 理念、行動指針の浸透を図りスタッフの自律とエンゲージメントを向上させる

- (イ) マネジャー教育を実施し、スタッフが安心して働ける職場環境づくりを推進する
- (ウ) リーダー、中堅層が職場改善の取り組みや適切なOJTを行える体制、仕組みを構築する
- (エ) 在宅・入所事業間で交換研修を行い、互いの業務と利用者を理解するスタッフを増やす
- (オ) ノーリフトケアを推進して身体的な負担が少ない、選ばれやすい介護職場をつくる

### 3. 健康経営の推進

- (ア) 周辺市の新規利用者を獲得し、在宅介護サービスの提供圏域を町外へと拡大する
- (イ) 町内外へ向けて特養入所のPRを行い地域密着型特養の入居申込み、待機者を増やす
- (ウ) ICTを活用し各事業の取り組みを地域へ向けて発信し、地域との信頼関係を深める
- (エ) 大規模修繕を実施し施設価値を高めるとともに将来的な建て替え計画を立案する
- (オ) BCPを日常的に訓練、検証し、感染症や災害発生時のリスクへの備えを強固にする

### 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の小中学校、高校の福祉体験、職業体験、実習等に協力するとともに、地域住民のボランティア活動の受入れを行う
- (イ) 森町、地域包括支援センター、町内各団体の事業や近隣自治会の福祉活動、地域防災訓練等にスタッフがボランティアとして参加する
- (ウ) 静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）からの要請に基づき登録員の派遣を行う

#### 【数値指標】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名		
利用者延べ人数	21,513名	7,097名	10,271名	3,378名	7,855名	912名	
一日平均利用者数	58.9名	19.4名	28.1名	9.25名	25.5名	3.0名	
稼働率	98.2%	97.2%	97.0%	77.1%	67.8%		
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日	308日		
単価(一人一日当り)	12,979円	15,320円	14,216円	11,968円	9,401円	5,996円	
サービス活動収益	280,948千円	109,183千円	146,763千円	40,654千円	82,940千円		
常勤換算職員数	39.0名	14.1名	19.7名	5.7名	13.6名		
	在宅介護	居宅介護支援		訪問介護			放課後等
	支援センター	介護	予防	介護	予防	障害	デイサービス
利用者定員	—	—	—	—	—	—	10名
利用者延べ人数	—	2,064名	360名	3,240名	972名	299名	2,673名
一日平均利用者数	—	—	—	9.0名	2.7名	0.8名	11.0名
稼働率	—	—	—	—	—	—	110.0%
稼働日数(延べ)	365日	365日		359日			243日
単価(一人一日当り)	—	17,239円	3,893円	5,587円	4,566円	4,618円	11,336円
サービス活動収益	—	38,133千円		24,359千円		1,381千円	30,386千円
常勤換算職員数	0.1名	5.0名		5.9名			0.1名

# 聖隷びゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田  
相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田  
磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび  
磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター  
磐田市地域活動支援センター

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更となり、価値観や生活スタイルの多様化や少子化が想定を超えて進む中、利用者や保護者、地域とのつながりを紡ぎ始めた年度であった。圏域自立支援協議会の声を受け、障害者相談（一般相談支援「地域移行・地域定着支援」）の事業を新たに開始した。

2024年度は、報酬改定で利用者の権利を守ること（意思決定支援・こどもの声を聞く）が明文化される。そのため我々は、支援の原点に立ち返り、利用者や地域の声を受け止め、「利用者まんなか支援」の実現に向けて体制を整えるとともに、利用者に常に向き合っている職員の「気づき」や「想い」を実践化し、職員の「やりがい」を高めながら、サービスの質の向上に努めたい。

また、いつ来るかわからない災害への備えを平時から行うことで、安心安全な基盤づくりに取り組む年度としたい。

## 【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

## 【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化を図る
3. 地域における公益的な取り組みを進める

## 【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービス提供

(ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ

- ① こどもの想いや個性を受け止め、自己肯定感が高められる環境づくりを行う
- ② その子に合った移行支援を目指し、関係機関と就園・就学前後の情報共有を行う
- ③ こどもの強み・苦手さを視覚的に伝え、家庭で取り入れやすい関わり方を助言する
- ④ 発達支援の拠点として、地域支援を担えるよう磐田市との連携体制を整える

(イ) 聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① こどもの想いを引き出し ICT 等のツールを活用し、子ども主体の活動を行う
- ② 親子体験型行事等、こどもの成長を実感し保護者同士繋がる機会を提供する
- ③ 多様な価値観に触れられるよう、様々な人・環境・物と接する機会を提供する

(ウ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ① 9名の就職者を輩出し、就労生活が定着できるよう支援を行う。
- ② 作業訓練メニューの見直しを行い、目標平均工賃30,000円/月を目指す
- ③ 就労意欲維持や自信獲得のため、成長を可視化できる仕組みづくりを行う
- ④ 事例検討等を通して、チームで支援する体制(統一した支援・役割分担)を整える

(エ) 磐田市発達支援センターはあと

- ① こどもが自分の感情に気づき言語化できるよう、保護者に関わり方を助言する
- ② 保護者がこどもの所属する園学校と協力体制を築けるよう、近い未来を見据えた助言を行う
- ③ こども家庭センター設置に伴い、磐田市と協働し、関係機関と役割分担を行う
- ④ 複合的な課題に対応するため、センター内・関係機関との連携体制を整える

(オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ① 認知症の方を支えるため、ネットワークづくりを行う
- ② 引きこもり等サービスにつながりづらい方に対して継続的に支える仕組みを作る
- ③ 多様な価値観に触れる事業所モニタリングにて利用者理解を深め、その人らしいプラン作成と相談体制を整える
- ④ 一般相談支援(地域移行・定着)の利用促進に向け、関係機関と連携体制を整える

(カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ① 利用される親子の状況に応じた「遊び」を提案する
- ② 転入・外国籍の方に対し、孤立を防ぐために繋がれる機会を提供する
- ③ 子育て支援団体等への「遊び」のコンサルテーションを通して、地域の子育て力の向上に努めるとともに、ファミリーサポート事業の援助者獲得を目指す

(キ) 磐田市地域活動支援センター

- ① 利用者のニーズに合わせた創作活動を提供する
- ② 生産活動にて、自己有用感の向上とともにその人らしい過ごし方の提供を行う
- ③ 自立支援協議会やサロン等の地域の関係団体とのネットワークを強化する

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

(ア) 利用者の理解度に応じた訓練を実施し、利用者自身が発災時に行動できるよう安全意識向上とスキル取得を目指す

(イ) 組織的な権利擁護に取り組むとともに、職種別ラダーを活用した専門性向上に努める

(ウ) 利用者が安定してサービス利用できるよう、相談支援との有機的な連携を行う

(エ) 待機期間の過ごし方等、安心してサービス利用に繋がるようフォロー体制を整える

(オ) ケアカルテ・コードモンにて業務効率化を図り、職員の「やってみたい」を実現する

(カ) 職員がボトムアップしやすい環境を整え、「心理的安定」や「満足度」に繋げる

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) 研修講師・施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

- (イ) イベントへの参加やホームページを活用し、情報を発信する
- (ウ) 地域の方々を招待する行事や園庭開放を通し、気軽に相談できる地域の窓口機能を開設する
- (エ) 福祉制度利用が難しい方を対象としたイベントを企画し、一步踏み出す機会を提供する
- (オ) 磐田市社会福祉協議会及び法人連絡会開催のイベント等に参画し、普及啓発を行う

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利用者定員	30名	—	—	—	14名	15名	6名
利用者延べ人数	7,658名	490名	—	—	3,271名	4,428名	954名
一日平均 利用者数	31.1名	—	—	—	11.9名	16.0名	3.9名
稼働率	103.8%	—	—	—	84.7%	107.0%	65.7%
稼働日数(延べ)	246日	246日	—	—	276日	276日	242日
単価 (一人一日当り)	17,601円	18,812円	—	—	12,093円	8,068円	8,026円
サービス 活動収益	134,789 千円	9,218 千円	6,808 千円	13,656 千円	39,555 千円	35,727 千円	7,657 千円
常勤換算職員数	23.8名	1.9名	4.0名		6.1名	6.8名	1.0名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談	磐田市 地活
利用者定員	—	20名	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	—	5231名	—	—	—	—	—
一日平均 利用者数	—	21.2名	—	—	—	—	—
稼働率	—	105.9%	—	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	—	247日	—	—	—	—	—
単価 (一人一日当り)	—	11,636円	—	—	—	—	—
サービス 活動収益	4,836 千円	60,866 千円	45,876 千円	25,047 千円	27,686 千円	12,551 千円	16,814 千円
常勤換算職員数	0.2名	9.5名	10.3名	6.8名	4.0名	2.0名	2.8名

# 浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田  
聖隷ケアプランセンター浅田

地域のニーズである「最期まで自宅で過ごしたい」を支援するため2023年度もケアプランセンターと協働してターミナル利用者を支援した。また浜松市の保育園業務委託など新たな場所への訪問を開始した。2024年度も地域・利用者のニーズに寄り添った支援を継続していく。

訪問看護ステーション浅田

## 【事業計画】

1. 南区のニーズに沿ったケアを提供する
  - (ア) ACP (アドバンス・ケア・プランニング) を意識したケアができるように個々のアセスメント能力を強化していく
  - (イ) 看護師が自信を持ってリハビリを実施できるように専門職から指導を受ける
  - (ウ) 困難事例に対応できるよう関係機関と連携していく
2. 聖隷ケアプランセンター浅田と協働し、質の高い看護を提供する
  - (ア) 共通利利用者の事例検討を行う
    - ① 月1回カンファレンスで実施
  - (イ) サロンの出前講座や防災訓練への参加など地域への取り組みを実施する
  - (ウ) 防災・防犯対策を行う
    - ① 年1回職場内訓練を実施し、共通利用者のトレアージを実施する
    - ② 利用者への災害対策の見直しを行う
3. 働きやすい職場環境作りを行う
  - (ア) 採用者マニュアルの評価と見直しを行う
  - (イ) 訪問スケジュールの調整、リハビリスタッフによる助言から腰痛予防対策を行う
  - (ウ) フィードバックを積極的に行い、活気のある職場作りを行う

## 【数値指標】

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
170名	923件	11,010件	医療 11,800円 介護 9,400円	117,288千円	16.4名

聖隷ケアプランセンター浅田

【事業計画】

1. 障がいや病気を持っても安心して最後まで暮らせる地域作りへの参加
2. 訪問看護ステーションとの複合事業所として事業所力をさらに高める
3. 研修会への参加でスキルアップを図る
4. ワークライフバランスの充実、業務の効率化を図る
5. 防災・防犯・感染症・虐待への取り組みをする

【数値指標】

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
介護	予防	介護	予防				
1,585件	492件	17,800円	4,200円	20件	4,400円	30,785千円	4.6名

# 聖隷こども園わかば

社会状況の動きに関心を持ち多様化する保護者のニーズを捉え、地域に信頼され、選ばれる園となる為に、今まで以上に保育の質の向上に力を入れ自園の強みを分かりやすく発信していく。多様化する保育ニーズに応える為、1号認定の利用定員を6名から15名に変更する。

また、乳幼児の質の高い教育・保育の提供が子どもの生きる力の基礎となる重要な時期であり、その大事な時期に関わることを保育者が考え行動していくことが必要である。保育支援システム（コドモン）を活用することで、職員の働きやすい環境を構築すると共に、保育ドキュメンテーション等を通して職員一人ひとりが保育の面白さを実感し、日々成長するその子どもの姿を保護者に伝えていきたい。

こども園併設の子育て支援ひろばのメリットを活かし、妊婦支援、多世代支援等を継続し、2024年度より新たに発達支援プログラムを実施する。地域の子育て中の親子に寄り添い、個々に必要な支援を提供していく。また、引き続き病後児保育事業、統合保育の推進等、関係機関・地域との連携を図った取り組みを進めていきたい。

## 【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指す

『子ども自身に生きさせよ～自分で考え、判断し、行動する子ども～』

キリスト教の精神を基本理念におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

## 【経営方針】

1. 地域の枠にとらわれず、入所希望のニーズを応えることで安定した運営を図る。
2. 職員一人ひとりが施設理念・園目標をもとに、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を提供する。
3. 子育て世代に求められる幅広い子育て支援を知り、積極的に取り組むことにより、地域での存在の意義を深める。
4. 計画的に施設設備の修繕を行い、安心と安全を保つ。

## 【事業計画】

1. より質の高い教育・保育を実践する
  - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく
  - (イ) ピアジェの構成論に基づいた保育実践の学びを深めながら、子どもたち一人ひとりをよく理解し、保育者同士が語り合いながら保育の楽しさや、面白さが実感できる機会を増やし、保育の質の向上を図る

## 2. 保育職としての専門性を高める

- (ア) 園内研修を通して、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行う
- (イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を  
実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる
- (ウ) 職員一人ひとりが専門性の向上のため研修等に積極的に参加できるよう支援する
- (エ) PDCA サイクルの体制を整え、保育支援システム（コドモン）での記録や保育ドキュメンテ  
ーションの作成等を通して職員一人ひとりが保育の面白さを実感し、保育の充実を図る

## 3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

### (ア) 食育の推進

管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキングなどの体験や、日常の保育の中  
に食育を意識した活動を多く取り入れる

### (イ) 子育て、親育て支援

園だより・クラスだより・ドキュメンテーション・フォトラーニング・ホームページ・掲  
示板・懇談会等を通して教育・保育の内容や、子どもの姿を保護者に分かりやすく発信し、  
子どもの成長を共有する

## 4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 園庭開放、育児相談、子育て支援ひろばを通して、子育てに悩みを抱える家庭を支援し、  
安心して過ごせる場の提供を行う。子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長  
を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する。また、地域に出向く出張ひろ  
ばを通し、地域の子育て力向上に寄与する
- (イ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の高齢者との世代間交流を積極的に図り次世代を  
担う若者の支援や高齢者の生きがい作りに貢献する

### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	24名	30名	34名	34名	34名	34名	190名
利用定員（1号）	-	-	3名	4名	4名	4名	15名
利用定員合計	24名	30名	37名	38名	38名	38名	205名
一日平均入所者数	16.3名	30.0名	34.0名	36.0名	36.0名	35.0名	187.3名
年間入所延人数	195名	360名	408名	433名	432名	420名	2,248名
入所率	67.7%	100%	91.9%	95.0%	94.7%	92.1%	95.6%
開所日数（延べ）	保育日数 293日 / 教育週数 44週						
サービス活動収益	268,957千円						
常勤換算職員数	45.4名						

### 【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

地域子育て支援拠点事業

病児保育事業（病後児型）

# 聖隷こども園桜ヶ丘

2023年度「こどもまんなか社会」の実現を掲げてこども家庭庁が発足した。「すべての人がこどもや子育て中の方々を応援する」といった社会全体の意識改革を進めるための取組が主眼である。わが国では、少子高齢化の急速な進展による人口減少や、核家族化や就業形態の変化等により、保育を取り巻く環境も大きく変化している。このような状況においてもこどもの最善の利益を保障し続けるため、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に立ち返りひとり一人の子どもの育ちを丁寧に観ることで、子どもの育ちに最適な保育内容を実践していく。そして地域や保護者に信頼される園を目指す。

2023年度は、保育支援システム（コドモン）の導入により園と保護者のスムーズなコミュニケーションツールとなった。特に、保育ドキュメンテーションを通じて子どもの姿が見える化し保護者と共有することができた。引き続き、保育ドキュメンテーションの園内勉強会を実施し、子どもの育ちを可視化し、その子どもの姿を語り合うことで職員の専門性の向上につなげていく。また、職員がやりがいを感じ安心して働ける環境を整える。

## 【施設理念】

「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」ヨハネによる福音書 15：1-5

1. 子どもたち一人ひとりが愛され、受け入れられて、愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばしていく

## 【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いに大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

## 【事業計画】

### 1. 教育・保育の質の向上

(ア) 保育者が施設理念や保育目標を理解し、一人ひとりを大切に教育・保育を実践する

(イ) 全体的な計画、教育課程、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、子ども主体の保育を実践する

(ウ) 統合保育の実践

①障がいのある園児の並行通園施設や医療機関と連携を図り、支援目標や課題を共有し、きめ細やかな保育を実践する

②障がいのある園児が同年齢のクラスの子どもたちと交流をする時間を持てるようにする

(エ) 0歳児クラスにおいてゆるやかな育児担当制保育を継続し、個々の子どもの情緒の安定を図り、子ども自身が生活に見通しを持ち安心して主体的に生活が送れるようにする。1～5歳児クラスは年齢に応じた必要な環境構成を行いコーナー遊び中心の保育を行う。幼児ク

ラスはこども会議で思いを伝えあい子どもたちが創りだす保育を実践する

(オ) 個々の発達段階に見合った運動遊びや体操を継続して行い、体幹を鍛え運動の楽しさや意欲を育てる

## 2. 保育職としての専門性の向上

(ア) 年間研修計画に沿ってキャリアアップ研修や外部研修への参加を支援し、職員の資質向上を図る

(イ) 保育職ラダーや目標参画を活用し、個々の課題や園の課題を明確にして目標達成に向けてスキルアップを図る

(ウ) 子どもの主体的な遊びを豊かに展開させるため、職員が保育環境と人的環境等について学び、日課の中に遊びの時間を確保させ、発達段階に見合った玩具の整備を実施する

(エ) キリスト教保育のテキストや保育の専門誌を活用して、定期的に小人数で保育について語り合う時間を作り、職員間のコミュニケーションを取りながら学びを深める

## 3. 職員の働きやすい環境づくり・保育支援システム（コドモン）の活用

(ア) 主幹保育教諭と副主幹保育教諭が中心となり職場の業務改善に向けて取り組む。そして職員が働きやすい職場環境を整え、エンゲージメントを高める組織づくりを実行する

(イ) 保育支援システム（コドモン）の機能を活用し記録業務の削減を図る。また、子どもの姿を保護者に分かりやすく発信し、子どもの成長を共有する

## 4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 親子ひろばにて、地域の子育て家庭の相談事業や遊びの提供をして安心して子育てができるように支援する

(イ) 地域の自治会や近隣施設（都田南小学校・都田図書館・浜松学園等）と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する

(ウ) 施設見学や実習生・中高生のボランティアを積極的に受け入れ、次世代の育成に貢献する

### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	20名	30名	30名	30名	30名	30名	170名
一日平均入所者数	12名	30名	30名	25名	33名	29名	159名
年間入所延人数	144名	360名	360名	300名	396名	348名	1,908名
入所率	60.0%	100%	100%	83.3%	110.0%	96.6%	91.6%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	215,120千円						
常勤換算職員数	35.3名						

### 【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型）

親子ひろば

# 聖隷こども園ひかりの子

2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、こども園での保育の在り方を改めて見直す年となった。人と人が繋がりあう中で育つものがあることを確認し、それは子どもの育ちにおいて欠くことのできないものであることを実感した。引き続き、私たちが何を大切にすべきか、利用者のニーズはどこにあるか、職員一人ひとりが専門職としての自覚と誇りをもち、未来を担う子どもたちの「今」を支えることに真摯に向き合いたい。

また、2024年度は「子ども誰でも通園制度」の導入に向けて浜松市でも取り組みを始めていくとされている。その中で、それぞれの職員が国の動向やこの地域で求められていること、期待されていることを正しく理解していかななくてはいけない。そして自園では、どのような取り組みができるのか考えていきたい。

さらに職員一人ひとりの保育の専門職としての自覚と誇りを持った働きができるよう、園内外での研修会や勉強会への参加を促すとともに、職員同士が互いに認め合い、自己発揮できる環境を整える。

## 【施設理念】

『ひかりの子らしく歩みなさい』～エフェソ信徒への手紙5:8～

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる

## 【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

## 【事業計画】

1. 教育・保育の質の向上
  - (ア) 子どもの姿、心の動きを多角的に捉える視点を学ぶため、経験年数にとらわれない園内勉強会を引き続き実施し、クラス間でお互いの保育を見合う機会を作っていく
  - (イ) 子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数保育等必要に応じて保育の形態を工夫し、日々の生活や遊びの中で他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整える
  - (ウ) 子どもが自分でやりたいことを見つけ、方法を考えて達成していく「子ども主体の保育」を実現し、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践に結び付けていく
  - (エ) 子どもの発達や学び、心持ち、園の教育・保育の意図やねらいを保護者に丁寧に伝えるため、可視化（ドキュメンテーション等）を強化する
  - (オ) 定期的に教育・保育を見直す視点を持つ。自己評価チェックリストを基に子どもの最善の利益を最優先に考えて、職員が互いに質を高め合うことができる職場環境を実現する

## 2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 保育職ラダーや自己評価を通じて、それぞれの段階で求められる資質を明らかにし、キャリアステージに応じた内外の研修に参加する
- (イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担えるようにする。具体的な業務の改善や見直しを図ることで、問題解決に取り組む
- (ウ) 保育支援システム（コドモン）の各種機能を活用し、さらに職員の専門性の向上と業務負担の軽減を目指す

## 3. 地域・他機関との連携

- (ア) 小学校への接続をふまえ、与進小学校との交流を深める（町探検での訪問等）
- (イ) 市野与進こども園との連携・交流を深める
- (ウ) 行政・民生児童委員・発達医療センター等の関係機関との情報交換・共有を図る
- (エ) 地域の美化活動・子育て会議等の地域の交流会に参加し、地域の方々との繋がりを強化すると共に、園の教育・保育内容について知ってもらう機会とする

## 4. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) 事故やヒヤリハットの情報共有方法を見直し、予防とリスク発生時の対応について職員間で徹底する。職員一人ひとりの安全・危機管理に対する意識を高める
- (イ) 感染症に関する正しい知識や情報を共有すると共に、有事には関係機関とスムーズに連携できるよう体制の整備、研修の充実を図る
- (ウ) 防災委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る

## 5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供する（親子ひろば・園庭開放）
- (イ) 中高生の職場体験学習やボランティアを受け入れ、次世代育成に貢献する

### 【数値目標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	27名	36名	36名	40名	40名	41名	220名
利用定員（1号）	—	—	3名	4名	4名	4名	15名
利用定員合計	27名	36名	39名	44名	44名	45名	235名
一日平均入所者数	17名	35名	36名	41名	41名	41名	211名
年間入所延人数	204名	420名	432名	492名	492名	492名	2,532名
入所率	62.9%	97.2%	92.3%	93.1%	93.1%	91.1%	89.7%
開所日数（延べ）	293日（教育週数 44週）						
サービス活動収益	268,104千円						
常勤換算職員数	45.8名						

### 【提供保育事業】

延長保育事業	障がい児保育事業
一時預かり事業（一般・幼稚園型）	外国人児童保育事業
親子ひろば	類似型学童保育事業

# 聖隷こども園めぐみ

加速する少子化、子どもの貧困、いじめ、不適切保育、虐待問題など子どもを取り巻く環境への注目がより一層高まる状況を背景に2023年4月こども家庭庁が創設され、子どもの最善の利益を第一に考え、子どもの権利を保障するため社会全体で支えるという体制が始まり1年になる。こども大綱も示され未来を担うこどもたちの健全な育成に向けた支援を、聖隷のこども園として責任感をもって推し進めていく。また地域のニーズに応え必要とされる園児の受け入れを積極的に行い、地域への貢献を果たすとともに、経営の安定に繋げる。特に障害児、医療ケア児等の保育ニーズに応えるためには地域資源の活用と連携が不可欠となる。隣接する聖隷こども発達支援センター和合との連携体制を強化し、子どもに関わる施設として互いの専門性を高めるため職員の学びの場を構築する。

園内では乳幼児期の質の高い教育・保育の提供が子どもの将来にわたる生きる力を育むことに繋がっていることを職員間で意識化し発達に即した教育・保育内容の充実を図る。園内外の研修へ積極的に参加することや、聖隷保育学会での研究発表を通して職員一人ひとりの専門性の向上を目指し「保育の質の向上」につなげる。

また、職員がモチベーションを高く持って、長く働き続けられるように仕事と家庭の両立支援等のサポート体制を整えると共に、保育支援システム（コドモン）を有効活用することで、職員の業務省力、職員個人の保育のスキルアップに繋げたい。

確実に進む少子高齢化、大きく変動する社会情勢、with/after コロナの社会生活、その中でこども園として、引き続き園児の安心安全を確保するとともに、地域社会を支える役割を果たすべく子育て支援、働く保護者をサポートする病後児保育事業、インクルーシブ教育・保育の推進に向けて取り組む。

## 【施設理念】

キリスト教の精神に基づく「隣人愛」

「隣人を自分のように愛しなさい」 マタイによる福音書 22 章 39 節

「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

ヨハネによる福音書 13 節 34 節

## 【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

## 【事業計画】

1. 教育・保育の質の向上

(ア)「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を基に園として目指す保育観を職員間で共有し、発達の連続性を持った保育を展開していく。実践報告を重ね保育の質の向上に努める

- (イ) 保育支援システム（コドモン）の各種機能を活用し、保育ドキュメンテーション等を通して子どもの育ち、保育の可視化を行い、保護者へ発信する
  - (ウ) 自園の課題についての取り組みを聖隷保育学会発表につなげる
  - (エ) 保育職ラダーや自己評価を通して、自身を客観的に評価できるようにする。苦手とする項目を意識することで、レベルアップを目指す
2. 聖隷こども発達支援センター和合との連携を図る
- (ア) 職員間の日常的な交流や連携体制作りを構築する
  - (イ) 発達に課題のある子どもや医療ケアの必要な子ども等のニーズに対し、並行通園を含め両施設で支えられるよう職員間の連携を密に行う
  - (ウ) こども園、児童発達支援施設の職員共同で学び合う研修体制を構築し、それぞれの専門性向上を図る
3. 子育て支援と地域における公益的な取り組み
- (ア) 在園家庭、及び地域の子育て家庭への育児に関する情報発信を強化する
  - (イ) 中高生の職場体験やボランティアの受け入れを継続し、次世代育成に貢献する
4. 保育支援システム（コドモン）による業務省力・働きやすい職場環境づくり
- (ア) コドモンを有効活用し、業務省力につなげる
  - (イ) 保育浜松エリアの主任・副主任会を継続し、職場内の課題解決に向けて取り組み、現場の声が生かされる風土づくり、働きやすい職場の環境づくりを目指す

**【数値指標】**

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	18名	36名	36名	40名	40名	40名	210名
利用定員（1号）	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	18名	36名	36名	42名	42名	42名	216名
一日平均入所者数	14名	35名	36名	40名	38名	35名	198名
年間入所延人数	172名	422名	432名	480名	456名	420名	2,382名
入所率	79.6%	97.6%	100%	95.2%	90.5%	83.3%	91.9%
開所日数（延べ）	保育日数 293日・教育週数 44週						
サービス活動収益	262,782千円						
常勤換算職員数	39.0名						

**【提供事業】**

延長保育事業

一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

外国人児童保育事業

親子ひろば

病児保育事業（病後児型）

# 聖隷浜松病院ひばり保育園

これまで、キリスト教保育を基盤としたピアジェの構成論を取り入れた、子どもの主体的な生活と遊びを支える連続的な保育実践を積み重ねてきた。2024年も継続して取り組む中で、子どもに限らず、職員一人ひとりの主体性が尊重され、保育実践が言語化、可視化できることを目指す。そしてそれを保護者や地域へ発信することで保育理解と参画につなげていく。

事業所内保育所として、延長保育や土曜、休日保育を行う他、育児休業からの復帰のための乳児の受け入れ、そして学童保育の利用ニーズの増加に伴う対応など、利用者ニーズに応えていく一方で、保育職として保護者支援と子どもの育ちの支援との両方を併せて考えていくことがより一層求められている。職員自身の多面的に子どもを捉える視点を養うと共に、未来を見据えた、児童福祉施設としての役割も見出していきたい。

また、2022年度に導入した保育支援システム（コドモン）を活用することに留まらず、業務省力、効率化を図ると共に、質の高い保育を実践するため、保育浜松エリア、磐田エリアの各園と連携を図りながら、職員が安心し、やりがいをもって働くことができる環境を整えていく。

## 【施設理念】

キリスト教精神を基本理念として関係法令を遵守し、新保育所保育指針やキリスト教保育指針にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指す

## 【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

## 【事業計画】

### 1. 質の高い保育の実践

- (ア) 0、1歳児クラスでは、ゆるやかな育児担当制保育を行い、個々の子どもの情緒の安定を図り、子ども自身が生活に見通しを持ち主体的に生活を進められる保育を展開していく。2歳以上児クラスではコーナー遊び中心の保育、幼児クラスではサークルタイム、子ども会議を実践し、一人ひとりが主体的に遊び、考え、行動していく力を育む保育を継続していく
- (イ) 子どもの興味関心を捉え、全体的な計画をもとに発達の連続性をもった保育を展開していく
- (ウ) 保育支援システム（コドモン）の機能を活用し、保育ドキュメンテーションによる子どもの育ち、保育の可視化を継続し、保護者の保育理解や参画へとつなげる
- (エ) 聖隷の他のこども園・保育園と連携を図り、他園への保育見学、聖隷保育学会での学び合いを深め、自園の保育に生かす

## 2. 専門性の向上を図る

- (ア) 研修計画に沿ってWEB研修を含めた園外研修への参加を促進し、学びの機会を増やす
- (イ) 保育職ラダーや目標参画システムを活用し、個々の課題を明確にして目標達成に向けて取り組むことを通しスキルアップを図る
- (ウ) 継続的な園内研修を実施し、構成論の保育根拠に基づく保育や子どもの育ちを支える保育者の在り方を学ぶ中で、これらの保育実践を言語化する力を育む

## 3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 保育浜松エリア共同で保育支援システム（コドモン）の有効的な使用方法を検討し、保育記録業務の省力化を図る
- (イ) 保育浜松エリアの主任・副主任会を実施し、職場の課題改善に取り組む。園全体で、互いの業務の可視化を通して、業務改善と質の高い保育実践を並行して進め、職員一人ひとりの働きがいにもつなげる
- (ウ) 園内で保育士交換を実施し、互いの保育を共有し活発な意見交換ができるような環境を作る。互いの保育を知ることで、クラスを越えた職員間の連携を図る風土を作っていく

## 4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) ボランティアや学生の実習の受け入れを実施し、次世代の育成に貢献する。近隣の特別支援学校の職場実習の要望に対しても受け入れを実施する  
住吉地区の文化展に参加、地域との連携を深めて相互理解、自助共助につなげる

### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（従業員枠）	30名	30名	30名	30名	30名	30名	180名
利用定員（地域枠）	6名	7名	7名	-	-	-	20名
利用定員合計	36名	37名	37名	30名	30名	30名	200名
一日平均入所者数	18.2名	37.2名	27.2名	24.0名	29.0名	18.0名	153.5名
年間入所延人数	218名	446名	326名	288名	348名	216名	1,842名
入所率	50.6%	100.5%	73.5%	80%	96.7%	60%	76.8%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	258,027千円						
常勤換算職員数	38.0名						

### 【提供事業】

- 延長保育事業
- 乳児保育事業
- 学童保育事業

# 聖隷のあ保育園

当園は、市の中心部に位置するため転勤家庭が多く予定外の途中転園する園児が多い。そして近年は育児休業を1年以上取得する家庭も多く、0歳からの園児の入園希望数が少ない状況が続いていた。しかし、この場所での利点や小規模園の強みを活かして要支援児童、特定妊婦の受け入れをした結果、2023年10月以降は定員を上回る入所児童を確保できた。2023年4月より新事業として開始した「余裕活用型一時預かり事業」を有効活用できたことも安定した運営につながった。この事業を始めたことによって、地域子育て家庭への支援を新たに見出すことができた。2024年度も引き続き「余裕活用型一時預かり事業」を活用し地域の子育て支援に貢献していく。法人内の園と情報共有し、安心、安全な保育が提供できるようにしていく。特に連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」とは土曜保育の共同保育、卒園後の受け入れにおいて連携を図る。さらに、保育の質の向上を目指し、子どもの成長発達に合わせた援助の在り方を探りながら、小規模園の利点を活かした保育を提供していく。

## 【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるよう支援する

## 【経営方針】

1. キリスト教保育を基盤に、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う
2. 定員19名という少人数の園の特性を活かし、乳児期の心身の発達に必要な十分に養護の行き届いた環境を整え保育を行う
3. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく

## 【事業計画】

1. 保育の質の向上を目指し、質の高い保育と保護者支援を行う
  - (ア) キリスト教保育を基盤に小規模園の利点を活かし、子どもの最善の利益を考え、「一人ひとりを大切に教育・保育」を実践する
  - (イ) 園内勉強会で自園の研究を深め、職員のスキルアップを目指す
  - (ウ) 養護と教育が一体となった保育を行うために、子どもを観る視点を養い子ども理解に努め一人ひとりの成長発達を援助していく
  - (エ) 少人数の乳児保育園の利点を活かした保育（個々に合わせた丁寧な関り、保護者支援）を意識する
  - (オ) 保育環境と保育内容を子どもの成長発達に併せて、常に見直していく

## 2. 働きやすい職場環境づくり、業務省力化を目指す

- (ア) レイバー表・ホワイトボードを用いて職員の動きを可視化することで、職員がお互いの業務を意識し業務省力につなげる
- (イ) 職員間の報告、連絡、相談を徹底し、コミュニケーションを図ることで働きやすさ、業務省力化を目指す
- (ウ) 職員が働きやすい環境（勤務体制、休憩、仕事量等）を整え、心身の健康維持に努める
- (エ) 連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育等で大規模園での保育を経験し保育士としてどの園でも活躍できることを支援する

## 3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 市との連携の中で地域の子育て家庭の相談に応じながら、要支援児童や特定妊婦を受け入れに努める
- (イ) 「余裕活用型一時預かり事業」を活用し子育て支援に努める
- (ウ) 隔月の老人会（常和会）、近隣学校との交流を通して地域とのつながりを深める
- (エ) 洪水等の防災区域であることを発信し、地域との連携を深め、万一の時に備える

### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
利用定員（3号）	6名	6名	7名	19名
一日平均入所者数	4.8名	6.3名	7.2名	18.4名
年間入所延人数	58名	76名	87名	221名
入所率	80.5%	105.6%	103.6%	96.8%
開所日数（延べ）	293日			
サービス活動収益	50,605千円			
常勤換算職員数	8.8名			

### 【提供事業】

延長保育事業

余裕活用型一時預かり事業

# こうのとりの保育園

新型コロナウイルス感染症が5類となったことで、園生活も以前の形を取り戻してきた。感染防止対策を講じながら工夫を凝らす中で学んだことを活かし、行事等は年齢の発達に合わせ、子どもを中心として少人数で楽しめる内容を心掛けている。

2024年4月「こども基本法」が施行されると共に、「こども家庭庁」が創設され、「こどもまんなか社会」を目指す取り組みが政府全体で強力に推進されている。保育をめぐる政策は、大きな転換期を向かえ、保育所が果たす役割も期待されている。これまで以上に地域の子ども・子育て支援の中核をなす専門職であることを認識し、何ができるかを考えていく。子どもの命を守り、豊かな育ちを支えるために、保育の専門組織として、自らの人間性と専門性の向上に努めていく。

## 【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13:34

## 【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

## 【事業・運営計画】

### 1. 保育の質向上への取り組み

(ア) 教育、保育理念を理解し実践する

- ①子どもが安心して過ごし、成長できる環境を理解し、子どもに対する尊重や人権擁護の意識を高める
- ②子どもの生活リズムを大切にし、健康で情緒が安定した生活や自己を十分に発揮できる環境を整え、一人ひとりの個性や発達に合わせた関わりをする
- ③常に子どもの視点に立って、自らの保育を振り返り実践を重ね、園内での対話や勉強会、研修等へ積極的に参加し、自己研鑽を行い専門性の向上を目指す
- ④子ども達が必要な経験は理解し、子どもと共に創る保育の連続性を意識し、職員同士が協働し遊びを通じた教育保育を図る
- ⑤子どもの多様性に対応するため、保育者の資質・能力向上を図ると共に互いに高めあえる実践の場を提供する

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ①子どもの健全な成長を見守るため、園での様子や育ちを日々のドキュメンテーション、懇談会等を活用して保護者に解りやすく伝え、相互理解を図る

②保護者の保育参加を実施し、園での子どもの様子を直接見る機会を設け、面談を通して育ちを共有する

## 2. 働きやすい職場環境づくり・業務省力

- (ア) 保育支援システム（コドモン）の各種機能を活用し、記録業務やアンケート集計、職員共有の省力化を図る
- (イ) 保育支援システム（コドモン）の知識を深め、保護者アプリを活用し、円滑なコミュニケーションを行うことで、園への安心感、満足度を向上させる
- (ウ) 業務内容や新人指導の見直しを図り、優先順位や廃棄すべきものを決定する
- (エ) 職員同士の対話を促し、日常的に支え合いながら主体性を発揮できる風土を作る

## 3. 統合保育の実践

- (ア) 障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」は、在園児との交流を図り、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的な保育を実施する
- (イ) 磐田市の巡回相談や訪問言語相談を利用し、並行通園先の児童発達支援事業所等と連携を深めながら、子どもへの関わり方や保護者へのアプローチ方法を学び、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる

## 4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 幼児期から小学校へと子どもの発達や学びの連続性を保障するために、「アプローチカリキュラム」を作成・実践し、小学校との円滑な連携・接続を図る
- (イ) 地域住民や小中高生との世代間交流を推進し、子育て支援活動、体験学習を積極的に受け入れ、子育てに関わる機会を創る
- (ウ) 行政や他機関と連携し、支援センター「エンジェル」で子育て家庭の交流の場を設け、子育て家庭の抱える課題を解決する

### 【数値目標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	20名	20名	20名	20名	20名	20名	120名
一日平均入所者数	11.6名	23.8名	25.0名	27.0名	25.0名	26.0名	142.8名
年間入所延人数	140名	286名	300名	324名	300名	312名	1,714名
入所率	58.0%	119.0%	125.0%	135.0%	125.0%	130.0%	119.0%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	211,443千円						
常勤換算職員数	43.1名						

### 【提供事業】

延長保育事業	一時預かり事業（一般型）
地域子育て支援拠点事業	学童保育事業
休日保育事業	病児保育事業（病後児型）

# 聖隷こども園こうのとり東

2023年度は、乳児の入園希望が少なく、少子化の影響を実感した。今後も確実な影響が予測されるため、選ばれる園になるよう地域に開かれた園づくりを行っていく必要がある。また、社会的に子どもを取り巻く環境が見直されている昨今では、「こどもまんなか社会」の実現や子どもの権利保障のため、今まで以上に園の在り方や教育・保育の質向上が求められている。園として“子どもにとって今大切なことは何か”を念頭に置き、子どもにとってはもちろん家族にとって“安心できる場所”と信頼される園づくりを心がけ、入園児数の確保につなげていく。また、職員のモチベーション向上のため、安心して働ける職場環境の構築を目指し、組織強化に取り組む。

放課後児童クラブについては、引き続き利用希望者が多く優先順位を考慮しながら定員を超えての受け入れとなる。落ち着いて生活できる場の保障とともに、児童に必要な社会性経験の保障についても、家庭との共有・連携を図り、心の安定と成長を支援していく。

## 【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

## 【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる
3. 地域のお年寄り、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく

## 【事業・運営計画】

### 1. 保育の質の向上

(ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践する

- ① “子どもの主体性を考える”を研究テーマとした学びを継続的に行い、子どもの発達を考慮した環境づくりと生活の連続性を意識した日課を再検討する
- ② 乳幼児の主体性を大切にした保育・教育を目指し、子どもの今の姿から興味関心を捉え、定期的に保育日課・内容を確認し、様々な保育体験の提供と子どもの“やってみたい”を引き出す保育スキルの向上を目指す
- ③ 子どもの一人ひとりの尊厳を大切にした日常の保育活動を中心に、行事や異年齢保育の意味や内容について職員間で再確認する

(イ) 保護者支援を実践する

- ④ 日常的な子どもの姿や友達との関わりを、園便りや保育ドキュメンテーションを活用し、可視化して共有する。また、送迎時など直接的に関わる機会も活用し、子どもの成長を保護者と共有する
- ⑤ 懇談会や個人面談、保育参加を計画的に実施し、保護者の悩みを共有し支援しやすい関

係性を構築する。外国籍家庭は、相互理解を深められるよう、より丁寧な支援や意見交換の機会を設ける

## 2. 統合保育・他機関との連携

- (ア) 保育者自身が統合保育や外国籍園児の背景について学びを深め、子ども同士が共に育ち合う環境づくりや配慮を十分に理解し実践につなげる
- (イ) 虐待や家庭（保護者）支援などの配慮が必要と想定される子どもの問題は、必要に応じて園と専門機関が連携し、子どもの安全と情緒の安定を図る

## 3. 食育の推進

- (ア) 栄養士、調理師、保育教諭が連携を図り、米・野菜作りやクッキング活動を通して、子どもの食への関心を高める

## 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 畑や田んぼ活動を通して、地域の高齢者とつながり、世代を超えた交流の機会をもつ
- (イ) 看護師による地域の住民への健康管理（血圧測定・健康体操指導）を年2回実施する
- (ウ) 年12回の園庭開放を実施し、「こども園での生活」「遊びの経験」「身体測定」「歯科講習」等を通して地域子育て世帯の育児相談の場を提供する

## 5. 放課後児童クラブ“オリーブ”

- (ア) 児童が主体的に学習やあそび、生活スケジュールなどを決めて行動することができる声かけを行い、生活環境を整える。また、社会性も意識して助言する

定員：40名

対象児童：市内1年生～6年生 児童予定数：通常33名（長期休み：45名）

対象小学校：原則・・東部小、田原小、福田小 \*田原・福田については送迎車利用

### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	28名	28名	36名	36名	36名	36名	200名
利用定員（1号）	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	28名	28名	36名	41名	41名	41名	215名
一日平均入所者数	11.5名	27.6名	34.0名	41.0名	38.0名	41.0名	193.1名
年間入所延人数	138名	332名	408名	492名	456名	492名	2,318名
入所率	41.0%	98.5%	94.4%	100.0%	92.6%	100.0%	89.8%
開所日数（延べ）	293日（教育週数44週）						
サービス活動収益	261,343千円						
常勤換算職員数	43.4名						

### 【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業（一般型） 外国人児童保育事業  
 病児保育事業（病後児型） 学童保育事業

# 聖隷こども園こうのとり豊田

2024年度は、地域に根差し開かれた園としての歩みをさらに進める。そのため、情報開示や関連機関との連携を強化する。少子化等の事由により、0歳児の新規獲得が困難な状況が予想される。選ばれる園となるため、園の教育・保育理念、運営方針や事業活動等を具体的且つ積極的に配信し、保護者や地域の方の伝聞の力も活用していく。園児や保護者からの信頼をさらに高めていくため、教育・保育の質の向上を目指し、園内研修等の充実を図る。雇用形態に関わらず誰もが自己研鑽を積む体制を整え、専門職としての知識や能力を高め組織力強化に繋げる。指導計画を基に『子どもの発達』に視点を置きながら保育を省察し、園児一人ひとりに応じた保育環境や保育者の関わりを見出し、子どもの自ら育とうとする力を伸ばし情緒の安定を図っていく。

## 【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書13:34

## 【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

## 【事業・運営計画】

### 1. 教育・保育の質向上への取り組み

#### (ア) 教育・保育理念を理解し実践する

- ① 乳児保育で、ゆるやかな育児担当制保育を継続する中で、『子どもの発達』を視点を保育を省察し、保育環境や保育者の関わりを考え実践する
- ② 子どもと保育者、子ども同士等の対話を大切にした「こども会議」等の手法も取り入れ、子どもの理解を深める
- ③ 異年齢児交流、地域の高齢者との交流、異文化交流等、様々な人との交わりを通して互いの違いに気づき認め合う心を育む

#### (イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ① 保育支援システム（コドモン）を通して、日々の保育の様子や教育及び保育の意図、子どもの発達について丁寧に伝えることで保護者との共有や相互理解を深める
- ② 保育参加や行事を計画し、子どもの様子や友達との関わり、教育・保育の可視化を行う個別面談等を行い子どもの育ちを共有する

### 2. 保育の専門性の向上と働きやすい職場環境の構築

#### (ア) 副主任や専門リーダーの知識や技術を活かし、職員全体で学び合う計画を実践する。外部研修に積極的に参加する（キャリアアップ研修・実技研修・給食研修・衛生管理研修等）

#### (イ) 雇用形態の違う職員同士の園内研修を計画し実践する。職員同士が教育・保育について定期的に語り合う環境を作り、施設目標に向けて協同性を持って進める

(ウ) 教育・保育準備や記録業務・環境整備等の振り返りを定期的に行い、業務効率の改善に取り組む。職員一人ひとりが高い視座で周りの状況を見る力を養い、園児の対応や保育準備の手伝い等、互いに支え合う関係性を構築する

### 3. 統合保育・専門機関との連携

(ア) 発達の気になる子や「こひつじ保育」(発達に偏りのある子どもを対象とした一時預かり)の広報を積極的に行い、利用者の増加に繋げる。子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえて、個別の支援を実施する

(イ) 必要に応じて磐田市の保健師、「磐田市発達支援センターはあと」や「聖隷こども発達支援センターかるみあ」と連携を図り、子どもへの関わり方や環境設定の配慮等を学ぶ

(ウ) 小学生と園児の交流や小学校とこども園双方の参観会を実施し、情報交換を通して教育の理解を深め、小学校教育との更なる円滑化を図る

### 4. 地域に根ざした取り組み

(ア) 地域の子育て家庭への助言や相談を行う機会を設ける。入園を視野に入れている親子へ保育公開日等を設ける

(イ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に着ける

(ウ) 地域ふれあいクラブとの交流を行う。空き部屋を活用し、園に招いて手作り玩具等の作成や環境整備等を依頼する

### 5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の子育て家庭を対象に、保育教諭等の専門的育児講座を企画する  
(BPプログラム(親子の絆づくりプログラム)等)

(イ) 小学校、中学校、高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に、こども園が積極的に協力し、次世代育成支援の一端を担う

#### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	18名	23名	24名	25名	25名	25名	140名
利用定員(1号)	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	18名	23名	24名	30名	30名	30名	155名
一日平均入所者数	11名	23名	27名	33名	33名	33名	160名
年間入所延人数	137名	276名	324名	396名	396名	396名	1925名
入所率	63%	100%	113%	110%	110%	110%	103%
開所日数(延べ)	293日(教育週数43週)						
サービス活動収益	233,964千円						
常勤換算職員数	49(41)名						

#### 【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型・幼稚園型)

親子ひろば

学童保育事業

# 聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘

2023年に「こども家庭庁」が設置され、「こどもまんなか」社会の実現に向けて取り組みが始まった。また、少子化が国の予想を超えるペースで進んでいる中で、「異次元の少子化対策」として、様々な対策・子育て支援が掲げられ、施設として取り組むべき課題も多い。こども園と児童発達支援そして訪問看護ステーションのそれぞれが目標を持ち、専門性を活かしながら連携を図ることで、乳幼児期の教育・保育、療育のみならず、家庭の保健医療等のケアに関わり、相互に補い合って業務に取り組んでいく。

2024年度は、各事業の相互関係をさらに強化し、利用者や地域のニーズに対してより高い成果を上げる組織へと成長させる。また、利用者のみならず、職員に対する子育て支援を強化し、出産しても安心して働ける環境の構築を目指す。

## 【施設理念】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

## 【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていると感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

## 【事業・運営計画】

### 1. 施設運営

- (ア) 職員の意見を反映させる場を設定し、安全・安心な環境を創る
- (イ) 多職種の職員がお互いの専門性を活かし、複数の視点を持ち、利用者支援に活かす
- (ウ) 法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、専門職としてのスキルアップを推進する
- (エ) 適切な職員配置やコスト管理を徹底し、運営を安定させる

### 2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 施設理念に基づいた保育研究や見合う保育を実践し、保育の質を高める
- (イ) 保護者向け講演会を企画し、子どもの育ちを職員と共に考え学ぶ機会を提供する
- (ウ) 職員の意見を反映させる場を設け、働きやすい職場、やりがいのある業務を維持する
- (エ) 3事業の専門性を活かして連携を図ることで、地域福祉の視野を広げる

### 3. 聖隷こども発達支援事業所かみあ富丘

- (ア) 複合施設の特徴を活用し、子どもの状況、発達・生活年齢に沿った体験を提供する
- (イ) 清潔の保持や生活習慣の確立、リラクゼーションを目的とした入浴支援を検討する
- (ウ) 家族やきょうだいを主体とした情報発信、つながる活動の機会を提供する
- (エ) 家庭や地域が抱える困難、解決すべき課題を活動の中で見出し行政等に発信する
- (オ) 職員が相乗的に支援力を向上できるよう、「得意」に特化した勉強会の機会を設ける

#### 4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 職員の学ぶ機会を確保し、訪問看護の質を維持し、新規利用者を増やす
- (イ) リハビリ技術の向上、病院との連携を強化し、難病、障害の利用者へのケアの充実
- (ウ) 職員がやりがいを持ち、気持ちよく働き続けることができる職場環境を整える

#### 5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 広報誌等で聖隷こうのとり富丘の取り組みを地域に伝えたり、妊産婦向けの講話の機会を作ることで、子育て家庭が安心して子育てができるようにする
- (イ) 地域住民や中高生との交流など、多世代・多文化の方が子育てに関わる機会を創る
- (ウ) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

#### 【数値指標】

##### ■聖隷こども園こうのとり富丘

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	18名	20名	20名	20名	21名	21名	120名
利用定員(1号)	-	-	-	3名	3名	3名	9名
利用定員合計	18名	20名	20名	23名	24名	24名	129名
一日平均入所者数	15.0名	21.0名	24.0名	26.0名	25.0名	25.0名	135名
年間入所延人数	180名	253名	288名	312名	300名	300名	1620名
入所率	83.3%	105.4%	120.0%	113.0%	104.1%	104.1%	104.6%
開所日数(延べ)	293日(教育週数 44週)						
サービス活動収益	213,594千円						
常勤換算職員数	38.7名						

【提供事業】延長保育事業 一時預かり事業(一般型・幼稚園型) 病児保育事業(病後児型)

#### 【数値指標】

##### ■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

利用者定員	10名
利用者延べ人数	2,822名
一日平均利用者数	11.4名
稼働率	114.7%
稼働日数(延べ)	246日
単価(一人一日当り)	18,227円
サービス活動収益	51,946千円
常勤換算職員数	9.1名

##### ■聖隷訪問看護ステーション富丘

平均利用者数	88.5名
月間訪問件数	435件
年訪問件数	5,220件
単価	9,800円
サービス活動収益	52,091千円
常勤換算職員数	7.8名

# 在宅・福祉関東ブロック

在宅・福祉関東ブロックでは ICT 活用を含む様々な現場改革に取り組んだ。加速する人口減少により働き手が減少し、介護現場に大きな影響が出ている。

職員が安心して利用者支援に向き合うために多様な働き方ができる組織、将来への展望を持ちながら安心して働くことができる組織づくりを目指し、組織改革に取り組んでいく。

## 【在宅・福祉関東ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

## 【2024 年度目標】

1. 職員が考える時間を確保できる職員配置・ICT の活用
  - ・ 業務優先とならない職場環境 「職員が互いに助け合う仕組み」
  - ・ 「安心安全のサービス」 から 「期待されるサービス」 へ、現場の職員が主体的に考える
2. 事業継続のための収支バランス
  - ・ サービスの質を担保した上での介護報酬改定への対応
  - ・ 職員数に見合った事業規模(規模縮小も検討)
3. 地域に必要とされる事業の選択
  - ・ 継続すべき事業の優先順位を考える
  - ・ 必要とされる新規事業の検討
4. 地域ごとの課題解決に繋がる関係機関との連携の強化
  - ・ 千葉・神奈川の地域にて法人内の人事交流及び情報共有の強化
  - ・ 各地域にて他事業者との協働による人材確保への取り組み

## 【浦安市高州高齢者福祉施設及び猫実デイサービスセンター】

1. 個々のニーズに合ったサービス  
認知症、ACP (アドバンス・ケア・プランニング)、嚥下 現場職員によるプロジェクト
2. 長期入院にならない取り組み  
健康管理の徹底、初期の症状発見、予防的ケアの質向上
3. デイサービス A 型の再開  
浦安からの要請により地域包括の跡地利用
4. 猫実デイの夕食提供等を検討  
民営化を見据えて ONLY ONE のサービス検討
5. ケアハウス入居者への適切な対応  
フレイル・閉じこもり予防、退去 (予定) 者への適切な情報提供と支援
6. 送迎業務の一体化、効率化

## 【浦安せいらいの里】

### 浦安愛光園

1. 医療ニーズの高い利用者へのサービス提供  
喀痰吸引等有資格者の育成、地域ニーズへの対応
2. 認知症対応力の向上  
チームケア、早期発見・予防、実践事例集
3. 役割に基づいた人員の適正配置と費用対効果の検証  
職場長・介護支援専門員業務の明確化  
見守りシステムの効果的な活用
4. 排泄プロジェクト  
ケアの統一、入院者数の減少、コスト適正化

### 浦安ベテルホーム

施設内のケアマネジメントサイクルの確立によるケアサービスの質の向上と在宅支援施設としての機能強化

1. 介護職員のアセスメント能力の底上げ
2. 施設ケアマネを中心にした多職種共同のケアサービス管理体制の構築
3. HIMVIT、見守りシステム、インカム等、導入した介護 ICT 機器を活用し、安心安全かつ効果的なケア提供体制にシフト

## 【松戸愛光園】

1. 介護現場での ICT 技術を活用  
入所・ショートステイでの排泄ケアの見える化と個別化  
デイサービスでのインカム・送迎システム活用による省力化
2. 事業の垣根を超えた働き方の実施  
入所・ショートステイ・デイサービス職員による入浴介助の協働  
松戸ニッセイエデンと防災訓練や職員研修を共同実施
3. 新たな介護人材確保のスキーム作り  
千葉県留学生受入れプログラムへの参加

## 【横須賀愛光園】

1. 業務改革の推進と拠点内連携の促進  
看多機との連携 各会議体の再編と構造化 送迎配車システムの活用
2. 障がい者日中活動の試行継続と事業推進  
デイサービス定員 5 名増加（共生型生活介護）
3. 資質向上と人材の確保  
魅力作りと可視化 属人化した業務の整理と役割分担 指導力の強化  
登録ヘルパー・看護パートの時給 UP
4. 質の高いサービスの提供と経営の安定化

# 浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2023年度は新型コロナウイルス感染症も落ち着き、少しずつではあるが入居者が小集団でイベントができるようになり、また職員も日々のケアをより深く検討する時間を増やすことができた。2024年度は、今一度入居者・利用者から求められているニーズを探り、必要とされる最高の質のサービスが提供できるよう、コロナ禍で利用者と触れ合う機会が少なかった新入職員も積極的に参画することを意識しながら、職員一人ひとりが働くやりがいを持って利用者のために考え、実践できる年度としたい。

一方、人材の確保については、年々厳しさを増す中で欠員状態のまま職員が業務優先となることが無いよう、採用媒体の見直しや法人・施設の強みのアピール等、ICTの更なる活用は勿論のこと、あらゆる手段を検討、実施する。

## 【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

## 【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

## 【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する  
(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
  - ① 個々の認知症状を分析、その人の人生の歩みを深く理解し、「その人らしく」を支援できるようケアプランを立案・実施・評価を行う
  - ② 施設ケアマネジャー、相談員、看護師が中心となり、「もしもの時の話し合い」を繰り返して行い、入居者・ご家族の望む最期が迎えられるようにする
  - ③ 嚥下プロジェクトを継続、定期的な嚥下評価を実践し、個々に合った食事形態、食事時間、姿勢等の支援を行う

(イ) ケアハウス

- ① 入居者の社会性維持・閉じこもりやフレイル予防のための、地域交流とプログラムを強化する
- ② 入居者の状態に応じた機能維持を図るとともに、生活不便を低減する
- ③ 事故・感染予防に関する入居者への啓蒙・啓発と予防を強化する

(ウ) 通所介護

- ① 各地域利用者に対する個々のニーズに寄り添った生活支援サービスの提供と新たな支援体制の充実を図る
- ② 健康管理の支援が必要な方の体調観察を強化して、初期の症状発見に努め、ご家族、居宅支援事業所、医療機関との連携を密にとり、受診を勧めるなど、長期入院にならないよう取り組みを継続する
- ③ ご利用者ご家族へ、利用時の様子を知る機会を作り、職員と意見交換をすることで新たなニーズを把握しより良い対応につなげる
- ④ コロナ禍で利用者が不在であったデイサービス A 型について、浦安市からの要請もあり提供日、提供場所を変更して、フレイル予防を意識した運営を再開する

2. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う

- (ア) 各専門職のラダー評価、コンピテンシー評価、目標参画を適正に運用し、職員個々のやりたいこと、チャレンジしたいことが発揮できる職場環境をつくる
- (イ) 入居者個々のニーズに合ったケアプランを作成、実践、評価を行うことにより、個別ケアの充実を図り、職員のやりがいに繋げる
- (ウ) 職員個々の不安を取り除く「職員が互いに助け合う仕組み」を継続する
- (エ) 認知症介護基礎研修受講支援・介護支援専門員資格取得支援など、職員のケアの質向上に努める
- (オ) ICT (HIMVIT) を導入することや、ケアサポーターを適正に配置することで、業務整理を進め、入居者・利用者に関わる時間を増やす

3. 経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム

- ① 相談室のマニュアルを作成・実施することで、相談員育成をしていく
- ② 計画的に待機者への声掛けを行い、退居後の空床日数を7日以内とする
- ③ 他職種が連携し、日々の健康管理を徹底することで、入院者数の軽減を図るとともに、協力病院・近隣病院との連携強化を継続する

(イ) 短期入所生活介護

- ① 個々のニーズに合ったサービスを提供し、定期利用へ繋げる
- ② 多床室、夫婦部屋の営業、環境整備等を行うことにより、利用者数の増加を図る
- ③ 緊急、措置利用の受け入れの際、迅速な調整、支援を行う

(ウ) ケアハウス

- ① 退去が必要な方への情報提供等適切な対応を強化する
- ② 入居者が安心できる生活継続や建物設備の有効活用に向けた検討をする

(エ) 通所介護

- ① 居宅支援事業所との連携を強化、各地域の特性に合わせた生活支援サービスの提供を図り、安定した稼働を維持する
- ② 朝食、夕食、栄養補助食品の提供を栄養改善支援サービスとして定期的に評価を行い、効果があり改善したことなどは、積極的に地域へ情報発信し利用者確保につなげる

4. 防災体制の確立

- (ア) 新型コロナウイルス感染症予防策の周知徹底を継続する
- (イ) BCP（事業継続計画）、感染マニュアル等の定期的な確認、訓練を実施し、緊急時に速やかに対応できるよう周知徹底を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 各専門職の実習生を積極的に受け入れる
- (イ) ボランティアを積極的に受け入れ、地域との交流を活性化する
- (ウ) 関係機関と密に連携を行い、障がい者雇用の法定雇用率を達成・維持する
- (エ) うらやす健康・元気コンソーシアムに継続参加し、新たな取組みを地域に発信する

【数値指標】

	特 養	短 期	ケア ハウス	高 洲 デ イ	猫 実 デ イ	総合計
利 用 者 定 員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	250 名
利 用 者 延 数	34,858 名	14,893 名	6,117 名	5,684 名	6,517 名	68,069 名
一 日 平 均 利 用 者 数	95.5 名	40.8 名	16.8 名	18.6 名	21.3 名	193.0 名
稼 働 率 ( % )	95.5%	81.6%	33.5%	74.3%	85%	—
稼 働 日 数 ( 延 べ )	365 日	365 日	365 日	306 日	306 日	—
単 価 ( 一 人 一 日 当 り )	—	—	—	—	—	—
サ ー ビ ス 活 動 収 益	638,464 千 円	258,776 千 円	106,779 千 円	56,166 千 円	63,958 千 円	1,124,143 千 円
常 勤 換 算 職 員 数	80.3 名	33.3 名	10.2 名	10.7 名	13.8 名	148.3 名

# 介護老人福祉施設 浦安愛光園

2024年度は介護と医療の連携強化、認知症対応、見守りシステムを活用することで入居者の安全性とサービスの質を向上する。2025年から高齢者人口がピークを迎える2040年に向けて認知症高齢者の増加など対応力の向上が必要となり、チームで取り組む認知症ケアに加えて予防、早期対応も行っていく。

人材の確保と育成は、生産性の向上と合わせて更に大きな課題となっている。EPA介護福祉士候補生の受入れを再開し、介護人材の確保に努めるとともにダイバーシティを推進する。また、職員配置については役割を明確にし、適正配置を検討する。2024年3月に導入した見守りシステムについては先行施設と比較しながら検証し、自施設の最も有効な活用方法を確立する。

2024年度から義務化される業務継続計画と高齢者虐待防止は定期的な研修と訓練を実施し、マニュアルのブラッシュアップを図っていく。

## 【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

## 【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

## 【事業・運営計画】

1. 利用者一人ひとりに安全で質の高いサービスを提供する
  - (ア) 介護と医療の連携強化
    - ① 医療の視点を踏まえたケアマネジメントを実践する
    - ② 医療ニーズが高いご利用者へのサービス提供を検討する
    - ③ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づいた看取り対応を行う
    - ④ 協力医療機関との連携体制の見直しを行う
  - (イ) 認知症対応力の向上
    - ① 実践事例集を活用し、ユニット内でのケアの統一を図る
    - ② 認知症介護実践リーダー研修修了者を中心に、チームで認知症ケアを実践する
  - (ウ) 見守りシステムを活用し、ご利用者の安全性とサービスの質を向上する
    - ① 転倒・転落事故の予防と具体的な再発防止対策の立案
    - ② センサーにより取得した様々なデータから身体状況や活動状況を見守り、必要時に必要なサービスを提供する
2. 多様な人材の確保・育成の継続
  - (ア) EPA介護福祉士候補生の受入れ

- (イ) ユニットリーダー研修の積極的な受講
- (ウ) ワークライフバランスを意識し、健康経営を実践する
- (エ) 新たな手段として、インカムでのOJTを実施する
- (オ) 高洲地区内のダイバーシティについて継続する

### 3. 地域共生社会の実現

- (ア) 障がい福祉サービスから介護保険サービスへの移行が円滑に行えるよう地域の機関と連携・協働し、複合・複雑化したニーズに対応する地域包括ケアシステムを推進する
- (イ) 医療ニーズのある方が希望する地域で適切な医療が受けられるよう、同法人の聖隷訪問看護ステーション浦安や浦安ベテルホームショートステイ等との連携を強化する
- (ウ) 効果的な相談援助技術を学ぶ為、地域の事例検討会や研修会を通じて学びの場を作り相談支援専門員としてのスキルを向上する

### 4. 経営の安定と業務改善の継続

- (ア) 役割に基づいた人員の適正配置と費用対効果を検証する
- (イ) 老朽化した機械浴1台をシャワー浴槽に入替え、安全性の向上と入浴時間短縮を図る
- (ウ) 排泄プロジェクトでのケアの統一とコスト適正化への取組みを継続する
- (エ) 2024年介護報酬改定で新設された加算の取得とLIFE見直しへの対応を行う
- (オ) 生産性の向上と働きやすい職場環境づくりのための委員会を設置し課題解決していく

### 5. 業務継続に向けた取組みの強化

- (ア) BCP業務継続計画（感染症・非常災害）を職員に周知し、定期的（年2回以上）な研修と訓練を実施する
- (イ) BCP業務継続計画（感染症・非常災害）の検証と見直しを行い、マニュアルを更新する

### 6. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 高洲地区の地域貢献プロジェクトを通して、施設外の清掃活動を継続する

#### 【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74名	-	-
利用者延べ人数	26,250名	420名	-
一日平均利用者数	72.0名	-	-
稼働率	97.2%	-	-
稼働日数（延べ）	365日	243日	-
単価（一人一日当たり）	16,193円	14,538円	-
サービス活動収益	425,083千円	6,106千円	431,189千円
常勤換算職員数	50.1名	1.0名	51.1名

## 介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2023年度は、在宅超強化型の継続算定や通所リハビリテーション拡張による定員増変更、訪問リハビリテーションの拡大等、地域における老人保健施設としての役割・機能強化に向けて、多職種が連携して取り組むことが出来た1年であった。

2024年度は、引き続き安心・安全な利用者本位のケアを提供するために環境づくり、人づくりに注力し再構築する1年とする。施設理念である「私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします」を実現するために、職員各々がやりがいを持って専門性を発揮しながら、多様な価値観を認め合いチーム一丸となって1つ1つ丁寧に取り組んでいく。

### 【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

### 【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

### 【事業・運営計画】

1. 安心・安全な利用者本位のケアの追及
  - (ア) 職員のアセスメント能力の向上を図り、利用者ニーズの把握や実現をすることができる
  - (イ) リスク管理能力を高め、事故総数が2023年度より30%減少する
  - (ウ) その人らしさを尊重した看取りケアができるようACPの実践を行う
  - (エ) 老人保健施設として求められる医療的ニーズへの対応力を高め実践する
  - (オ) 利用者ニーズに合わせた在宅復帰・在宅支援のために、施設ケアマネジャーを中心とした多職種によるタイムリーな支援の仕組みを作る
  - (カ) 職員ひとりひとりが内省する機会を作り、高齢者虐待防止を推進するための新たな体制を構築する
2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成
  - (ア) ケアの質向上のために立ち上げた各プロジェクトを再編し、専門性の向上のための職員教育を実施する
  - (イ) 認知症の基礎知識を学び、対応力の向上を図る
  - (ウ) 新たな勤務体制を確立し、職員が働きやすい環境を整備する
  - (エ) 業務仕分けを行い、多様な雇用形態を促進する
  - (オ) ICT(HIMVIT、インカム、見守りシステム)を活用し業務改善の取り組みを継続して実践する
  - (カ) 「職員が互いに助け合う仕組み」を活用し、風通しの良い職場作りを目指す

3. 地域の介護ニーズ・地域共生社会の実現を通じた経営安定化
  - (ア) 年間4名以上の医療型障がい短期入所対象利用者の定期的受け入れを実現する
  - (イ) ユニット型居室の在宅超強化型算定継続、従来型居室の在宅超強化型年度内算定を目指す
  - (ウ) 浦安地区の連携強化を継続し、効果的なベッドコントロールや在宅事業所・病院への定期的な情報発信等による安定的な利用者獲得を模索する
  - (エ) 通所リハビリテーションにおいて入所からの退所ケースやショートステイとの密な連携によって、利用者月平均39名超えを目指す
  
4. 防災・防犯体制の強化
  - (ア) 地域連携を含んだ研修や訓練等により、浦安地区BCPに沿った防災・防犯・風水害対策を定期的実施する
  - (イ) 災害時等の地域連携、協力体制を構築する
  - (ウ) 感染対策委員会を主に研修や訓練等により浦安地区BCPに沿った感染対応を実施する
  
5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進
  - (ア) 地域貢献委員会を軸に、地域が求めるボランティア活動へ参画、また介護予防講座等を実施する
  - (イ) 施設内ボランティアを年間4組受け入れる
  - (ウ) SNSの積極的活用による施設運営等の情報発信をする
  
6. 社会福祉施設の役割遂行
  - (ア) 生活保護受給者の受け入れ、無料又は低額老人保健施設事業の基準（10%）を満たした運営を行う

【数値指標】

	ホテルホーム入所	ホテルホーム短期	通所リハビリ	総計
利 用 定 員	100名			150名
利 用 者 延 べ 数	29,433名	2,176名	13,186名	44,795名
一日平均利用者数	80.7名	6.0名	42.7名	129.4名
稼 動 率	81.0%			—
稼動日数(延べ)	365日			—
単価(1人1日当り)	15,766円	19,860円	11,638円	—
サービス活動収益	510,965千円		153,867千円	664,832千円
常勤換算職員数	62.7名		22.6名	85.3名

# 聖隷訪問看護ステーション浦安

2024年度に聖隷訪問看護ステーション浦安は、東京海上日動ベターライフサービスと事業所を隣接にて開設してから丸8年を迎える。浦安エリアに定着したご利用者数を確保でき、さらに徐々にその数は増えている。東京海上日動ベターライフサービスの居宅・訪問介護事業所との連携も強く、協働して地域住民のその人らしい生活を支援できているため、今後も事業拡大を目指し共に事務所移転予定である。今後も浦安市の高齢化率が上昇していくことを見据えて、収支バランスを取りながら運営と経営を安定させ、これからも地域貢献していきたい。

## 【施設理念】

ご利用者の一人ひとりの自己決定を大切にし、その人の選ぶ医療と生活を質の高いケアで支援する

## 【事業・運営計画】

1. 理念に基づき、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護の継続
  - (ア) ご利用者主体の自己決定支援を行い、ACPに沿った訪問看護ケアを充実させる
  - (イ) 1回/週のカンファレンスを通して実施した訪問看護の評価を繰り返し、ケアの質向上につなげる
  - (ウ) 東京海上日動BLSと協働で、法人の枠を越えた地域を支援する体制を推進していく
2. 事務所移転後も聖隷訪問看護ステーション浦安の運営と経営が維持できる
  - (ア) 浦安市の地域ニーズを知り、病院・クリニック・居宅支援事業所との連携を深めていく
    - ① 毎月、各事業所に受け入れ空き情報を送り、顔の見える連携を続ける
  - (イ) 転居に伴う支出増加を見越したご利用者の確保を目指し、選ばれる訪問看護を模索する
    - ① 人員換算訪問件数72件以上を維持する
    - ② 機能強化型2と看護体制強化加算I算定の維持
  - (ウ) 職員一人ひとりに教育プログラムに沿ったOJTを行い訪問看護の質を確保する
3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
  - (ア) ICTの推進で記録などの省力化を図り、効率の良い業務改善を行うことで、超勤時間を短縮できワークライフバランスにつなげる
  - (イ) 目標参画システム・職種別ラダーを通して、各職員の得意分野の学びを深め、職場の勉強会で共有していく
  - (ウ) 職場環境の改善と有給取得率をあげ、ストレスチェックの「仕事の負担」改善を目指す。
    - ① 有給取得日数を正職員12日/年を目指す
    - ② ストレスチェック「仕事に負担」指数を41.3から50の改善を目指す

#### 4. 地域における公益的取組

- (ア) 次世代を担う看護大学の実習生を受け入れ、地域で働く訪問看護師の役割を伝えていく
- (イ) 地域で取り組むに連携会議や研修会に積極的に参加していき、浦安市の地域医療と包括ケアシステムにつながる貢献ができるように参画していく

#### 【数値指標】

	平均 利用者数	訪問件数 (月間)	訪問件数 (年間)	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
訪問看護 ST 浦安	93 名	615 件	7,380 件	9,942 円	73,371 千円	9.7 人

# 浦安市高洲地域包括支援センター

## 【事業・運営計画】

### 1. 地域における機能と役割の強化

- (ア) 地域で高齢者を見守る体制作りのため、高齢分野に留まらず教育機関とも連携し、多世代とのかかわりの機会を検討する
- (イ) 地域ニーズに合わせ、介護情報、認知症、ACPに関連する出前講座を行っていく
- (ウ) 2024年3月に地域包括支援センターの事務所が移転となったことを機に改めて老人クラブや民生委員、関係事業所など広くセンターの役割を周知し、来所相談の件数増加を目指す

### 2. 職員の資質向上のための取り組み

- (ア) 相談支援スキルラダーの活用と研修参加により、各職員の能力の向上を目指す
- (イ) 各職種が学んだ知識や技術について伝達研修を実施し、センター全体のスキルアップにつなげる

### 3. 職員のやりがいと働きやすい職場づくり

- (ア) 困難事例についてはセンター全体で共有、検討し、支援内容に合わせて複数で対応する
- (イ) 業務分掌を明確化し互いにサポートできるような体制をつくり、遅延なく業務遂行を行うとともに超過勤務を削減に取り組む

## 【数値指標】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	常勤換算職員数
41,150千円	予防支援 942件	150件	4,800円	49,212千円	6.3名
	マネA 534件	54件	4,800円		

# 介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園 松戸愛光園ショートステイ  
松戸愛光園デイサービスセンター 松戸愛光園ケアプランセンター  
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸

2023年度は新型コロナウイルス感染症も感染法上の分類も2類相当から5類に変わり、松戸愛光園でも家族面会や利用者の活動について、感染対策に配慮した上でパンデミック前の状態に戻すことができました。

また、職員の働き方についてはICT技術の活用により、業務負担軽減や効率化と利用者の安全・安心を両立させることができています。

2024年度は、松戸愛光園全体で地域の利用者を支えていけるように部署の垣根を超えた働き方を検討・実施する。また、不足する介護人材確保のために新たな取り組みにもチャレンジし、地域での安定的な事業運営を継続できるようにする。

これからも地域に暮らす高齢者、障がい者に寄り添いながら、地域共生社会実現にむけて取り組んでいく。

## 【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する』

## 【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

## 【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせた個別ケアを充実し、地域で選ばれるサービス提供を行う
  - (ア) ICT技術を活用することで排泄状況を確認し、個々の利用者に合わせた排泄ケアを実施する
  - (イ) 入所の空床活用を継続し、スムーズな短期入所受け入れを行う
  - (ウ) 口腔ケアの充実を図り、誤嚥性肺炎の予防に努める
  - (エ) 利用者・家族・専門職が一緒に考え協力しながら、ACPによる看取りケアを実施する
  - (オ) 通所事業では、機能訓練などの個別ニーズを充実できるメニューを検討し実施する
  - (カ) 居宅介護支援事業は専門職の育成を続け、地域に合わせた事業の継続を検討する
  - (キ) 相談支援事業では、虐待などの地域ニーズに合わせた相談業務を実施する
  - (ク) 松戸ニッセイエデンと共同での防災訓練や感染BCPに基づく職員の交換研修を実施し松戸地域での事業継続力向上を図る

## 2. 職員が安心して長く働ける職場づくり

- (ア) 事業の垣根を超えた働き方を模索し、一体感の持てる職場づくりを進める
- (イ) プロジェクト活動などを通して、女性や若手などの次世代リーダー育成に取り組む
- (ウ) ノーリフトケアなど介護職の腰痛予防に取り組み、安心して働ける職場づくりを進める
- (エ) 通所事業では、ICT 技術活用による業務省力化を進める
- (オ) 千葉県留学生受入れプログラムに参加し、不足する介護人材確保の仕組み作りを人事企画部と一緒に挙う
- (カ) 地方からの新卒採用に繋げるための仕組み作りを関東採用センターと一緒に検討する

## 3. 経年劣化した設備等の更新による安全性向上と安定した事業運営

- (ア) 玄関庇、外壁タイルの補修を計画的に実施する
- (イ) 電話交換機、防災設備の更新を実施する
- (ウ) 古くなった送迎車両を更新し、省エネルギー化を進める

## 4. 社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園との、福祉学会、チャリティバザー、地域清掃活動を一緒に挙うていく
- (イ) 地域の二次福祉避難所として、松戸市と共同で防災訓練を実施する

【数値指標】

入所・短期入所・通所関係事業

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護保険	障害	介護	総合	障害
利用者定員	103名	21名		34名		
利用者 延べ数	36,279名	6,825名	306名	36,279名	6,825名	306名
一日平均 利用者数	99.4名	18.7名	0.8名	99.4名	18.7名	0.8名
稼働率	96.5%	93.0%		81.0%		
稼働日数 (延べ)	365日	365日		308日		
単価 (一人一日当り)	15,285円	15,248円	13,238円	15,285円	15,248円	13,238円
サービス 活動収益	554,510 千円	108,122 千円		78,292 千円		
常勤換算 職員数	73.8名	14.0名		13.1名		

居宅介護支援事業

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査	訪問調査	サービス	常勤換算
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	活動収益	職員数
2,468件	433件	15,863円	4,612円	40件	4,400円	43,321千円	6.2人

障がい者(児)相談支援事業

年間サービス 利用数	年間継続サービス 利用数	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
3件	168件	3,447千円	1.0人

# 横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園      横須賀愛光園デイサービスセンター  
西第二地域包括支援センター      聖隷ヘルパーステーション横須賀  
聖隷訪問看護ステーション横須賀      聖隷ケアプランセンター横須賀  
聖隷看護小規模多機能横須賀

2023年度は法人内で初めてとなる看護小規模多機能型居宅介護事業の開始と、大規模改修やシステム導入後のリニューアルした環境下でのサービス提供が開始できた。これらは部署や事業種別にとらわれず、我が事として一丸となった運営ができている拠点だからこそ成し得たことと考える。一方で、質の向上と働き方の変革については、まだその取り組みを開始した段階であり、改修や設備投資の効果を可視化できる段階には至っていない。

2024年度、横須賀愛光園は、利用者や家族、地域の方々に求められる質の向上に重点を置き、各事業における更なる業務改革、職員教育や指導力の強化に取り組む。そして、その取り組みや効果が、利用される方々と職員にとって魅力として実感できるようすすめていく。

【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障がい者も含めた地域福祉を展開する
2. 互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
3. 職員一人一人の資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
4. 決められた時間で良質なサービス提供

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせた連携と切れ目のないサービスの提供
  - (ア) 各会議体の役割や持ち方について再編し、『利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び負担軽減に資する方策を検討するための委員会』についても構造化して取り組む
  - (イ) 各事業において報酬改定への対応と、LIFEの連携効率化、質の向上も含めた焦点化を行う
  - (ウ) 共生型生活介護を活用し、障がい者日中活動の試行継続と事業推進を行う
  - (エ) 感染予防策の徹底、事業継続計画（BCP）の研修、訓練の実施
  - (オ) 全事業において接遇・応対について取り組みを継続し、気持ちの良い施設作りを行う
2. 職員一人一人の資質向上と人材の確保
  - (ア) 職種別専門研修、リーダーや役職者研修の実施と、マニュアルのシステム化を検討する
  - (イ) 各事業における魅力作り・可視化に取り組み、求人・魅力発信活動の充実を図る
  - (ウ) 役職者や相談系職種の属人化した業務の整理と役割分担に取り組む
  - (エ) 介護補助、運転手等補助系職員の管理と育成を見直し、送迎配車システムを活用した見える化と効率化を図る
  - (オ) 36協定の遵守、労働災害発生0件の達成、有給休暇取得率向上を目指す取り組みの継続

### 3. 利用者一人一人に合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化

#### (ア) 特別養護老人ホーム、短期入所

- ① 各種システムの活用促進や業務変革により、余暇活動など入居者の生活の充実を図る
- ② 指導力の向上や各介護技術の見直しを図り、スキル向上と質の高いサービス提供を行う
- ③ 事故予防や事故後の対策、緊急時対応などについて見直し、転倒転落事故の減少に努める

#### (イ) デイサービスセンター

- ① 新サービスの提供継続、内容・質のブラッシュアップを行い、稼働率の向上を図る
- ② 個別機能訓練等各種加算に係る提供体制の構築と業務分担に取り組む
- ③ 定員を5名増加し、障がい者日中活動サービスの提供を開始する

#### (ウ) 西第二地域包括支援センター

- ① 地域における意見交換の場、参加しやすいサロン作りの推進と、地域資源情報の整理と案内に取り組む
- ② 介護予防支援に係る業務の標準化と効率化に取り組むとともに、居宅支援事業者への介護予防支援指定の促進に係る取り組みを行う

#### (エ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

- ① 法人内事業所と共同し、サービス提供責任者の業務整理と効率化に取り組む
- ② 登録ヘルパーの採用求人力向上・質の向上に向け、魅力作りや育成フォローに取り組む

#### (オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

- ① 看護小規模多機能との連動体制（情報共有、緊急対応）の検証と今後の在り方の検討
- ② ターミナルケアの質の向上と、地域状況にあわせた特定・認定看護師の検討

#### (カ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ① 疾患、口腔機能や栄養改善、インフォーマル、他制度など多角的な視点でのアセスメントや計画書作成が実践できるよう取り組みを行う
- ② 介護支援専門員の業務整理と効率化を可視化し、取扱件数増への適応を図る

#### (キ) 聖隷看護小規模多機能横須賀

- ① フル稼働での運営の確立・実施と提供サービス（日課、看護、対応力）の充実に取り組み、経営の安定を図る
- ② 特養、訪問看護、デイなど拠点内事業との連動協同体制のさらなる模索

### 4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 拠点としての地域貢献活動について見直し、協同化した取り組みの検討、実施

(イ) 地域ボランティアセンター運営への参加を継続する

【数値指標】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括 支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	65名	40名	15名	30名	—
利用延数	23,104名	14,235名	4,343名	7,448名	—
一日平均利用者数	63.3名	39.0名	12.7名	23.9名	—
稼働率(%)	97.4%	97.5%	84.6%	79.6%	—
稼働延日数	365日	365日	365日	308日	—
平均介護度	3.94	3.98	3.0	1.9	—
単価(1人1日)	12,500円	15,300円	12,100円	10,000円	—
サービス活動収益	289,036千円	217,867千円	55,820千円	71,350千円	39,865千円
職員数(正・エA)	26.3人	20.8人	5.0人	4.2人	4.5人
職員数(パ・ア)	8.9人	9.2人	2.0人	4.5人	1.3人

	聖隷ヘルパーステーション横須賀				聖隷訪問看護ステーション横須賀	
	介護給付	総合事業	自立支援	有償等	介護給付	医療給付
月平均利用者数	65名	13名	19名	—	94.8名	38名
月平均訪問件数	639件	62件	174件	—	521件	235件
利用延時間数	6,456時間	600時間	2,400時間	96時間	—	—
稼働延日数	243日				243日	
単価	5,300円/時間	4,300円/時間	4,500円/時間	—	10,800円/件	11,400円/件
サービス活動収益	48,072千円				101,302千円	
職員数(正・エA)	4.0人				8.0人	
職員数(パ・ア)	0.9人				4.0人	

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正職員 エA	パ・ア
1,728件	120件	16,800円	4,560円	60件	4,500円	29,633千円	3.0人	2.0人

聖隷看護小規模多機能横須賀							
登録定員	平均登録者 数/月	平均通い者 数/日	平均宿泊者 数/日	単価 1人/月	サービス 活動収益	職員数	
						正職員 エA	パ・ア
25名	20.7名	11.5名	3.5名	320,000円	79,530千円	10.0人	2.0人

## 在宅・福祉関西ブロック

これまでのエリア制におけるエリア内での完結だけでなく、相互がより連携を行い、事業を進めていく。地域にて必要とされるニーズや事業があり、エリア内には担当する事業が無かった場合でも、ブロック全体でその課題に取り組んでいかなければならない。さらには、同じ地域で事業展開している他事業部施設とも積極的に連携をはかり、現状の体制に固執することなく、新しい取り組みや変化を柔軟に受け入れ、地域に根差した福祉事業を展開できる組織構築を目指していく。

### 【2024 年度目標】

地域に必要なサービスを捉え、提供体制を整える

### 【2024 年度重点目標】

1. 業務の ICT 化をさらに進め、サービスの質の向上、職員のモチベーション向上へ繋げる
2. 地域福祉の成長に貢献する
3. エリア間が連携・協力できる、組織・会議体制を構築する
4. 職員がやりがいを持って働きたいと思う職場環境、職場風土を醸成する
5. 地域課題に対し、老築化した建物・設備も踏まえた将来計画を構想する

### 【宝塚第 1 エリア】

これまで導入してきた ICT 機器は、既に業務に無くてはならないものとなっている。聖隷 DX の推進は、サービスの質向上はもちろん、働き方や働きやすさなど、職員が働きたいと思える職場の環境作りに繋げていく。2024 年度介護報酬改定では地域包括ケアシステムの深化・推進として、地域の実情に応じた柔軟かつ効率的な取り組みが求められており、これまでサービス提供を行っていない地域や事業についても取り組んでいく。

- ① すみれ保育園跡地への障がい者就労支援事業の実施の検討
- ② 宝塚第 6 地区へのサービス検討（通所事業送迎拡大、ケアハウス花屋敷への訪問介護事業）

### 【宝塚第 2 エリア】

引き続き、高齢者・障害者分野での複合的課題に対して、在宅・施設が連携して関わっていく。導入した ICT 機器を活用し、利用者にとって安心・安全な環境を確保すると共に、多職種間で連携、情報の共有、支援をさらに強化することで、新たな価値観を見出すサービスを追求し、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につながる 1 年とする。ケアハウス花屋敷や宝塚第 6 地区西地域へのサービス展開を、宝塚第 1 エリアと協働し進めていく。

- ① ケアハウス花屋敷への聖隷訪問介護サービスの拡充
- ② 北神戸エリア（訪問看護、居宅介護支援）の事業強化

### 【淡路エリア】

聖隷 DX の継続及び聖隷淡路病院との連携のもと、法改正及び淡路市第9期介護保険計画に適応した事業活動を展開する。施設・在宅サービス事業においては、在宅医療・介護の充実、看取り・口腔ケア・リハビリテーション・認知症・高医療・重度者への対応を強化する。保育事業においては、一般保育の充実と療育への取り組み、子育て支援等に重点を置く。生産性向上ガイドラインに基づいた業務改善と機器・設備更新を推進し、サービスの質の向上と生産性の向上の両立を図る。

- ① 聖隷淡路病院と連携したサービス提供体制の整備
- ② 淡路市の将来人口を見据えた、事業展開の構想

### 【保育宝塚エリア】

エリアの聖隷施設と情報共有をしながら、子どもの事業を考えていけるように連携を図っていく。また、職員異動等を通して各園の良いところに目を向け、それを活かせる人材の育成を心がけ、3園が安定した保育を行っていくことを目指す。

職員採用の対応として、早期に就職フェアや学校訪問、若手職員と学生の交流会等を計画し人事部関西採用センターと協力しながら進めていく。

- ① 児童館運営の在り方と障がい者受け入れについて行政との協議
- ② 逆瀬川あゆみ保育園の事業存続、テナント契約の協議

# 宝塚せいのりの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園

宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター

聖隷ケアプランセンターすみれ

宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センター

2024年は4月に宝塚すみれ栄光園、10月には宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター・聖隷ケアプランセンターすみれが10周年を迎える。この10年多くの方々にご利用、ご協力頂いたことに感謝し、さらなる躍進に向けて成長していく。

2023年秋より、面会、外出、行事、ボランティアの参加など、様々な制限を解除してきた。入居者と家族が当たり前に出会える環境は、入居者にとって生活の場であり、安心して過ごせる施設として、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。地域においても、必要とされるサービス・課題へは、職員自らが出向かなければならない。これら多様なニーズへ対応するためにも人材確保、育成は必須であるが、2022年度後半に多くの退職者を出し、欠員の補充には時間を要している。宝塚せいのりの里においては、やりがいだけでなく、働きやすさを大切にし、働き続けたいと思える施設作りに取り組んでいく。

この数年取り組んできたICT化・介護ロボット機器の導入は、既に業務になくってはならない物として定着している。2024年度は検討しているインカムの導入に加え、職員自らが介護機器の選定に関り、さらなる機器導入と、それに伴うケアの質向上に努めていく。

## 【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

## 【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

## 【事業・運営計画】

1. 「安心と穏やかに暮らせる」質の高いサービスの提供
  - (ア) アセスメント力を高め専門的見地で根拠を持った支援を実践する
  - (イ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、ケアプランや日々のケアにも反映させる
  - (ウ) 歯科医師等と協働し、体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化の抑制に努める
  - (エ) 利用者の活動支援や季節を感じられるイベントの提供とパブリックスペース等の環境整備

2. 施設や事業機能を活かした繋がりあるサービスの提供

- (ア) サービスを必要とする地域に対し、宝塚エリアの施設と協働し充実をはかる
- (イ) デイサービスとショートステイが協働し、継続したリハビリやレクリエーションを提供
- (ウ) すみれ保育園跡地での障害者就労事業の実施に向けた計画と準備を行う

3. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) リーダや係長を中心としたマネジメント強化を図り、次世代の育成を行う
- (イ) 職種や階層、経験に応じた育成スキームと体制を構築する
- (ウ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う
- (エ) インカムや福祉機器の導入と活用を進め、業務の負担軽減や効率化を図る

4. 運営安定化の推進

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (ウ) 職員体制の充実を図ると共に、勤務体制を検討する
- (エ) 給食提供体制の見直しを行い、契約の適正化と提供内容の充実をはかる

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域コミュニティ等に参画し、防災・防犯活動等を継続的に行う
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修等に開放する
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護	合計
	ユニット	ユニット	一般	
利用者定員	100名	20名	30名	
利用者・請求延べ数	35,040名	7,008名	6,466名	
一日平均利用者数	96名	19名	21名	
稼働率	96.0%	96.0%	69.0%	
稼働日数（延べ）	365日	365日	307日	
単価（一人一日）	17,053円	15,873円	11,849円	
サービス活動収益	597,533千円	111,237千円	76,615千円	785,385千円
常勤換算職員数	76.4名	14.1名	14.3名	104.8名
	居宅介護支援		権利擁護支援センター	
	介護	予防		
年間請求件数	3,165件	354件		
平均単価	17,500円	4,035円		
サービス活動収益	58,464千円		23,133千円	
常勤換算職員数	10.2名		4.0名	

# 宝塚せいのりの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

2024年4月1日でケアハウス宝塚は10周年を迎える。特定施設入所者生活介護の介護保険施設として、特養に比べ幅広い介護度の入居者を受け入れることができている。そのため、ケアハウス宝塚では、介護支援だけでなく、自立支援、生活支援が求められる。入居しても好きなことが続けられ、買い物、外出、レクリエーションなどができるように、身心機能の維持、向上をはかり、入居者個々の希望、ニーズを受け止め、その人らしい生活を営むことができる施設作りに取り組んでいる。

入居者が満足するサービスのためにも、職員は法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。職員全員が「利用者のために」という同じ考え、同じ想いで取り組むことが、ケアの質向上、職員の成長そして組織の目標達成につながっていく。職員が成長したいと思わせる組織作り、勤務時間の検討、職員体制の充実に努力していく。

面会、外出など様々な制限は解除され、入居者と家族が会える環境に戻ったものの、待機登録者の増加には至っていない。ケアハウス宝塚紹介冊子の作製から、行事や催し、入居者の暮らしぶり、ICTや介護ロボットの導入状況など、宝塚せいのりの里の魅力発信にも力を入れていく。

## 【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

## 【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

## 【事業・運営計画】

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援の提供
  - (ア) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、ケアプランや日々のケアにも反映させる
  - (イ) パブリックスペースの環境整備を行い、楽しく参加できるリハビリの充実を図る
  - (ウ) 入居者の社会参加や季節を感じられるイベントの提供
  - (エ) 入居者の状態とケアの差異による介護事故の防止を図るとともに、体調変化の早期発見と迅速な対応により、状態悪化の防止に努める

## 2. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) リーダーや係長を中心としたマネジメント強化を図り、次世代の育成を行う
- (イ) 職種や階層、経験に応じた育成スキームと体制を再構築する
- (ウ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う
- (エ) インカムや福祉機器の導入と活用を進め、業務の負担軽減や効率化を図る

## 3. 運営安定化の推進

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (ウ) 職員体制の充実を図ると共に、勤務体制を検討する
- (エ) 給食提供体制の見直しを行い、契約の適正化と提供内容の充実をはかる

## 4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域コミュニティなどに参画し、防災・防犯活動などを継続的に行う
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修などに開放する
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

### 【数値指標】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,528名
一日平均利用者数	67名
稼働率	96.0%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当り）	14,577円
サービス活動収益	357,545千円
常勤換算職員数	43.1名

# 宝塚せいのりの里

介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2023年11月1日で結いホーム宝塚は開設10周年を迎え、記念イベントにて入居者と盛大に祝い、喜びを分かち合うことができた。2024年度も引き続き10周年イヤーとし、家族や地域にも楽しんでもらえるイベントを開催していく。

一方で、2023年度は2022年度後半に続いた介護職員の退職補充に時間を要し、必要な職員体制が整わない1年だった。同じことを繰り返さぬよう、宝塚せいのりの里が働き続けたいと思える魅力的な施設であり続けられるよう、職員同士の横の繋がりや施設の一体感が感じられる場作り、教える側も教えられる側も共に育つ人材育成システムの構築、加えて、職員採用を意識した自施設の魅力発信などに取り組んでいく。

また、特別養護老人ホームでさえ待機者を確保することが困難になっている状況下で、結いホーム宝塚がコンスタントに申込者を獲得するためには、同価格帯の他施設とは一線を画すサービス提供が必要である。2024年度の介護報酬改定にて特定施設として求められていることを押さえつつ、季節感や時に特別感が感じられる食事の提供、快適かつ安全な入浴環境の整備、自施設の良さを効果的に伝えられる営業力の向上などに取り組み、稼働が安定的に維持できるよう努める。

## 【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

## 【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもってお一人おひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

## 【事業・運営計画】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供
  - (ア) 入居者・家族にとって心地よい接遇を行う
  - (イ) 食事提供体制を再構築する
  - (ウ) 入浴サービスの快適性と安全性を向上する
  - (エ) 家族・地域にも楽しんでもらえるイベントを開催する
  - (オ) 面会を快適に過ごせる環境を整える
  - (カ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、ケアプランや日々のケアにも反映させる
  - (キ) ICT機器導入で生んだ時間を可視化し意図的に活用する

## 2. 職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員育成の推進

- (ア) 職員がワークエンゲージメントの向上を実感できる
- (イ) フロアを跨いだ応援・兼務体制をより一層強化する
- (ウ) 生活施設における各職種の在り方を再考し、職種間の連携を構築する
- (エ) 職種や階層、経験に応じた育成スキームと体制を構築する
- (オ) 係長やリーダーを中心としたマネジメント強化を図り、次世代を育成する
- (カ) 眠り SCAN データの分析力を養い、科学的に状態把握・ケアを検討する力を付ける

## 3. 安定した施設運営

- (ア) 有償利用も視野に入れた新入居調整を行い、予算稼働率を維持する
- (イ) 施設検討者に有益な情報を発信し、申込者を確保する
- (ウ) 入居案内センターが地区内他施設の案内も含めて機能する
- (エ) 職員採用を意識した情報発信や実習生受け入れ等を行う
- (オ) 経年劣化を見越した計画的な修繕を実施する

## 4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

- (ア) まちづくり協議会活動やサロン活動において協働・側面的支援を行う
- (イ) 介護者や地域のニーズを把握しながら、宝塚せいの里介護技術講座を展開する
- (ウ) 宝塚市社会福祉法人連絡協議会や第4地区地域生活支援会議にて具体的なセーフティネット形成に参画する

## 5. 環境活動への取り組み

- (ア) 水光熱の効率的運用を図り、使用量の前年比減に取り組む
- (イ) 施設周辺の環境活動に地域住民と共に取り組む

### 【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ人数	35,040名
一日平均利用者数	96.0名
稼働率	96.0%
稼働日数（延べ）	365日
単価（1人1日当り）	17,320円
サービス活動収益	606,880千円
常勤換算職員数	66.4名

# 介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園 短期入所生活介護

2024年度は宝塚市内で最も歴史のある特別養護老人ホームとして開設45年目を迎える。特別養護老人ホームは、地域の方にとって『最後のとき』を安心してむかえたい」という希望を叶えるための「介護における『最後の砦』」である。宝塚栄光園はそのために存在し、職員は利用者 서비스에提供している。2024年度も利用者の想いに寄り添い、QOLの維持・向上、利用者へのサービスの質を確保していく。そのためにもICTや介護ロボットを更に活用し、業務の効率化を確実にものとし、多様なニーズへの対応を行える人材育成を行っていく。また、これからも地域で必要とされる福祉施設であると同時に、地域の方々が自立した生活を継続できるよう地域へ赴き、発信、関りをもっていきたい。

## 【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい』

## 【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく

## 【事業・運営計画】

### 1. 利用者のために

- (ア) 導入したICT機器の活用及びデータの活用を行い、利用者へ安心・安楽・安全な質の高いケアの提供を行う。また常に新しいICT機器等の情報を収集し導入を検討する
- (イ) 新型コロナウイルス感染症対策で希薄になっていた利用者同士や家族、地域とのコミュニケーション、心身機能の維持向上、QOLの向上のためのレクリエーションの充実を図る
- (ウ) 利用者の自己決定支援や、心身ともに健康であり続けられるように、職員それぞれの専門性を生かし連携する
- (エ) 医療機関との連携により、体調変化にも安心して過ごせる体制づくりを行う

### 2. 職員のために

- (ア) 業務改善のために、ICT機器を活用した客観的データ収集や福祉用具を積極的に取り入れることで、職員の心身の負担の軽減を図る
- (イ) アサーションスキルをもって、色々な意見を尊重し、多様性を認め、なおかつ自分の意見をしっかり発信できる職場風土をつくる
- (ウ) 園内にとどまらず他事業所の活動を知り、宝塚地区での宝塚栄光園の存在価値、役割を明確にする。また自身のキャリアプランを描く事ができ、聖隷でいきいきと働き続けることができる

### 3. 施設を守る

- (ア) 入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持することで経営を安定させる
- (イ) 利用者・職員が心地よい環境で過ごせるよう施設内の改修、新しい設備の導入を行う

### 4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域の方々が安心して住み慣れた地域で過ごせるように、地域包括ケアシステムの中での施設の役割を地域の方々に伝える場を地域包括支援センターと協力して設定する
- (イ) 自治会活動に積極的に出向き、地域との関わりを深める

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ（個室 21 室、2 人室 3 室、4 人室 15 室）

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	17 人	87 人
利用者延べ人数	24,637 人	6,022 人	30,660 人
一日平均利用者数	67.5 人	16.5 人	84 人
稼働率	96.4%	97.1%	96.6%
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日
単価（一人一日当り）	13,320 円	13,000 円	13,309 円
サービス活動収益	330,047 千円	78,292 千円	408,339 千円
常勤換算職員数	46.7 人	10.3 人	57.0 人

# 聖隷ケアセンター宝塚

## 宝塚第二地区中州在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター

### 【事業・運営計画】

1. 「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」その人の想いをかなえるために
  - (ア) 重度利用者、障害がある利用者、喀痰吸引が必要な利用者、看取りケアが必要な利用者など、様々な利用者の想いに寄り添ったケアを実践していく
  - (イ) 活動と参加に目を向け、利用者同士の繋がりを大切にしたプログラムの実践を行っていく
  - (ウ) 宝塚第二地区のデイサービス間での連携を強化し、在宅事業所とも連携を図りながら二地区の利用者を支えていく
  - (エ) ICTの活用を行い、働きやすさ・サービスの質の向上を行う
  
2. これからも「宝塚地区」でサービス継続可能な体制づくり
  - (ア) 各事業所の職員がやりがいをもってチャレンジできる環境を整える
  - (イ) BCP（事業継続計画）に沿ってケアセンター宝塚の総合力で、どんな災害でも地域を守っていく
  - (ウ) ケアハウス花屋敷のサービスを強化する
  
3. 多職種連携をより進め、利用者がこの地域で安心できるよう、職員の育成を行う
  - (ア) 各専門職が、他事業所へ根拠やアセスメントをもって情報を発信する
  - (イ) 各職員の目標に沿った人材育成・人事交流を行う
  
4. 地域における公益的な取組
  - (ア) 2022年度より実施している地域サロン「あい会いサロン」を、継続しつつ、地区内の拠点において新たに認知症カフェを立ち上げ、地域における介護の相談窓口「困ったときに頼れる聖隷」としての認知度を上げて、その役割を担っていく
  - (イ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

### 【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)		
37.5人	1,141件	13,688件	48人	581人	4,800円	14,500円	89,472千円	15.9名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合(月)		
28.8人	742人	8,905人	88人	192人	10,050円	35,000円	96,867千円	17.8名

## 宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚 聖隷ケアプランセンター宝塚 逆瀬川地域包括支援センター

### 【事業・運営計画】

1. その人が望む「在宅で最期まで過ごせる」が実現できる地域包括ケアシステムの構築
  - (ア) 施設を含め、地区内の看護職・医療技術職・介護職・相談職が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を在宅で支援できる体制を強化する。日々進化する在宅医療に対応できる人材の育成を推進する
  - (イ) 各職種の強みを生かし、地域包括支援センターを中心に地域住民とのつながりの中で、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の啓発を行う
2. 職員同士で支え合い成長していける環境、長く働き続けられる職場作りと次世代の管理者候補の育成
  - (ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する
  - (イ) 役職を担える職員を地区で共有し、育成を目的とした人事交流を行う
  - (ウ) 業務の効率化を図り、超過勤務削減の推進
3. 資源の効率的活用と生産性の向上
  - (ア) ICT を活用して、サービス提供表実績のやり取りの効率を上げる。また事業所間の記録の電子化を行う
  - (イ) ケアプランセンター宝塚において、業務手順・支援経過記録の標準化を行い効率化することで、ニーズの増大に対応できる環境を目指す
4. 地域における公益的な取組
  - (ア) 2022年度より実施している地域サロン「あい会いサロン」を継続しつつ、地区内の拠点において新たに認知症カフェを立ち上げ、地域における介護の相談窓口「困ったときに頼れる聖隷」としての認知度を上げて、その役割を担っていく
  - (イ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

### 【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
医療	73人	658件	7,900件	9,900円	153,112千円	16.1名
介護	127人	632件	7,583件	9,500円		
予防	13人	26件	317件	7,800円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価		訪問調査年間件数	訪問調査単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	介護	予防				
3,842件	352件	19,100円	4,200円	2,640件	4,950円	87,480千円	23.6名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）		
2,688件	2,820件	4,839円	619円	85,208千円	16.7名

# 宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

2024年度宝塚第二地区在宅複合事業は、地域の利用者層に変化が起きている中、重度の利用者だけではなく、利用者の幅広いニーズに対応出来るよう、サービスの幅を広げ、地域の期待に応えていく。

## 【経営方針】

1. 利用者が在宅生活を継続できるよう、利用者の立場に立ったケアを提供する
2. 多職種と連携を行い、利用者に最適なサービスを提供する
3. 利用者、職員がともに心豊かな生活を実現できる事業所作りに努める
4. 専門性を高める施設内教育・研修会を積極的に実践する
5. 地域に信頼される事業所として、地域貢献活動に積極的に取り組む

## 【事業・運営計画】

1. 利用者が在宅生活を継続できるよう、最高の質のサービスを提供する
  - (ア) 利用者・家族が安心できる、安全な介護サービスを提供する
    - ①中重度・医療依存度の高い利用者であっても受け入れることのできる体制の継続
    - ②利用者・職員ともにケアに安全性を高める介護機器を検討し、導入する
    - ③職員への介護技術のOJT・OFF-JT機会を創出し、人材育成に努める
  - (イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する
    - ①ICTの活用を深め、在宅医師を含む関係機関とのタイムリーな連携を行う
2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する
  - (ア) 利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する
    - ①利用者個々の周辺症状に対応するために、生活歴を紐解いた個別の関わりを深める
    - ②作業療法士と協働し、行動変化や日常生活における認知症の影響を評価する
  - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる
    - ①介護負担尺度評価により、介護者自身の身体的・精神的健康を可視化する
    - ②事業所と利用者家族が関係構築できる場「運営推進会議」「家族懇談会」を定期的に設ける
3. 地域における公益な取り組み
  - (ア) 逆瀬台地域の高齢単身者・高齢世帯への見守り活動に協力する(助け愛デリ、ナイトサロン)
  - (イ) 施設の地域開放を進め、地域活動の活性化を図る(クラブ活動、いき100体操等)

【数値目標】通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（月）	予防（月）		
24.1人	620人	7,439人	21.8人	262人	14,700円	39,500円	118,426千円	22.8名

【数値目標】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（月）	予防（月）		
6.5人	167人	2,003人	0人	0人	17,300円	0円	37,232千円	7.2名

## 聖隷デイサービスセンター結い

新型コロナウイルスの5類へ移行後、シールドの撤廃や制限解除を行ってきた。利用者が感染症を気にすることなくデイサービスを利用できる事が利用増加にも繋がっているため、地域のニーズに応えるためにも、存在意義を明確にし、サービスを提供していく。

健康維持への思い、最後まで自宅で暮らしたいという思いに、デイサービスとしてリハビリテーションを主軸にサービス提供できるよう、ケアの質向上を図りながら地域に根付くための活動を実践していかなければならない。

多様なニーズと宝塚第2地区の利用者を受け入れしていくための人材確保と、2025年以降を見据えた職員の育成と雇用に力を入れる。

働きやすい職場として、次年度はICTを積極的に導入し、職員の働きやすさに繋げるほか、業務の効率化により「より丁寧に利用者へ寄り添うケア」の時間を増やす。

### 【施設理念】

愛をもって人と地域に寄り添う

### 【経営方針】

1. 利用者が住み慣れた町、自宅で生活を続けられる「自分でやりたい！」を支援する
2. 地域貢献を積極的に行い繋がり「絆」を大切にする

### 【事業・運営計画】

1. 自立支援につながる質の高い機能訓練の提供
  - (ア) 「活動」「参加」の促進や継続ができる機能訓練の提供
  - (イ) 他機関と連携・協同し、医療から継続性のある機能訓練の提供
  - (ウ) モニタリングのフィードバックや運動メニューの可視化による理解の向上
  - (エ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の共有を行い気付きの場の提供
  - (オ) 介護予防として嚥下の運動と口腔機能訓練加算取得
2. 専門職の質の向上
  - (ア) 体感をテーマに介護のケアに繋がる気付きの場を作る（交換研修）
  - (イ) 相談員の専門性を高める研修会を実施する
  - (ウ) 法人外の職員と意見交換ができる場をつくる（所長・相談員）
  - (エ) インカムの効果検証に加え、専門職と連携して個別機能訓練の質の向上を目的として、利用者、家族に可視化した実施メニューを考案・提供できるシステムの導入を目指す

3. 地域における公益的取り組み

(ア) 施設設備を開放し、地域住民が機能訓練を体験できる場をつくる

(イ) 地域活動に参加し場所・人員の提供等に協力する

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益	常勤換算 職員数
平均利 用者数	月間利 用件数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (日)	予防 (月)		
16.0 人	413 件	4,956 件	75.0 人	4,299 人	6,700 円	32,000 円	62.996 千円	11.0 名

# 聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

福祉用具貸与単価上限見直しが3年ごとに行われ、貸与単価引き下げによる収益減や、介護保険の自己負担割合が2割、3割となる利用者があり「自費レンタル」が定着しつつある状況下で、更に2024年度は「福祉用具貸与、販売選択制」が導入される事となった。介護保険による福祉用具貸与が減る事で、居宅支援事業所からの自費レンタルの依頼に対して、どれ位融通が利くかがポイントとなっている。確実に福祉用具貸与の実績を積み上げられるよう自費レンタルを充実させる事が必須となっている。宝塚地区の障がい者事業の取り組みと共に、自費レンタルの対応範囲を広げられるようにする。

## 【施設理念】

地域の方のいのちと尊厳を守る為、福祉用具の専門性をもってサポートを行う

## 【経営方針】

1. 地域の方々を聖隷の在宅サービスの連携によって支える
2. 様々な要望に応えられるよう、知識・技術の向上に努める
3. 介護保険サービスに囚われず、必要なサービスに取り組む

## 【事業・運営計画】

### 1. 福祉用具貸与を柱とした経営の安定強化を図る

- (ア) 福祉用具貸与を事業の軸に置き、付帯して住環境を整えるよう住宅改修工事や福祉用具販売を行う。「利用者の生活環境を整える」ことにシンプルに働けるよう業務の簡素化を行い、施設販売、配達、事務処理など分業できるようにする
- (イ) 担当エリアに囚われず全員で依頼に対応することで日程調整の幅を広げ機会損失を減らす。そのための業務の標準化、対応に差が出ないよう職員間での連携を深める
- (ウ) 聖隷共通の福祉システムにより聖隷の在宅サービスと連携できるように導入を検討する

### 2. 貸与サービスの拡充

- (ア) 福祉用具貸与卸取引先と協力し現状で行える「自費レンタル」でのサービス内容を広げる。特に軽度者の4点杖や歩行器等、貸与か販売かを選択する場合の選択肢を増やす取り組みをする
- (イ) 介護認定が出る前の暫定中や区分変更中など、不安要素がある場合に安心して利用できるように、利用者負担を抑えられるプランを福祉用具貸与卸取引先の協力を得て作る

### 3. 障がい者事業開設に向けた取り組み

- (ア) 障がい者事業の開設により貸与商品の自社保有が可能にする。自費レンタルへの対応範囲を広くすることで利便性を高める。宝塚地区での障がい者支援事業の開設に向けた取り組みを、はぐくみ花屋敷等関係事業所と一緒に取り組む

#### 4. 地域における公益的取り組み

(ア) 聖隷の宝塚地区の地域包括支援センター、デイサービスセンターと協力し利用者や地域へ向けた福祉用具の相談、PRを行う。施設の行事への参加による福祉用具のPRを行う

##### 【数値指標】

年 間 貸与件数	年 間 貸与収益	年 間 販売収益	年 間 住宅改修収益	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
9,080 件	99,517 千円	64,500 千円	13,000 千円	177,017 千円	10.7 人

# 花屋敷せいのりの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園 花屋敷デイサービスセンター  
花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷  
聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷  
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類感染症としての位置づけに変更となった影響もあり、ご家族の段階的な面会制限解除をはじめ、花屋敷せいのりの里の行事の大部分を新型コロナウイルス感染症流行以前と同様の規模で開催することができた。

2024年度は、引き続き高齢・障害分野での複合的問題に対して在宅・施設が連携して関わっていく。またICT機器を活用し、利用者にとって安心・安全な環境を確保すると共に、新たな価値観を見出すサービスを追求し、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につながる1年とする。

## 【施設理念】

互いに愛し合いなさい

## 【経営方針】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取組み

## 【事業・運営計画】

1. 「安心して暮らせる」サービス機能を生かした繋がりある支援と定着
  - (ア) 地域ニーズの把握に努め、必要なサービスを創造する
  - (イ) 通所介護は、ICT機器を活用し、多種多様な利用者の積極的な受入れを継続する
  - (ウ) 短期入所生活介護は緊急や医療ニーズの高い利用者の積極的な受入れを継続する
  - (エ) 高齢化率の高い中山地区に対し、必要なニーズを汲み取り聖隷の総合力で対応する
2. 利用者満足度の高いサービスの提供
  - (ア) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、ショートステイでの看取り対応を実践する
  - (イ) 多職種連携により、体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化を抑制する
  - (ウ) 利用者の活動支援や季節を感じられるイベントを実施し、利用者満足度の向上を図る
  - (エ) 見守りシステムやインカムを活用し、安心・安全の定着を図る
3. 職員が専門職としての成長を感じられ、自己実現の追求支援が行える職場づくり
  - (ア) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う
  - (イ) 目標参画や各種ラダーに基づいたキャリア支援を行い、モチベーションの向上を図る

(ウ) 他法人と意見交換会等の場を開催し、役職者の知見を広げる

#### 4. 運営安定化の推進

(ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する

(イ) 4S活動の推進とBCP(事業継続計画)を見直し、職員間で共通理解を深める

#### 5. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める

(イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む

### 【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護					
					通常	予防				
利用者定員	108名		12名		35名					
利用延数	38,405名		4,238名		7,116名	38,405名				
一日平均利用者数	105.2名		11.6名		23名	105.2名				
稼働率(%)	97.4%		96.8%		79.8%					
稼働延日数	365日		365日		310日					
平均介護度	4.0		2.9		2.1					
単価(一人一日)	15,655円		15,829円		10,800円					
サービス活動収益	601,252千円		67,086千円		90,880千円					
職員数(常勤換算)	78.4名		8.2名		16.7名					
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)					
宝塚市受託収入	37,786千円		—	—	13,559千円					
年間請求件数	予防プラン 請求件数	2,100件	743件	210件	—					
	予防プラン 委託件数	360件								
平均単価	予防プラン 単価	4,840円	18,230円	18,540円	—					
サービス活動収益	61,606千円		13,539千円	3,895千円	13,559千円					
常勤換算職員数	12.4名		5.3名							
	聖隷訪問看護ステーション					聖隷ケアプランセンター				
	平均 利用者数	月訪問 件数	年訪問 件数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数	年訪問 件数	単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
医療	52人	329件	3,951件	11,275円	119,802 千円	18.1 名	—	—	—	—
介護	111人	562件	6,745件	9,151円			3,546件	19,000 円	69,434千円	11.0名
予防	29人	—件	1048件	9,000円			300件	4,100 円		

# ケアハウス花屋敷

2023年度はコロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、日常生活を元の状況に戻すこと、特に影響が大きく制限があった「楽しみ」や「娯楽」を大切に考え、レクリエーションを充実させることにチャレンジした1年であった。種類豊富な食事の提供にも力を入れたことで、入居者の楽しみにも繋がった。

また、空床が続いていた二人部屋も個室に改修することで、入居率は98%まで上昇した。2024年度は入居率100%の安定した事業運営を目指す。そのためにも、入居者が望まれる生活、身体機能の低下等が発生した場合に望まれることなど、入居者の想いを受け止め、最良の選択ができるように多職種間で連携、支援する形を作り、花屋敷せいの里全体で支えていく。

## 【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。

## 【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります
2. よりよいサービスを提供します
3. 地域社会と共に歩みます

## 【事業・運営計画】

1. 自立した生活が困難となった時、最期まで花屋敷せいの里で過ごせるように、ケアハウス花屋敷での対応を強化、並びに花屋敷栄光園、在宅事業との連携強化を図る
  - (ア) 状態が変わる入居者への対応力の強化を図る
    - ① 聖隷ヘルパーステーション宝塚と連携し、既存のケアシステムの見直しを行う
    - ② 必要とされるニーズを探り、新たなサービス提供につなげる
  - (イ) 認知症、アドバンス・ケア・プランニング、一次救命処置の研修に職員が参加し、職員全員で共有する
    - ① 人形を使っての心肺蘇生、殴打法など、急変時の対応について年1回研修を実施する
    - ② 認知症、アドバンス・ケア・プランニングの伝達講習を職員が実施できる
  - (ウ) 入居者の状態が変化した場合の継続支援会議を定着させ、ケアハウス花屋敷で生活できる支援の幅を広げる
    - ① ケアハウス花屋敷から在宅サービス事業所へ情報発信する仕組みを作る
  - (エ) アドバンス・ケア・プランニングについての必要性を理解し、入居者に関わる
    - ① 入居者自身の考えや思いを定期的に確認するとともに、日常の様子や言動から入居者個々の考え方・希望を把握し、記録する。担当者会議などで家族も含めてご本人の思いを共有できる場を持つなど、具体的に活動する

2. 生活の中での楽しみや心地よく過ごせる環境を、入居者のアイデアや入居者との協働により創っていく

(ア) 施設内の設えに心配りをする

①館内の整理整頓を行い、季節ごとの風物詩を感じられる環境、日々くつろげる場所となるよう配慮する

②入居者の作品展示を含め、ロビーなどを楽しめる空間にする

(イ) レクリエーションの充実をはかり、楽しみの提供とともに入居者間のコミュニケーションを促進する

①演奏会、落語会、講演会等の企画の継続

②敬老会、クリスマス会、新年祝賀会に新たな取り組みを行う

③外出等も含め、新しい発想で行事を企画する

(ウ) 入居者がボランティア活動に参加できる仕組みを作る

①花屋敷栄光園へのボランティア（洗濯たたみやおしゃべりボランティアなど）

②ケアハウス花屋敷の入居者へのボランティア（受診介助やお買い物代行など）

3. 人材確保と定着を図るために職場環境改善をはかる

(ア) 浴室清掃を業者へ委託し、職員の身体的負担を減らし、空いた時間を活用して新たなサービス提供に繋げる

(イ) 顔認証システムの導入による喫食チェックを取り入れる

4. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める

(イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む

#### 【数値指標】

利用者定員	100 人
利用者延べ数	35,770 人
稼働率	98%
単価（一人一日）	4,574 円
サービス活動収益	159,348 千円
職員数(介護:常勤換算)	6.7 人
(相談員:常勤換算)	1.0 人
(管理栄養士:常勤換算)	1.0 人
(宿直員:人数)	4.0 人

# 北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

## 【事業・運営計画】

1. 専門性を強化し利用者のニーズに応じた質の高いサービスを提供する
  - (ア) 対応できる人材を育成し利用者が望む在宅生活を支援する
    - ① 小児病棟、小児訪問看護研修に参加し、医療依存度の高い小児看護の対応力向上を図る
    - ② 心不全療養者の再発重症化予防、精神訪問看護、血液悪性疾患の病態看護理解を深める研修に参加し、適切な全身管理、精神的支援の知識を深めケアの質向上を目指す
  - (イ) 生活の質向上の視点を重視して多職種と連携、情報共有していく
    - ① アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に取り組み、意思決定を支援し暮らしたい場所で生き抜くことを支援する
    - ② 退院時や発症直後の早期介入など、多職種連携を密に行い、要介護状態の改善や悪化予防に取り組む
    - ③ 聖隷ケアプランセンター北神戸、聖隷訪問看護ステーション北神戸の合同研修、合同カンファレンスを実施し、連携支援体制の強化を図る
2. 資源の効率的活用と生産性を向上する
  - (ア) ICTを活用し、在宅医師を含む関係機関と連携し、タイムリーな情報共有を図り適切な対応を行う
  - (イ) やりがいや充実感を感じながら長く働き続けられるように業務改善、スケジュール作成ソフトを活用した効率化を図り、超過勤務を削減し有給消化率を上げる
3. 地域における公益的な取組
  - (ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チーム員として初期対応に取り組む
  - (イ) 神戸市委託事業介護予防講座の講師として地域住民の運動、社会参加に寄与する

## 【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

年間件数		平均単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
医療	介護・予防	医療	介護・予防		
5,954件	5,063件	10,169円	9,000円	105,612千円	15.3人

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
介護	予防	介護	予防		
1,728件	526件	16,728円	3,574円	30,644千円	6.6人

# 介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム

聖隷カーネーションホームデイサービスセンター

聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっこ

聖隷在宅介護支援センター淡路

2024年度の聖隷カーネーションホームは、近年の重要課題である ICT 技術を活用した福祉現場改革を継続し、付加価値の高いサービスを提供できる体制づくりに注力する。医療・介護・障害報酬同時改定に対応し、利用者と職員にとって安全で快適な環境づくりに取り組み、利用者満足・職員満足・経営満足を高めていく。仕事の自動化や見守りシステムなどテクノロジーを効果的に活用していく一方で、理念に基づくケアの提供が実践できる組織作り・人材育成を継続して利用者も職員も「ここに来てよかった」と感じられる施設風土を育んでいきたい。こうした取り組みを通じ、淡路北部における総合福祉拠点としての役割を利用者に「安心と楽しみのある暮らし」を、職員に「働きやすい職場環境とやりがいのある仕事」を提供し、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある福祉施設を目指していく。

## 【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは、～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

## 【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

## 【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
  - (ア) 利用者や家族の意向を踏まえ、安心して楽しみのあるサービスを提供するとともに、障害・高医療・重度認知症など困難ケースの受け入れにも積極的に取り組む。
  - (イ) 利用者の重度化・寝たきり化の防止・QOL 向上のため、ICT 機器の活用促進を含む介護職・看護師・セラピスト・栄養士の職種間連携を強化する。
  - (ウ) 安全・安心・安楽な生活環境を構築するために、見守りシステムを効果的に活用すると

ともに、ミスト浴やリフト等の機器導入を計画的に進めていく。

2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

- (ア) 理念や事業計画と連動した目標管理に取り組み、各職場や職員一人一人の目標達成を支援するとともに、次世代リーダー候補者の発掘・抜擢・育成を行う。
- (イ) 職員の安全確保及び身体的負荷軽減のために、ノーリフトケアの推進と機器更新に向けた検討と継続し、より働きやすい介護環境を整備する。
- (ウ) EPA 介護福祉士候補生や無資格者への資格取得支援や、階層別研修に紐づく OJT 機会を通して、専門性の高い人材の育成と確保を実施する。

3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善

- (ア) 聖隷 DX 及び介護現場の改革を継続するとともに、生産性向上ガイドラインに基づいた業務改善と機器・設備更新を実行し、サービスの質の向上と生産性の向上の両立を図る。
- (イ) 報酬改定に応じた適切な加算管理・稼働率管理と合理的な人員配置を随時行い、より多くの利用者に対して付加価値の高いサービスを提供し、経営の安定化を図る。
- (ウ) 災害・感染症・事故の影響を最小限に抑え安心して生活できるよう、BCP (事業継続計画) に基づく訓練を計画的に実施し、リスク管理体制の強化を継続する。

4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓

- (ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続し、地域における潜在的な福祉ニーズを発掘する。
- (イ) 東浦地区における福祉避難所としての役割を意識し、防災・防犯を含む地域活動・交流を計画的に実施し、近隣地域との繋がりを深めていく。
- (ウ) 淡路地域全体の福祉の向上のため、施設間での相互支援、聖隷淡路病院との医療・福祉間連携、行政機関・他法人施設との連絡・連携を強化する。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54名	18名	25名		12名
利用者延べ人数	19,178名	6423名	6,314名	2,827名	19,178名
一日平均利用者数	52.5名	17.5名	20.5名	9.1名	52.5名
稼働率	97.3%	97.3%	88.2%		76%
稼働日数(延べ)	365日	365日	308日		310日
平均介護度	3.8	3.2	2.2		3.8
単価(1人1日当り)	12,413円	12,292円	10,325円	5,657円	12,413円
サービス活動収益	238,061千円	78,585千円	67,945千円		35,455千円
常勤換算職員数	31.9名	8.9名	12.0名		5.7名
	聖隷在宅介護支援センター淡路				
サービス活動収益					5,005千円
常勤換算職員数					0.8名

# 淡路栄光園

淡路栄光園特別養護老人ホーム      デイサービスセンター淡路

2024年度の淡路栄光園は「利用者ケアの質向上」に重点をおき、利用者が安心して快適に暮らせる生活支援ができる体制づくりに注力したい。これまでの重要課題であった見守り介護ロボットの設置が2023年度に完了し、介護ロボットの見守り機能を活用した「新しい介護」を実践できるよう現場改革を継続していきたい。利用者、家族の意向を踏まえ、近年ニーズが高まっている看取り・高医療・重度認知症などの利用者受け入れにも積極的に取り組み、地域に必要とされるサービスを提供したい。その為にも、専門職としてのスキルアップ、地域とのつながりの再生、介護と医療の積極連携ができる「人づくり」を推進し、ひとりひとりの職員が新しい発想や行動を積極的に発揮できるような職場風土を育てていきたい。利用者の生活に楽しみと彩りが生まれ、職員はやりがいのある仕事ができる福祉施設を目指し、淡路地域全体の未来に向けた成長や創造につなげられるよう本計画の達成に向け邁進していきたい。

## 【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

## 【経営方針】

1. 愛情と思いやりのあるサービスの実践
2. 地域の方々に信頼され、喜ばれ、選ばれるサービスの実践
3. 利用者の尊厳を守り、その人らしく安心して生活できるサービスの実践

## 【事業・運営計画】

1. 介護ロボットを活用した、利用者が安心して快適に暮らせる生活支援の実践
  - (ア) 睡眠状況、呼吸状態を感知できる介護ロボットを活用し、専門職の目視と介護ロボットによる新たな見守り体制を構築する
  - (イ) インカムを活用し常に職員同士が繋がることで、介護職・看護師・相談員の職種間連携を強化する
  - (ウ) 看取り期利用者の心拍、呼吸、体動を介護ロボットで感知し、変化を家族にタイムリーに報告することで最後の時間まで安心して過ごせるよう支援する
  - (エ) 介護ロボット委員会を設置し、「厚生労働省生産性向上ガイドライン」に基づいた業務改善を継続的に行う
2. 利用者、家族の期待に応えられるサービスの提供
  - (ア) 利用者個々の状態に応じた食事・口腔ケアを実践し、誤嚥性肺炎による入院を抑制する
  - (イ) 医療機関と連携し、医療的ケアを必要とされている利用者の受け入れを拡大する
  - (ウ) 加算計画書の送付方法を電子送付及び電子同意へ変更し、利用者家族の利便性を高める
  - (エ) 食事の楽しみを感じられるレクリエーション企画を定期的実施する

### 3. 職員が働きやすく、生き生きと仕事ができる職員体制の構築

- (ア) 職員研修を計画的に実施し、OJT や OFF-JT、視察研修で効果的な人材育成を図る
- (イ) 認知症介護に関する専門研修を修了した職員を増員し、認知症ケアの質向上を図る
- (ウ) 介護負担の軽減につながる「入浴機器」「移動式リフト」の導入案を策定する
- (エ) 老朽化した設備の交換、生活環境の快適性を高められる清掃と修繕を計画、実行する

### 4. 住み慣れた地域での暮らしを支えられる在宅サービスの提供

- (ア) 通所介護と短期入所の連携を強化し、在宅サービスの窓口をワンストップ化させる
- (イ) 「サービス利用していても地域に回帰できる」利用者の地域活動への参画を計画、実行する
- (ウ) 地域行事、サロン等の活動参加を通じ、地域の方々と顔の見える関係性を構築する
- (エ) 「施設入所申込み手続きがインターネットで簡単にできる」HitomeQ コネクトシステムの利便性を広報活動し、インターネットでの入所申込み件数を増やす

### 5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 兵庫県認定地域サポート型施設として、岩屋地域の高齢者見守り活動を実施する
- (イ) 地域ケア会議、民生委員協議会の参加を通じ、地域課題解決に向け関係機関と協働する
- (ウ) デイサービス営業時間内に移動販売を誘致し、買い物困難者の在宅生活を支援する

#### 【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60名	19名	18名	
利用者延べ数	21,352人	6,796人	4,030人	21,352人
一日平均利用者数	58.5人	18.6人	13.0人	58.5人
稼働率	97.5%	98.0%	75.0%	
稼働日数（延べ）	365日	365日	310日	
単価（一人一日当り）	12,024円	11,865円	9,952円	12,024円
サービス活動収益	256,756千円	80,635千円	40,801千円	
常勤換算職員数	44.0人	5.0人	7.8人	

# 聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路

聖隷ヘルパーステーション淡路

聖隷ライフサポート津名

高齢化率が39.1%である当該地域は健康不安を持つ独居世帯や高齢世帯が多く、サービスに繋がった時点で心身機能の低下や重度化が顕著となっているケースが多い。その為、早期に介入し適切なサービス提供を行うことのできる職員と支援チームの育成が最重要課題となっている。2024年度は職場内外教育の更なる充実と共に、働きやすい職場環境の推進を図る事で人材の確保と育成を実現する。又、地域の拠点病院である聖隷淡路病院や関連施設との協働体制を充実させ「安心の聖隷サービス」を拡大させていく。

## 【事業・運営計画】

1. サービスの質が担保できる人材育成
  - (ア) 事業所の理念や経営方針を正しく共有し、組織としての一体感を熟成する
  - (イ) 全てのスタッフが同等のケアが提供できるよう、同行訪問や業務フローの確認を行う
  - (ウ) 利用者や家族の立場に立った丁寧な対応で、トラブルやクレームを防ぐ
  - (エ) 他事業所間での事例検討会やカンファレンス等により、サービスの質を評価する
2. 充実した職場環境
  - (ア) 皆が協力し助け合える職場風土でやりがいのある業務を推進する
  - (イ) 時間外勤務の削減、宅直勤務の負担軽減、有休や長期休暇取得を実現する
  - (ウ) ICTの更なる活用と業務の効率化により、情報共有の推進と業務負担軽減を図る
  - (エ) 職員が定期的な交流できる機会や場づくりを推進する
3. 経営の安定化
  - (ア) 聖隷淡路病院との丁寧な入退院支援の実現やレスパイト入院の充実を図る
  - (イ) 通所介護はリハビリテーションニーズに対応する為、早期に土曜営業を開始する
  - (ウ) 広域での効率的な活動推進を図る為、サテライトを活かした業務分担を推進する
  - (エ) 基本的には「断らない」をモットーに、効果が見えるサービスを実践する
  - (オ) 訪問単価や加算取得等を意識した経営を行う
4. 地域における公益的な取り組み
  - (ア) 地域のボランティア活動等へ積極的に参加する
  - (イ) 地域住民を対象にした「健康相談」等地域交流の場となる活動を行う

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
299件	11,250円	804件	9,100円	60件	8,500円
サービス活動収益		135,307千円	常勤換算職員数		22.7名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
介護	予防	介護	予防			
268件	45件	17,393円	4,700円	5件	58,515千円	9.5名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
899件	4,990円	91件	2,928円	237件	4,267円	9件	4,080円
サービス活動収益		61,467千円		常勤換算職員数		7.6名	

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

利用定員	介護給付		予防給付	
	延べ利用者数	5,901名	延べ利用者数	2,263名
25名	1日平均数	20.9名	1日平均数	8.1名
営業日数	単価（1人1日）	6,983円	単価（1人1日）	5,300円
282日	サービス活動収益	53,208千円	常勤換算職員数	9.8名

# 聖隷こども園夢舞台

2023年度、子ども真ん中社会を実現するために子ども家庭庁が発足し、①ライフステージごとに希望が持てる社会を目指す②すべての子どもに安全・安心な環境を提供する③すべてのこどもの健やかな成長を保障するという取り組みを三つの柱としている。これらのことを理解し質の高い保育に取り組むことを目指す。

岩屋地区の出生児の減少に歯止めが利かない今、東浦地域からも選ばれる園であることが必須となる。地域性や園の強みを職員が理解した上で2024年度は、子どもの姿や園の様子を今まで以上に保護者や地域の方に発信していく。また、教育機関と連携をとりながら「小学生になるまでに育てほしい10の姿」を意識しながらも、夢舞台らしい保育の展開と充実を図る。

## 【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書 22:39)

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる

## 【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活をする
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

## 【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する
  - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた保育計画を立案し、実行する  
また、個々の子どもの興味や関心に寄り添いながら、遊びを通して主体性をひきだし、そこから行事へと繋げていけるように、計画性のある見通しを持った保育実践を行う
  - (イ) 園児の成長発達にあった玩具や環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める
  - (ウ) 近年子どもの発達過程において課題となる子どものボディイメージが育つ活動を意識的に取り入れていく
2. 信頼され、選ばれ続ける園となるため、保護者へ発信することを大切にしていく
  - (ア) 療育手帳を有する児に対して半期に一度、個別支援計画を作成する。専門機関（市の巡回相談・淡路市発達支援センター訪問事業）を利用し、アドバイスをもらい保護者にフィードバックする
  - (イ) 園行事の様子や子どもたちの日常をドキュメンテーションや映像で保護者に発信していく
  - (エ) 重大な災害や事故にならないようにリスクマネジメントを徹底する

### 3. 地域における公益的な取組を継続実施する

#### (ア) 人材の確保と育成

- ①中学生・高校生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する
- ②大学生・専門学生の受け入れを積極的に行い、雇用へ結び付けられるようにしていく

#### (イ) 地域や他機関との連携

- ①小学校教諭の方々の保育参加、小学校とのカリキュラムの策定など3校との連携を図る  
また、個々の子どもの引継ぎを詳細に行い就学へと繋げていく
- ②就学後もケース会議や参観日などを通して継続的にこどもたちの成長を見守る
- ③地域の子育て家庭の支援のひとつとして、必要な時に病後児保育事業が利用できるように、地域に向けて利用方法等の案内をしていく
- ④相談・園見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職として積極的に関わることで支援に努める
- ⑤法人内の介護福祉施設や病院と連携をとり、利用者と園児との交流を図る
- ⑥給食試食会・ベビーヨガなど子育てイベントの充実を図り、毎週の園庭開放により子育てで孤立する母の交流スペースを確保する

### 4. 健康経営

- (ア) 精神衛生を守り、業務の生産性を高めるため、連続5日以上 of 休暇を推奨する（土・日を含む）
- (イ) 職員の負担軽減ができるようにクラスの編成や、書類の簡素化など時間配分を検討し、働きやすい環境を構築する
- (ウ) 保健師・産業医面談等を活用し、職員の健康管理に留意する
- (エ) 市の巡回相談や各種団体等（児童発達支援センターひだまり）と情報共有を図り、地域の安心・信頼できる居場所となれるように相談等にも応えていく
- (オ) 行政機関との円滑な調整、情報開示を徹底する

#### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	5名	5名	15名	21名	22名	22名	90名
利用定員(1号)	—	—	—	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	5名	5名	15名	26名	27名	27名	105名
一日平均入所者数	5名	5名	15名	21名	22名	22名	90名
年間入所延人数	83名	221名	163名	224名	372名	250名	1313名
入所率	138.3%	368.3%	90.5%	71.8%	114.8%	77.2%	104.2%
開所日数(延べ)	296日(教育週数 49週)						
サービス活動収益	149,579千円						
常勤換算職員数	24.8名						

#### 【実施事業】

延長保育 障がい児保育 一時預かり保育 病後児保育

# 野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ (放課後児童クラブ)

常に感謝を意識しつつ自身の役割を考えチーム保育であることを心掛けている。子どもたちの主体的な気持ちを大切にしたり引き出したりできるよう保育を見直し、安心でき自己発揮できる存在となるような保育者を意識していく。その上で、さらなる保育の質向上のため園内外の研修を積極的に受け、弱点に気づき強みを伸ばしていけるよう互いに確認し合い保育の振り返りを実施する。また、ICTシステムを活用し職員の働く環境をより良くしていきたいと思う。

子どもたちや保護者、一緒に働く職員間で相手の思いを受容する大切さを意識しつつ、互いがそれぞれを尊重し、高め合えるための存在となるよう考えていく。

## 【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 ―エフェソ 5-2―

## 【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりをもち、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

## 【事業・運営計画】

### 1. 保育の質の向上への取り組み

- (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を大切にひとりひとりの声や思いを保育実践に繋げていく。子どもや保護者の些細な違和感から早期アプローチを心がける。園の理念や思いを保護者に伝えていくことを意識していく
- (イ) 異年齢児や小学生などとの交流を通して、子どもの視野や社会性を広げる。また、自ら活動する中で、SDGsを意識して取り入れられるよう環境を整えていく
- (ウ) 子どもたちの姿や育ちについて保護者に伝える場として行事や懇談会の実施方法を検討し有意義な時間を共有できるよう工夫する。子どもの個々の特性を職員間で共有し対応を考えていく。必要に応じて保護者へ園の様子や対応を伝えていく
- (エ) 野菜を栽培し生長にかかわることで収穫することを喜び、日々の食に興味を持ったり料理に対して感謝したりする気持ちが育つよう年齢に応じた保育を展開する
- (オ) 2つの放課後児童クラブ同士や小学校との情報交換や共有を深めていく。子ども達の安心できる生活の場となるよう意識を持ちつつ、保護者と共に考える姿勢を大事にし、子どもの育ちを支えていく
- (カ) 保育園と児童館、放課後児童クラブが連携をとり、地域で子育てしている家庭へ協力してできることを検討する
- (キ) 会議の在り方を検討し、個々の思いや考えを積極的に伝え合えるような内容を取り入れていく。また正職員やパート職員とのコミュニケーションの取り方も検討する

## 2. 施設の防災力の強化

- (ア) 職員全体が防災意識を高めて取り組むことができるよう、防災委員会と共に、避難訓練の方法を検討していく
- (イ) 引き渡し訓練を実施し、保護者への防災意識を高め、また取り組みを共有する
- (ウ) 危機管理委員会でのケガ報告やヒヤリハットの検証や外部で起きた事例をもとに園内での危険な場所等の見直しを行う

## 3 地区施設との連携

- (ア) 無理のない形での同法人との交流を持つ（聖隷逆瀬川デイサービスセンター・結いデイサービスセンター）
- (イ) 隣接している高齢者施設（アリア宝塚）と様々な形で交流を持ち、地域との関わりを大切にす

## 4 「人づくり」への取り組み

### (ア) 研修への参加など

- ①教育アドバイザーからポイントを教わりつつ、実践を伴った研修への積極的な参加
- ②聖隷保育学会・階層別研修・あゆみ合同研修・キャリアアップ研修に参加
- ③逆瀬川あゆみ保育園の4歳児受け入れに向けての交流・引継ぎを実施
- ④園内研修で興味のある事に取り組み自主性や積極性を養い保育の質の向上を目指す
- ⑤保育職ラダーや目標参画、自己評価の活用により目的意識の明確化を図る

### (イ) 次世代育成

- ①トライアルウィークや宝塚西高校の授業、大学生ボランティアの受け入れを実施する  
実習生や学生アルバイトを積極的に受け入れ採用へつなげる

## 5 地域における公益的な取り組み

- (ア) 安全な環境のもと、かけっこ教室や積み木遊び、足育講座、伝承音楽遊びを計画する
- (イ) 地域のニーズを探り、子育て支援プログラムの充実化を図る
- (ウ) 子育て支援担当者による相談事業の充実

### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	10名	12名	14名	22名	23名	90名
一日平均入所者数	9名	14名	15名	15名	29名	27名	109名
年間入所延人数	108名	168名	180名	180名	348名	324名	1,308名
入所率	100%	140%	125%	107.1%	131.8%	117.4%	121.1%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	170,046千円						
常勤換算職員数	26.0名						

### 【提供事業】

一時保育事業 延長保育事業 障がい児保育 子育て支援事業 放課後健全育成事業

# 野上児童館

次世代を担う子どもたちの健全育成を常に意識しながら、児童館としてできるサポートの在り方を新しい職員体制での職員会議や運営委員会等で考えていく年度としたい。児童館としての役割を常に考えつつも、コミュニケーションを取りながら職員一人一人の思いを大切に、子育て支援の形を考えていける職員集団でありたいと思う。

配慮を必要とする家庭への支援については早期対応を心がけ、また専門機関とスムーズな連携を取り、共有や対応に努めていきたい。

**【施設理念】** 地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す

**【経営方針】**

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや子育てに不安を抱える保護者にとって、心やすらぐ児童館として地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進める

**【事業・運営計画】**

1. サービスの質の向上
  - (ア) 感染への不安を受け止めつつ乳幼児や小学生等への様々な活動を企画する
  - (イ) 食育の取り組み方を検討しながら年齢に応じた内容を提供していく
  - (ウ) 「ホールで遊ぼう」のプログラム内容を検討し、実施の方法を考える
  - (エ) 玩具やゲーム等、安心安全で遊べる環境作りを目指す
  - (オ) 放課後子ども教室等、地域の方の活動に協力できるよう体制を整えていく
  - (カ) 児童館と保育園や学童保育が協力して行うことができることを検討する
  - (キ) 中高生の居場所作りとして行っている開館延長の周知方法を考え、参加を促していく
2. 地域との連帯の強化
  - (ア) 小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などとの関わりを深め、情報の共有を行い子育て力の向上を目指す
  - (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し地域の協力を得ながらニーズに見合った実施を進め定着させる
  - (ウ) 学校や地域とのつながりを意識し、行事等に児童館ができることを検討する
  - (エ) 来館者の悩みや思いに寄り添いつつ、利用者の必要な支援方法を模索する
3. 職員の資質向上
  - (ア) 宝塚市児童館交流研修等へ積極的に参加をする
  - (イ) 子育て支援研修などより専門性を高めるための研修へ参加する

# 逆瀬川あゆみ保育園

保育の質の安定は、子どもの気持ちへの寄り添いや柔軟なかかわり方も関係してくる。毎日の安心した園生活の中で、目の前の子どもとのやりとりがいかに大切なのかということを職員間で意識し育ちあう園でありたい。

また、子育て支援や一時保育事業を通して、保護者の養育力の低さや、子どもへの対応が難しいケースなども増えてきているため、現場の私達が、幅広い視野を持ち、助言の仕方や保護者の思いをどこまで受け入れていくのか等、精査しながら対応する必要性を感じる。こうしたケースを役職者だけで考えていくのではなく、職員も巻き込みながら一緒に考え、いろいろな価値観があることを感じとれるような会議内容を検討していきたい。

【施設理念】 キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

## 【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育

## 【事業・運営計画】

### 1. 保育の質の向上

(ア) 保育の基本方針について職員理解の統一を図る

- ① 保育理念、施設目標を念頭に「目の前の子どもにとって」という意識を常に持ち保育を行う
- ② 適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、穏やかな関わりなどを保育者が実践し、主体的に行動する。また、不適切なかかわりについて、考える機会を作っていく
- ③ 子どもの興味・関心があることに目を向け、時期を逃さず環境を整える

(イ) 保育者として基本に立ち返る

- ① 子どもひとり一人の違いをよく観て知ろうとし、受け止め、適切な関わりと援助を行う
- ② キリスト教保育指針を学び、聖隷の保育士として日々を大切に過ごす
- ③ 0歳児から、保育士の歌声でのリズム運動や研修で学んだわらべうたを保育に取り入れ、保育士の引き出しを増やすと共に子どもの体幹を育てることを意識する

(ウ) 保育者研修の充実・人材育成

- ① 研修やあゆみ合同研修、年度末研修、保育学会を通して、専門生を高める
- ② 職員自ら興味を持った外部研修（リモート研修）を積極的に受講する
- ③ 保育の中での疑問や気づきを掘り下げて研究し、学会などで発表する
- ④ キリスト教保育冊子を使った毎月の学びや、グループディスカッションを多く取り入れ、コミュニケーションをとりながら学びを深める

## 2. 保護者との交流

(ア) 保育参観や保育参加・懇談会・個別面談・コドモンによるおたより・連絡ノート・ドキュメンテーションを通して活動の様子を知らせる

(イ) コドモンに頼りすぎず出来るだけ保護者との対面コミュニケーションを大切にする

## 3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携

(ア) 合同研修や学会を通して情報交換をしていく。また、研修委員は、「自分達で学会を作っていく」という意識を持ち、委員会活動を進めていく

(イ) 野上あゆみ保育園の3歳児との交流や園庭活動を日常の活動の中に取り入れ、3歳児の不安を軽減できるようにする

## 4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 育児孤立を防ぐため、担当職員が、保護者との信頼関係の構築を目指し、安心できる場所、人となれるよう丁寧にかかわっていく。園庭開放、室内開放（栄養士相談・看護師相談・足育など）を通して保護者同士の繋がりを育てる。発達への気づきを促し社会資源の利用も促していく

(イ) トライやるウィーク（職業経験）の中学生や高校生ボランティア、保育実習生などの受け入れを積極的に行っていく

(ウ) 一時保育のニーズに応え、子育てに難しさを抱える保護者の支援も行っていく

(エ) 3歳児クラスの子どもと共に、近隣の公園のごみ拾いなどを経験してみる

## 5. 食育

(ア) 活動の中で簡単なクッキングを日常的に行い、香りや音など、五感で楽しめる機会を増やす

(イ) 給食を通じて旬の食材の名前や味、食べることの楽しさを子ども達に伝えていく。

## 6. 防災・防犯訓練

(ア) 毎月の防災訓練内容を職員が検討し実践していく。災害時を想定し、野上あゆみ保育園に避難する訓練を合同で実施する。不審者対応訓練のDVDを活用していく

### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	11名	12名	13名	45名
一日平均入所者数	8.3名	13名	13名	14名	48.3名
年間入所延人数	100名	156名	156名	168名	580名
入所率	92.6%	118.2%	108.3%	107.7%	107.4%
開所日数（延べ）	293日				
サービス活動収益	148,058千円				
常勤換算職員数	22.6名				

# 御殿山あゆみ保育園

近年、保育園に求められるものは日々変化している。子どもひとり一人の個別のニーズに対応することが重要視されるようになり、それぞれの子どもに合わせた保育が必要とされるようになった。また、子ども自らが考え、探求する力を育むことが求められている。更に遊びを通したアクティブな体験も大切である。安全衛生面では、災害対策、感染症対策において、保育園での環境作りと迅速な対応が必要となる。その他にも様々な文化に対する理解や、ICTシステムの活用、保護者とのコミュニケーション、保育士不足問題について柔軟かつ継続的な取り組みを行う。地域の少子化に伴い、選ばれる保育園になるためには保育の質の向上が必須である。保育士が主体的に保育を行い、やりがいを持って働ける職場づくりをめざし、職員間のつながりを深めていく。

## 【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5:2

## 【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人ひとりが大切な存在であることを知る
2. 一人一人の違いに気付き、お互いに認め合いながら共に過ごす
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる

## 【事業・運営計画】

1. 聖隷の理念や施設理念、保育の基本方針の確認
  - (ア) 施設理念をもとに保育目標の確認をしながら、「一人ひとりを大切に作る保育」を具体的に実践する
  - (イ) 研修や会議を通してお互いの保育観を発信、共有して保育方針に沿って実践できる手立てや保育環境を共に考える
2. 子どもたちが安心して園生活を送れるよう、言葉を手渡すことを意識しながら、一人ひとりの成長発達に応じた丁寧な関わりを心がける
  - (ア) 乳児期の特定の大人との愛着関係を基盤に、ありのままを受け止め認められる事を繰り返しながら、自己肯定感、他者に対する基本的な信頼感を育てる。幼児期はそこを土台に、子どもの「やってみたい」を大切にしながら、社会性、学びに向かう力等を培う
  - (イ) 異年齢で過ごす時間を自然に持てるよう考え、年齢の枠を超えた関わりを大切にする
  - (ウ) 父親同士が交流する機会を定期的にかけて横のつながりを作り、父親の育児参加をサポートする
  - (エ) 発達に課題等を抱え、個別の対応が必要な子どもたちの理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う。また、研修会にも参加しスキルを高める
3. 食育の推進
  - (ア) 保育士、栄養士、調理師との連携による年間食育計画を作成し実施する
  - (イ) 保護者、子どもに向けて食に関する様々な情報の発信や相互の関わりを持つ

- (ウ) 種や苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む
4. 児童館と連携し、包括的な地域子育て支援について一層の充実をめざす
- (ア) 児童館と連携しながら保育室解放・園庭開放などを実施する。子育て中の保護者の様々な思いにも寄り添い地域における子育て支援のニーズを知り、応えていく
- (イ) 子育て講演会、給食（離乳食・乳幼児食）の試食会、子育て相談を実施する中で地域の社会資源となり、保護者の不安や悩みを知り受け止める
- (ウ) 保育士が専門性と自分の強みを活かした独自の子育て支援プログラムを計画し実施する
5. 職員研修の充実と人材育成
- (ア) 専門性を高めるため、各自の保育の課題に沿った外部研修に、主体的に参加する
- (イ) 行事・保育などで「子どもにとって大切なことは何か」を立ち止まって考える
- (ウ) 保育の中での学びや実践を発表し、学びの場として宝塚・浜松地区保育学会に参加する
- (エ) 保育職ラダーの活用、自己評価の実施により、各自の役割を考えて理解し、責任をもって仕事に従事することのできる人材を育成していく
- (オ) ICTシステムの配信内容を更に充実させて保育を可視化し、保護者理解を深める
- (カ) 職員のノンコンタクトタイムを確保し、事務作業を円滑に進められるようにする
6. 逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との3園の連。
- (ア) 3ヶ園で相互の交流をはかり、共に保育の質の向上に取り組む。合同研修会の実施
7. 防災対策の強化・充実（地域と共に）
- (ア) 防災委員会で様々な観点から課題を出し、職員と共に考えながら防災対策に取り組む
- (イ) 地域との連携を視野に入れ、小学校等で実施する地域防災訓練にも参加する
8. 地域における公益的な取り組み
- (ア) 近隣の幼稚園や保育所、卒園児、小学校との交流
- (イ) 学生ボランティアや実習生の受け入れ
9. 感染症対策
- (ア) 園内の消毒と換気を定期的に行い、感染予防に努める。保護者と連絡を密に取り、感染者が出た場合は迅速かつ適切な対応ができるよう準備しておく

#### 【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	21名	22名	22名	23名	23名	120名
一日平均入所者数	8.5名	25.0名	24.8名	21.7名	25.0名	23.0名	128名
年間入所延人数	102名	300名	298名	260名	300名	276名	1,536名
入所率	94.4%	119%	112.7%	92.1%	108.6%	100.0%	106.6%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	198,745千円						
常勤換算職員数	31.0名						

#### 【実施事業】

一時保育事業 産休明け保育 延長保育促進事業 地域活動事業 特別支援事業 その他

# 御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であるために2024年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談・援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生児童や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、地域の実情と時代の風潮に合わせた事業展開を、併設の保育園と連携をとりながら図っていく。また、虐待などの情報の収集、社会資源へ繋げるなど積極的に行いたい。

**【施設理念】** 地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す

**【経営方針】**

1. 子どもや子育てに関わる大人からの声を大切にニーズに応えられるような環境づくりや、活動に遊び心を持って取り組む
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う

**【事業・運営計画】**

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
  - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を整え、提供する
  - (イ) 利用児童の背景を把握することで必要な支援を的確に行う
2. 乳幼児親子支援
  - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援する
  - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する
3. 小学生集団あそび及び支援
  - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する
4. 中高生居場所づくり
  - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する
5. 出前児童館
  - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作り、プログラムなどを提供し支援する
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携・社会資源の活用
  - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、的確な社会資源の活用、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る
7. 児童館運営委員会の実施
  - (ア) 適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求め運営に活かす
8. 職員の資質向上
  - (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う
  - (イ) コーディネーター機能の強化のため、職場内研修を行う
  - (ウ) 子育て支援に必要な内部研修を行う。(発達、保育、障がい等)
9. 感染症対策
  - (ア) 利用者名簿を作成、館内の環境整備や消毒を行い、感染拡大防止の対策を講ずる

## 在宅・福祉奄美ブロック

2023年7月より在宅・福祉サービス事業部が再編され、奄美地区は4施設で構成される1エリア、1ブロックの組織となった。再編された4ブロックの中では最も事業規模が小さいが、高齢者、障がい者、児童福祉分野を万遍なく行っており、静岡ブロックに次ぐ多面的な事業を行っている。これは現在の職員はもちろんのこと、長年に渡る諸先輩達の困難を抱える方お一人おひとりへの弛まぬ支援による結果であり、この組織再編はこの奄美ブロックの長所を機動的に発揮できる体制の強化だと考え、事業遂行にあたる。

2024年度は近年発生している外的環境（新型コロナ、物価高騰、採用困難）の急速な変化、医療・介護・障害福祉サービスのトリプル報酬改定等への速やかな対応は必要だが、現在生じている、過去にない人材確保の困難さ、奄美佳南園、春日保育園の世代交代の着実な実施、経験者に頼らないサービスの質の維持、向上ができる体制の構築、奄美ブロック本部機能の強化をこの機会に整理したい。

労働環境においては職員数だけでなく、建築年数が経った大規模修繕を必要とする施設もあるため、修繕計画作成に合わせ、休憩室の確保等職員の労働環境の改善をすすめる。

人は跳ぶ時に一度、かがんで、エネルギーを溜めて高く跳ぶ。奄美の歴史に置き換えると春日保育園、奄美佳南園ができた1970年代前半、春日保育園の障がい児の受入れからスタートしたのぞみ園（1996年）、のぞみでの実績を認められスタートした聖隷かがやき（2016年）と何度かジャンプしている。2024年度は再びこの地域の福祉サービスを充実する為にかがんでエネルギーを蓄え、次の大きなジャンプを行える体制を整える年度としたい。

### 【ブロック理念】

地域への感謝と貢献 私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

### 【中期事業計画における奄美ブロック目標】

私たちの仕事は自動化される

Society5.0時代※を見据えて全てが繋がり、共有され、新たな価値が生まれる。

### 【2024年度ブロック目標】

先人の事業精神を継承しつつ、今後もサービスを維持、向上できるよう運営方法を整理する。

### 【2024年度重点目標】

1. ICT機器、ロボットを利用し、業務を切り出し、業務の負担を減らしたうえ、働きがいを醸成し、サービスの向上につなげる
2. サービスの質を高めることを目的に専門資格職や常勤職員の採用、育成の体制を強化する
3. 各事業について現状にあわせた、規模、提供事業、場所の検討を行い、収益率の向上に努め財務体質の強化を図る。
4. 事務部門、専門職種に効果的に活躍する為、業務の一体管理を推進する。

---

※サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと。内閣府の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

(事業における主な取り組み)

**【奄美佳南園】**

- ① ICT 機器を利用し業務の負担感を減らすのと共に、職員全員が業務改善に参画できるようにする。
- ② 報酬改定に伴い、新たな加算の取得に努める。また、サービスの質の向上の為、看取り加算等、従来の加算算定の取得にも努める。
- ③ 奄美佳南園デイサービスと春日デイサービスの運営の統合を実施する
- ④ 訪問入浴事業、居宅介護支援事業、訪問介護事業の事業の継続の可否、移転について年度内に検討、決定する。
- ⑤ 聖隷チャレンジ工房の現在のサービス種別（就労移行支援。就労継続支援 B 型）について利用状況を踏まえ、工賃額か就職率か強化事項を明確にして事業形態を見直す。

**【春日保育園】**

- ① 競合に対する強み、弱みを整理して計画的に着実に園児の受入れを実施する。
- ② 障害児を園に受入れだけでなく、並行通園や、家族支援、専門職による専門的な支援を強化しのぞみ園との運営の連携を強化する。
- ③ プリセプター制度の強化など新任職員、中堅職員の支援を強化し、保育力の向上と離職率の防止に努める
- ④ 5 年先の人口減を見据え、自園の特徴や「売り」を明確にするのと共に、0 歳児の対象者は確実に減少していく為、才児別定員数の変更について行政機関も交え検討し、老朽化した園の修繕計画の条件を整理する。

**【のぞみ園】**

- ① 児童福祉の中核施設として更なる、他機関との連携を深める
- ② 聖隷こども家庭総合支援センターと連携して、サービス利用に至れていない利用者やその家族支援を広げる
- ③ 臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職の採用を進め、他職種連携を通じ、サービスの質の向上を目指す
- ④ 放課後等デイサービス（定員 10 名）の新たな拠点の計画の年度内に策定する。

**【聖隷かがやき】**

- ①～③ のぞみ園と同様
- ④ 人材獲得に努め、稼働率を向上させ、地域のニーズに応える

**【共通】**

- ① 職員の超勤、有給取得、再検査受診について奄美ブロック会議で共有、改善に努める
- ② ブロック全体で未収金管理方法を確立する。
- ③ 事務集約拠点の奄美佳南園の機能の見直しと人事給与システムの見直しを通じ、事務ローテーションについて検討し、本部機能の強化を図る。
- ④ 管理栄養士を含む食事サービス部門の一体的な運営を検討し、児童福祉施設の発注献立業務の統一や、奄美佳南園での完調品の導入を検討する。

# 奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園

デイサービスセンター 在宅介護支援センター ホームヘルプ事業所

訪問入浴事業所 春日デイサービスセンター

聖隷チャレンジ工房カナン

2023年度ポストコロナ時代へと向け生活様式が変化したが、島内における感染症が流行する中、全職員が協力して地域の高齢者や障害者へのサービス提供の継続、地域共生社会の実現に向け事業継続ができたことは、職員の努力の賜物である。

また、人材確保が厳しい状況の中、記録方法電子化の推進による業務の効率化等の介護職員の負担軽減等や、安全で快適な支援へ向けたケアの統一に向けた定期的な勉強会の開催等において、サービスの質の向上に努めた。

2024年度は、導入したICT介護機器等の活用を推進し、さらなる業務の効率化やサービスの改革を通じて職員のやりがいの向上に努めるとともに、介護・障害福祉サービスの報酬改定への速やかな対応、奄美佳南園が開園50周年と節目の年を迎え、これまでの地域への感謝と、先人達の弛まぬ努力への敬意を振り返り、既存する福祉事業の強化を図り地域にとって欠かすことのできない福祉拠点としての更なる価値を高めていく。

## 【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～私たちを必要として下さる方々を支え、このことを通じて私たち自身も共に幸せになれる奄美佳南園になる～

## 【経営方針】

1. 利用者満足向上のために、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能を高める
2. 職員満足向上のために、福祉人材の育成と働き甲斐のある施設づくりを迫及する
3. 健全経営推進のために、既存事業の質・生産性の向上、需要の発掘・事業化に取り組む
4. 地域社会貢献のために、公益的な事業活動に積極的に尽力する

## 【事業・運営計画】

### 1. 利用者満足向上のための取組

(ア) 奄美佳南園デイサービスと春日デイサービスの統合を実施により、サービスの維持・継続に努める

(イ) 利用者の尊厳を大切に、職員の知識・技術向上のために研修等を活用し、サービスの質の向上へと取り組む

(ウ) 利用者の安全な生活環境を高めるために、ICT機器・介護機器を活用し、事故予防や身体機能維持、嚥下調整食の提供や口腔機能の管理、誤嚥性肺炎等による入院予防、最後

までその人らしく生活できるよう看取りケアの促進に取り組む  
(エ)利用者の個性・ニーズに合わせた個別支援計画を作成し、利用者の生きがいに沿った支援に取り組む

## 2. 職員満足向上のための取組

- (ア)生産性向上委員会に若年職員も参画し、導入した ICT 介護機器のさらなる活用、業務の負担軽減や業務の効率化等により、職員の介護技術の統一化や自立に向けた育成に取り組む
- (イ)職員の資質と意欲の向上を図るために、専門職ラダーの運用及び OJT を推進する
- (ウ)プリセプター制度の強化など新任職員、中堅職員の支援を強化し、福祉サービスの質の向上と離職率の防止に努める

## 3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築

- (ア)多職種による入所待機者の早期入所へ向けた体制づくり、入院者へのフォローによる長期入院の削減（平均入院期間 14 日以内）へ取り組む
- (イ)利用者の健康・生活機能維持に向けた加算取得（看取り、褥瘡ケア）に向け、進捗管理を徹底するとともに、医療的ケアの対応強化に取り組み加算取得を目指す
- (ウ)利用者が在宅生活を維持することができるよう、身体介護を中心とした訪問系サービス（身体介護中心のサービス 70%以上）を提供する
- (エ)就労移行支援利用から就職者年間 2 名以上を目標とし、計画的な就職活動や実習先受入れを強化し、翌年度の加算取得に取り組む
- (オ)就労継続支援利用者の工賃向上を目標とし、法人外の新規訓練業務へ取り組む
- (カ)在宅介護サービス事業の継続の可否に向けた検討の実施、年度内に取り組みを実施する
- (キ)奄美ブロックにおいて災害発生時等に食事提供が継続可能となるよう一体的な運営方法を検討する
- (ク)職員一人ひとりの健康を推進するために、職員休憩室の機能を高める
- (ケ)在宅・福祉奄美ブロックの人事・給与システム等の見直しと、機能の強化を図ることを目的とした事務機能の継続可能な体制づくりを検討するとともに、ブロック全体の未収金管理方法を確立する

## 4. 地域における公益的な取組

- (ア)福祉拠点施設の経験や機能を活かし、福祉の出前講座や介護者教室・福祉フォーラム等を開催する
- (イ)地域の社会福祉法人と連携し、地域における災害時支援・感染症対策支援・生活困窮等への支援に関する課題の解決に向け実践する
- (ウ)生活困窮・社会と交流ができない青年期・高齢等自信を無くした方々へのアプローチや職場体験を実施し、就労意欲の向上・自信回復等に向けた機会を提供する

【数値指標】

	特養入所		短期入所		生活困窮 一時生活支援	
	従来型	ユニット型	従来型	障害		
利用者定員	50名	30名	10名			
利用者延べ人数	17,703名	10,622名	3,132名	80名	18名	
一日平均利用者数	48.5名	29.1名	8.58名	0.22名	0.05名	
稼働率	97.0%	97.0%	85.8%	0.22%		
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日	365日	
単価 (一人一日当り)	12,500円	15,200円	11,700円	12,000円	6,000円	
サービス活動収益	221,281千円	161,454千円	36,644千円	960千円	108千円	
常勤換算職員数	32.6名	29.1名	4.9名			
	奄美佳南園デイサービス			就労支援		
	地域密着	介護予防	生活介護	移行支援	継続B	
利用者定員	30名			6名	14名	
利用者延べ人数	5,109名	2,122名	236名	1,415名	4,071名	
一日平均利用者数	19.5名	8.1名	1.0名	5.4名	15.54名	
稼働率	65.0%	27.0%	7.4%	90.0%	111.0%	
稼働日数(延べ)	264日	264日	264日	264日	264日	
単価 (一人一日当り)	11,255円	6,697円	8,128円	6,530円	6,530円	
サービス活動収益	57,502千円	14,211千円	1,918千円	9,240千円	26,584千円	
常勤換算職員数	8.5名			7.0名		
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		居宅介護支援	
	介護	障害	介護	障害	介護	予防
利用者延べ人数	903名	183名	5,445名	728名	780名	120名
一日平均利用者数	1.8名	0.7名	15.0名	2.0名		
稼働日数(延べ)	264日	264日	365日	365日	264日	264日
単価 (一人一日当り)	16,356円	12,602円	4,670円	4,340円	13,660円	4,188円
サービス活動収益	14,769千円	2,306千円	25,458千円	3,160千円	10,655千円	503千円
常勤換算職員数	2.6名		5.5名		2.0名	
	年間利用数	稼働日数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数	
在宅介護支援センター	1,200名	264日		4,800千円	1.0名	

# 春日保育園

子育て家庭をとりまく社会情勢が大きく変化している中、保護者が求める保育ニーズも多様化している。2024年度は、園としての役割を再確認すると共に園の魅力を様々な方法で保護者や地域へ積極的に発信していく。そして、子どもの人権・育ちを保障し、子どもに関わる保護者への支援にも力を入れる。そのためにも職員一人ひとりが心にゆとりを持ち働くことが出来るよう、個々のワーク・ライフバランスを意識しながら、働きやすい職場環境改善に取り組む。また、子ども理解を深め、発達に則した保育を展開するため、園内外研修を通して共に学びあい自己研鑽に努める。子どもの安心・安全が何より優先される保育現場であるため、設備点検、確認、補修園庭整備を進め、職員と共に危機管理の意識を高めていく。充実した運営が図られるよう園児受け入れを計画的に進め、子どもたちを真ん中に保護者も職員もすべての人が輝ける保育園を目指す。

## 【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

～子どもたちの心身の成長を私たちが幸せと受けとめ共に育つ春日保育園でありたい～

## 【経営方針】

1. 保育の質と専門性の向上
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
3. 地域交流と地域貢献を積極的に行う

## 【事業・運営計画】

### 1. 保育の質向上への取り組み

- (ア) 施設理念、保育目標を理解し、「一人ひとりを大切にする丁寧な保育」を実践する
- (イ) 年間研修計画に沿ってキャリアアップ研修（2科目）や外部研修の参加を支援し、リーダー育成や保育実践に結びつけ個々のスキルアップを目指す
- (ウ) 保育環境を子どもの成長発達と併せて考え、保育の振り返りや改善に努める
- (エ) 保育参観や行事参加・個人面談等、園での様子や子育て情報を保護者へ発信し相互理解を深めると共に保護者に寄り添った支援に力を入れる
- (オ) プリセプター制度を活用し、新入職員・中堅職員の支援に力を入れ、人材育成や離職防止に繋げる

### 2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- (ア) 子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえ、個別支援計画を作成し、個々に合わせた支援を実践する
- (イ) 園独自の親子教室の開催を継続的に行い、親子の支援をすると共に保護者同士のコミュニケーションの機会を作り、輪を広げていく

- (ウ) 待機児解消に向け、行政と連携を図りながら計画的な受け入れを実施する  
先を見据えた定員利用数、歳児別受け入れ人数の見直しを検討する
- (エ) 春日保育園・のぞみ園・聖隷かがやきと子ども部門での職員交流を図り、互いに学びの場を企画・運営する。また、併行通園児の支援について担当者会を通して情報共有し連携を強化する
- (オ) 奄美市保健師と乳幼児健診等の情報を共有し、早期支援につなげる
- (カ) 小学校接続に向け、保護者や教育委員会等と連携を図り情報共有・提供を行う

### 3. 働きやすい職場環境の整備

- (ア) 互いを知る機会や保育について活発な意見交換ができるような体制を作る
- (イ) 記録業務等の見直しや業務内での事務作業を工夫するなど、働きやすい環境を整備し心身の健康維持に努める
- (ウ) ICTの見直しを検討し、業務省力化、休憩時間の確保に職員全員が意識し取り組む

### 4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の高齢者や子育て家庭の憩いの場となるよう園庭開放を実施し交流を図る
- (イ) 中学・高校生の職場体験やボランティア、施設見学を積極的に受け入れ次世代育成に貢献する
- (ウ) 一年を通して、地域の方々と一緒に菜園作りを楽しめる機会を作る

#### 【数値指標】

定員 120 名	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合 計
入所数 4/1 現在	5 名	20 名	22 名	22 名	22 名	13 名	104 名
一日平均入所者数	8 名	22 名	23 名	22 名	22 名	13 名	108 名
年間入所延人数	90 名	260 名	272 名	264 名	264 名	156 名	1306 名
入 所 率	62.5%	90.3%	95.8%	110%	110%	65.0%	90.7%
開所日数（延べ）	292 日						
サービス活動収益	132,469 千円						
常勤換算職員数	27.2 名						

#### 【提供事業】

延長保育事業            一時預かり事業

# のぞみ園

児童発達支援センター 保育所等訪問支援 放課後等デイサービス 相談支援

2024年度は、障がい福祉サービスの報酬改定が行われ、奄美市においては、第7期障害者計画・障害福祉計画と第3期障害児福祉計画（チャレンジプラン奄美）の策定年度である。その中において、報酬改定への対応と地域課題解決に向けた更なる機能強化はもちろんのこと、昨今の社会情勢を背景とした物価高騰や感染症、人材確保の困難さへの対応などを着実に実施していく。そして、聖隷を選び働いてくれている職員が、やりがいをもって一人ひとりの力が発揮できるように奄美ブロック各施設と協力しながらエンパワメント（力をつけ、自信を持ち、その力を発揮できる）を高める事業運営を行っていく。そのために、次世代リーダーの育成、外部専門職や関係機関との連携強化、育ってきた人材が現場でスピーディーに判断できる権限委譲を行うことでチームビルディングに取り組み、生産性と職員の満足感の両方を高め、地域から信頼され地域に貢献できる施設運営を行っていききたい。

## 【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や発達につまずきのある子どもの発達に沿った発達支援～

## 【経営方針】

1. 児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業所としての機能の充実と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み
3. 地域交流と地域貢献（公益的な事業活動への取り組み）

## 【事業・運営計画】

1. 児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業所としての機能の充実と経営の安定化
  - (ア) 子どもへの発達支援
    - ① 専門職と連携し子どもの発達段階や困り感を正確に把握し、個別や集団支援を通して子どもの成長、発達をサポートする
    - ② 年齢・発達状況を踏まえながら、本人の意思決定支援と将来の自立に向けた支援、地域移行支援を実践する
    - ③ オンラインを積極的に活用し、通園児の支援に関わる様々な関係機関との連携を深め、地域支援のバックアップと地域のインクルージョン推進に取り組む
  - (イ) 保護者への支援
    - ④ 親子登園・個別面談・保護者勉強会等を通して、子どもの特性やそれを踏まえた関わり方を保護者が学ぶことができる機会作りを行う
    - ⑤ 多職種で連携しながら、きょうだい児支援も含めた保護者の多様な相談に対応できる体制作りを進める
  - (ウ) 地域支援
    - ⑥ 市町村の親子教室や発育・発達クリニックに職員を派遣し、地域の保健師と連携

して保護者の「気づき」へのアプローチや早期支援へのつながりに関与する

- ⑦ 聖隷こども家庭総合支援センターの機能を、遠隔地の利用者や家族支援につなげていくことができる体制を検討、提案する

(エ) 経営の安定化

- ⑧ 報酬改定に対応した各種加算の適正な取得と待機者解消や地域のニーズに対応した次の事業展開の計画策定を実施する（放課後等デイサービスの事業展開・春日保育園における障害児支援体制の構築等）
- ⑨ 機能強化と次の事業展開を念頭に専門職の雇用と人材確保の取組みを法人本部、奄美ブロック各施設と連携して積極的に行う

2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み

- (ア) 施設内外研修への職員派遣と、目標参画を通じた職員個々の目標管理と達成に向けた支援を充実させ、計画的かつ段階的に職員が成長できる職場風土づくりを行う
- (イ) 事業所内の業務分担表の見直しと職務権限表を新たに作成し、次世代のリーダーが現場で自信をもって判断できる環境づくりを行う
- (ウ) 導入した障害福祉サービス請求記録システムの活用とネット環境整備を更に推し進め、業務の効率化と負担軽減、オンラインによる他機関、他地域との連携体制を強化し、職員の働きがいとサービスの向上につなげる
- (エ) ワークライフバランスの推進に取り組む（超過勤務削減、有給消化率の向上）

3. 地域交流と地域貢献

- (ア) 地域向け親子教室を毎月開催し、子育て支援、保護者の交流促進、療育施設を知ってもらう取り組みを行う（公益的な取り組み）
- (イ) 地域の視察研修や公開療育・福祉体験・実習受け入れや関係機関との情報交換会を行い、療育支援についての理解を広める活動を行う
- (ウ) 発達障害児とその家族の災害時における避難場所として活用できるように、災害対策用備蓄品の整備と環境整備に取り組む

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	20名		10名		
利用者延べ人数	3,929名	45名	2,465名	186名	132名
一日平均利用者	16.10名	0.19名	10.30名		
稼働率	80.50%		102.97%		
稼働日数（延べ）	239日	239日	239日		
単価（一人1日当り）	14,989円	13,233円	10,598円	16,191円	14,628円
サービス活動収益	58,891千円	595千円	26,122千円	3,012千円	1,931千円
職員数	10.5名	0.1名	5.5名	0.9名	

# 聖隷かがやき

児童発達支援センター 放課後等デイサービス 相談支援

2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、これまで中止や延期していた活動など再び実施する中で、新たなスタイルでの人と人との「つながり」を再構築し利用者にとって安心・安全な施設利用の提供ができた年だった。

2024年度は第7期障害福祉計画、第3期子ども療育計画の計画策定の年となり、また、児童福祉法、報酬改定の改正など制度の大きな変化への対応に児童発達支援センターとしての役割が大きく求められてくる。特に地域における中核的な役割として質の高い支援提供の推進や地域支援など、社会の変化に伴うよりきめ細やかな対応が必須となってくる。これらの事を踏まえて、これまで培ってきた支援に加え専門職の人材の確保による支援提供、また、聖隷こども家庭総合支援センターとの連携など、幅広く他機関との連携を深め対応することで、地域のニーズに応え、頼られる支援施設を目指していきたい。その為にも、職員の働きやすい環境整備として、健康経営に努め一人ひとりのワークライフバランスを推進し、職場でも地域でも「その人らしく」を大切にすることで、仕事へのやりがいを持ち、利用者に支援として大きく貢献できるように人材育成に取り組んでいく。

## 【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や成長の発達につまずきのある子どもの支援～

## 【経営方針】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化
2. 職員の働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み
3. 地域における公益的な取り組み

## 【事業・運営計画】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

### (ア) 子ども支援

- ① 年齢や特性に即した個別支援計画を作成し、丁寧な個別、集団支援を基本とした療育を行う
- ② 5領域における総合的な支援において、発達段階での一人ひとりの子どもの状態に合わせた課題を抽出して、保護者と共に共有し支援する
- ③ 家庭・保育所・学校との連携を軸に適切な支援、関わりを持てるように保育所等訪問を充実させ地域での支援の共有を図り、インクルージョンの推進に努める

### (イ) 家族支援

- ① 兄弟や親子関係など家族状況、家庭の環境も視野に入れたアセスメントを行い、心理面のサポートの取り組みや保護者同士の仲間作りと子育て支援として、年1回のペア

レントプログラムを実施する

- ② 保護者会活動での勉強会、交流の場の提供により、横のつながりを深め、地域で安心して暮らし、保護者が安心できる子育てができるよう支援する

(ウ) 地域支援

- ①地域の保育力向上に向けて保育所、幼稚園向けの公開療育の実施、学校関係向けの施設見学による福祉と教育の連携強化を継続して行う
- ②困り感のある、子ども、保護者の為の早期気づきにつながる「遊びの広場」の提供を行政と連携し実施する

(エ) 経営の安定化

- ①家族のニーズ、状況に応じた支援の加算に取り組み（家庭連携加算、事業所内相談支援加算）経営の安定化につなげる
- ②関係機関との連携を深め、健診後のフォロー体制の構築による待機児解消に努める
- ③人材獲得に努め、稼働率を向上させる

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

- (ア) 健康経営に努め、ケアカルテでの業務の効率化、負担軽減を図り、超勤時間の削減や働きやすい環境作りを整える
- (イ) 専門職としての質の向上のため資格取得の講習受講、勉強会、研修参加を促進する
- (ウ) 職員 1 人ひとりが主体性を持った業務への取り組みができるよう支援し、「やりがい」を感じモチベーションの向上を図る

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 施設開放による子育て相談や親子あそびの場の提供を行い療育施設の理解を広げる
- (イ) 地域における災害時、非常時の相互支援体制を整え、実践する
- (ウ) 福祉体験学習や専門学校等の実習生を受け入れ、将来の福祉人材として次世代の育成に寄与する

【数値目標】

	児童発達 支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利用者定員	20名		10名		
利用者延べ人数	3,929名	45名	2,465名	186名	132名
一日平均利用者数	16.10名	0.19名	10.30名		
稼働率	80.50%		102.97%		
稼働日数（延べ）	239日	239日	239日		
単価（一人一日当たり）	14,989円	13,233円	10,598円	16,191円	14,628円
サービス活動収益	58,891千円	595千円	26,122千円	3,012千円	1,931千円
常勤換算職員数	10.5名	0.1名	5.5名	0.9名	0.3名

# 法人本部

新型コロナウイルス感染症第5類への移行や急激な物価高騰、診療・介護・障害福祉サービス報酬改定と事業環境は大きく変化している。2024年度は医療と福祉の連携強化、聖隷DXの更なる推進、人材の確保等に取り組む、直面する課題やニーズに着実に対応する。総務では稟議書の申請・管理業務の電子化、次期人事・給与システムの更新の検討開始、情報システムではインターネット環境の更新、情報セキュリティの強化をする。また、2023年に導入したSEIREIアプリの普及を更に促進する。採用競争力の強化と多様な人材が働きやすく活躍できる環境を再構築する。大規模法人の強みを生かす為ブランディング施策の強化やコンプライアンスの徹底を行う。事業部・施設への支援体制強化としてシェアードサービスセンターの施設管理業務の拡充、投資計画（建替え、大規模修繕）の策定を行う。内部監査での精度向上に努める。「聖隷みらい創造プロジェクト」は継続し2030年のあるべき姿の実現の為の準備を進める。

1. 社会福祉法人として最高の質を追求した事業を展開する
2. 人材の確保と育成を推進する
3. 大規模広域法人としての強みを活かした仕組化を推進する
4. 聖隷DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する
5. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する
6. 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

各部は、次の年度事業目標（重点施策）を策定する。

## [総務部]

1. 地域における公益的な取組等を適切かつ積極的に情報開示する
2. 環境に配慮した事業運営施策を検討および実行する
3. 法律理解、制度理解を深める勉強会を開催する
4. 総務業務に関するスキルアップ研修会を開催する
5. 稟議書の申請・管理業務を電子化する
6. 人事・給与システムの更新の方向性を決定する
7. 奄美地区へ企業型確定拠出年金制度を導入する
8. 企業型確定拠出年金制度への加入者率30%を達成する
9. 両立支援施策の拡充を検討する

## [人事企画部]

1. 多様な人材・必要な人材を採用する
2. 多様な人材が活躍できるよう育成を行う
3. 職員が働きやすい環境づくりと配置を実現する
4. 採用・育成に関する業務のDXを推進する

[財務部]

1. BS 経営、CF 経営の推進による事業団経営管理機能の強化
2. 経理業務の集約化・DX 推進による業務効率化
3. 経理職員の育成
4. 災害対策への取り組み

[総合情報システム部]

1. 情報セキュリティ強化とオンラインコミュニケーションツールの利用拡大
2. 情報部門に必要とされる人材の確保と育成
3. 将来の情報部門の在り方検討と人材の最適配置
4. 事業団各事業部におけるシステム導入支援
5. ICT を活用した情報基盤の整備と聖隷 DX の推進

[総合企画室]

1. 将来を見据えた事業計画・組織改革を実施する
2. 経営支援の実践を通して、支援先事業の運営を支える
3. 大規模社会福祉法人として模範となる秘書広報活動を実践する

[健康推進室]

1. 職員の安全と健康を確保
2. 重症化予防
3. メンタルヘルス推進施策の実行

[監査室]

1. 内部監査の精度を向上させる
2. 内部通報制度を充実させる
3. コンプライアンス経営に資する教育活動を実施する

[シェアードサービスセンター]

1. 労務管理のスペシャリストを育成する
2. 施設管理担当者の育成を行う
3. 業務集約の先発部署として効率化、業務標準化を行う
4. 労務業務の集約を進める
5. 施設管理業務の集約を検討する
6. 在宅・福祉関東、関西ブロックにおける施設管理業務体制を向上する
7. 労務業務を精査し、ペーパーレス化・業務効率化をさらに進める
8. 公用車の管理方法のさらなる効率化の検討をする
9. 集約化により質・生産性を向上する